

令和4年度

事業報告書

施設一覧

施設等名	郵便番号	住所	電話番号	FAX
日本赤十字社岩手県支部	020-0831	盛岡市三本柳6-1-10	019-638-3610	019-638-3619
盛岡赤十字病院	020-8560	盛岡市三本柳6-1-1	019-637-3111	019-637-3801
岩手県赤十字血液センター	020-0831	盛岡市三本柳6-1-6	019-637-7200	019-637-4371
岩手県赤十字血液センター 盛岡大通り出張所	020-0022	盛岡市大通二丁目3-7 (「CT33」4F)	019-653-6511	019-653-6558
岩手県赤十字血液センター 奥州供給出張所	023-0062	奥州市水沢字小石田66-4	0197-47-4827	0197-47-4874
日赤岩手乳児院	020-0831	盛岡市三本柳6-1-10	019-614-0821	019-907-3612
特別養護老人ホーム 日赤鶯鳴荘	020-0573	岩手郡雫石町南畑第32地割15-30	019-695-2131	019-695-2576
本社	105-8521	東京都港区芝大門一丁目1-3	03-3438-1311	—



Mission statement



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

- 1979年 (昭 54) 愛の手で世界を結ぶ赤十字
- 1980年 (昭 55) 赤十字:みんなのためにどこにでも
- 1981年 (昭 56) あなたとともに赤十字
- 1982年 (昭 57) あなたの身近に赤十字
- 1983年 (昭 58) とっさの手当てが命を守る! 覚えよう救急法
- 1984年 (昭 59) 人道を通じて平和へ
- 1985年 (昭 60) あなたの若さを一赤十字
- 1986年 (昭 61) いのちを救う愛の献血一赤十字
- 1987年 (昭 62) 幼い生命に愛の手を一赤十字
- 1988年 (昭 63) 伝統を明日への力に一赤十字
- 1989年 (平 元) 愛の手を世界に広げる赤十字
- 1990年 (平 2) 守ろう! 人のいのちと尊さを
- 1991年 (平 3) 救おう! 災禍にあえぐ人々を
- 1992年 (平 4) 災害に備えて守る尊い生命一赤十字
- 1993年 (平 5) すべての人々に人間の尊厳を
- 1994年 (平 6) すべての人々に人間の尊厳を
- 1995年 (平 7) すべての人々に人間の尊厳を
- 1996年 (平 8) すべての人々に人間の尊厳を
- 1997年 (平 9) すべての人々に人間の尊厳を
- 1998年 (平 10) すべての人々に人間の尊厳を
- 1999年 (平 11) すべての人々に人間の尊厳を
- 2000年 (平 12) すべての人々に人間の尊厳を
- 2001年 (平 13) 人道は限りない力
- 2002年 (平 14) 人道は限りない力
- 2003年 (平 15) 人道は限りない力
- 2004年 (平 16) 守ろう人間の尊さを
- 2005年 (平 17) 守ろう人間の尊さを
- 2006年 (平 18) 守ろう人間の尊さを
- 2007年 (平 19) 守ろう人間の尊さを
- 2008年 (平 20) 人間を救うのは、人間だ。
- 2009年 (平 21) 人間を救うのは、人間だ。
- 2010年 (平 22) 人間を救うのは、人間だ。
- 2011年 (平 23) 人間を救うのは、人間だ。
- 2012年 (平 24) 人間を救うのは、人間だ。
- 2013年 (平 25) 人間を救うのは、人間だ。
- 2014年 (平 26) 人間を救うのは、人間だ。
- 2015年 (平 27) 人間を救うのは、人間だ。
- 2016年 (平 28) 人間を救うのは、人間だ。
- 2017年 (平 29) 人間を救うのは、人間だ。
- 2018年 (平 30) 人間を救うのは、人間だ。
- 2019年 (平 31) 人間を救うのは、人間だ。
- 2020年 (令 2) 人間を救うのは、人間だ。
- 2021年 (令 3) 人間を救うのは、人間だ。
- 2022年 (令 4) 人間を救うのは、人間だ。
- 2023年 (令 5) 人間を救うのは、人間だ。

目 次

令和4年度の各施設の主要事業及び行事について	1
1 災害救護	2
(1) 救護活動	2
(2) 救護員育成	2
(3) 救護員の登録・編成状況	4
(4) 救護資材の整備状況	5
(5) 救援物資の整備状況	7
(6) 防災ボランティア・個人ボランティア養成状況	9
(7) 災害義援金の受付状況	10
(8) 防災減災の取組	11
(9) 復興支援活動	12
(10) 臨時救護	13
2 救急法等の講習	14
(1) 各講習の活動概要	14
3 赤十字奉仕団・ボランティア活動	24
(1) 活動概要	24
(2) 奉仕団等編成・人数等	24
(3) 会議・研修・訓練	27
4 青少年赤十字	28
(1) 本社主催事業	28
(2) ブロック主催事業	28
(3) 支部主催事業	29
(4) 研究推進指定校	29
5 国際活動	33
(1) 全社の活動概要	33
(2) 支部の職員派遣	34
(3) 海外救援金受付状況	34
6 医療事業・血液事業・社会福祉事業	36
(1) 医療事業	36
(2) 血液事業	40
(3) 社会福祉事業	51
7 赤十字思想の普及・広報	56
(1) 赤十字思想の普及啓発	56
8 会員・活動資金	61
(1) 会員・社資概要	61
(2) 遺贈・相続財産寄付の推進	63
(3) 個人・企業とのパートナーシップ推進	64
(4) 表彰概要	65
9 有功会の育成及び活動	67
10 評議員会の開催	68
11 決算概要	70

付 録

○ 日本赤十字社岩手県支部現勢	72
○ 日本赤十字社岩手県支部組織図	73
○ 各施設等の職員数	73
○ 各施設の幹部職員	74
○ 岩手県支部のあゆみ	75
○ 日本赤十字社現勢	95
○ 用語解説	96
○ 赤十字標語一覧	96

はじめに

赤十字事業の推進につきましては、平素から県民の皆様並びに地区・分区をはじめとする関係者の皆様から深い御理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和4年度の新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数は、全国的に8月と1月に増加が見られたものの2月以降は減少に転じ、令和5年3月13日以降は基本的な感染対策のうちマスク着用については個人の判断に委ねることになりました。

このような状況の中で岩手県支部の各施設は、事業の一部取り止めはありましたが、感染症対策を徹底しつつ、様々な工夫を凝らしながら、本来の事業を着実に実施して参りました。

支部事業につきましては、岩手県及び第1ブロック（北海道・東北）支部内において、本県の医療救護班の派遣が必要となる災害は幸いに発生しませんでした。8月に発生した大雨災害では、青森県支部管内で一時3,000人以上の避難者があり、当支部からも救援物資の配送を行いました。

また、広く県民に対して赤十字事業の理解と協力を求めるため、管内全施設が参加した「赤十字ふれあいフェスティバル」を3年ぶりに開催いたしました。

医療事業につきましては、信頼される医療を提供し、地域医療支援病院として医療・介護・福祉の連携に努めるとともに、救急医療および災害救護に貢献できる体制の整備を進めて参りました。

また、新型コロナウイルス感染症に対しては、第7波、第8波の感染拡大がありましたが、24時間体制の発熱外来診療を維持し、陽性者の受け入れと治療を行うとともに、地域住民へのワクチン接種も継続して実施しました。

血液事業につきましては、広域事業運営体制の下、医療機関の需要動向を把握し、より安全な血液製剤を安定的に供給するため献血推進に努めて参りました。

岩手県作成のパンフレットを活用した献血協力者や献血協力団体の確保に努めたほか、献血カードがアプリ化され配信されたことで、献血がもっと手軽になりました。これにより、献血の予約は多くの方の協力が得られ、献血会場の混雑の軽減、安全な献血に寄与しました。

乳児院につきましては、身心ともに健やかに成長できる養育の場の提供に努めるとともに、新社会的養護の推進のため、家庭支援専門相談員と里親支援専門相談員が一体となり、早期の家庭引取や円滑な里親委託に重点を置いて取り組みました。

鶯鳴荘につきましては、新型コロナウイルス感染対策を最優先事項として取り組みました。

また、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じた介護支援に努め、医療的ケアのニーズが高まってきたこともあり、看護職と介護職の職種間協働を図ってきました。

一層、地域と積極的に交流をし、地域における福祉の拠点を目指してまいります。

今後とも、関係各位の一層の御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和5年5月16日

日本赤十字社岩手県支部
支部長 達 増 拓 也

令和4年度の各施設の主要事業及び行事について

月	日	内 容
5月	1日	赤十字創立記念日・岩手日報に赤十字運動月間に関する全面広告掲載
	9日	青少年赤十字岩手県指導者協議会理事会・総会（支部会議室）
	19日	全国赤十字大会参加（東京：明治神宮）
6月	3日	岩手県支部監査委員監査（血液センター研修室）
	6日	新規登録救護員任命式（病院記念講堂）
	20日	第1回評議員会（盛岡市エスポワールいわて）
7月	1日～31日	愛の血液助け合い運動月間
	7日	高文連JRC委員会生徒大会（花巻生涯学習センター）
	22日	有功会連合会総会（支部会議室）
	26日～28日	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターがコロナ禍により中止
	28日～29日	岩手DMAT隊員養成研修（矢巾町岩手医大）
8月	1日～9月11日	コロナ禍のため赤十字病院A3病棟を閉鎖し人員をコロナ病棟に配置して対応
	10日・25日	8月の大雨災害に対して青森県支部へ救援物資配送
	23日	支部職員、ボランティア災害救護訓練（支部救援センター・北上川河川敷）
9月	1日	次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー（北上市ブランニュー北上）
	9日	岩手県支部有功会感謝の集い（盛岡市サンセール盛岡）
10月	9日	赤十字ふれあいフェスティバル（北上市江釣子ショッピングセンターパル）
	11日～12日	第1ブロック支部事務局長会議（支部会議室）
	12日	鈴木副社長と管内施設長との意見交換会（支部会議室）
	12日	日本赤十字社病院長連盟総会（八幡平市安比グランド）
	14日	高文連JRC委員会活動発表会（支部会議室）
	14日	管内施設合同災害救護訓練（支部会議室・救援センター）
	16日	赤十字ふれあいフェスティバル（盛岡市前潟イオン）
11月	11日～12日	第1ブロック支部合同災害救護訓練（石巻市）コロナ禍により中止
	14日	青少年赤十字活動事例発表研究会（盛岡市サンセール盛岡）
	15日～16日	病院機能評価訪問審査
	22日	管内施設職員合同研修～講師：県復興防災部職員（血液センター研修室）
12月	3日～25日	クリスマス献血キャンペーン
1月	1日～2月末	はたちの献血キャンペーン
	11日～14日	日本DMAT隊員養成研修（兵庫県災害医療センター）
	13日	岩手DMATロジスティクス研修（矢巾町岩手医大）
	20日	岩手県献血推進協議会（盛岡市県高校教育会館）
2月	1日	日本災害医療ロジスティクス研修（八幡平市焼走り）
	4日～14日	バレンタイン献血キャンペーン
	7日～16日	合同採用1・2年目職員フォローアップ研修（血液センター・乳児院・鶯鳴荘）
	9日	明治安田生命と連携協定締結式（支部会議室）
	13日	第2回評議員会（盛岡市エスポワールいわて）
	21日	次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー（盛岡市サンセール盛岡）
	27日	管内施設職員対象メンタルヘルス研修（病院記念講堂）
3月	2日	赤十字奉仕団委員長会議（盛岡市ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング）

1 災害救護

災害救護は、赤十字の重要な使命であり不測の災害に迅速に対応するため、盛岡赤十字病院に医師、看護師、主事等からなる常備救護班 8 班を置くとともに、発災直後の超急性期に活動する災害派遣医療チーム (DMAT)を育成し更なる救護体制の強化に努めた。

第 1 ブロック支部合同災害救護訓練は、毎年第 1 ブロック支部(北海道・東北)で開催地を持ち回りで行っているが、4 年度は宮城県での開催であったが、コロナウイルス感染が拡大し、会場となる石巻赤十字病院もコロナウイルス感染症対応により訓練開催は難しく 5 年度に延期された。開催は延期とされたが、10 月には管内施設災害救護訓練で、第 1 ブロック支部合同災害救護訓練に向けて災害救護時の基礎である知識と技術を確認した。

4 年度は、県内及び第1ブロック支部内に医療救護班派遣となる災害が無かったが、7 月と 8 月の大雨災害への対応を行い、第 1 次救護体制をしき、県内やブロック内の被害状況の情報収集を行った。8 月の大雨災害では、日本海側の被害が多く、青森県支部では一時 3000 人以上の避難者があり、救援物資が不足し、本県から日赤1ブロック支部内の連携対応として物資の配送を行った。また、今後日赤 1 ブロック支部内での災害時、連携して対応できるよう、宮城県支部から物資の補充を行った。

その他、災害発生時に迅速に対応するための救護資機材等の整備に努め、災害時における自助・共助の意識向上と防災・減災を普及するため、地域住民への赤十字防災セミナー等を開催した。

(1)救護活動

令和 4 年 7 月 15 日～16 日「令和 4 年 7 月 15 日からの大雨災害」 第1次救護体制

令和 4 年 8 月 3 日～17 日「令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害」 第1次救護体制

青森県支部へ救援物資配送(緊急セット 600 個、タオルケット 400 枚)

青森県支部追加支援(毛布 1000 枚、安眠セット 200 セット、タオルケット 220 枚)

宮城県支部から岩手県支部へ補充(毛布 1000 枚)

(2)救護員育成

① 研修

(単位:人)

	主催	訓練の名称	実施日	会場	参加者数
赤十字	支部	救護員(赤十字看護師)研修 概論	5月30日	支部会議室	※コロナ感染症対応のため中止
	支部・病院	災害救護基礎研修	6月24日	支部会議室・救援センター	15
	支部・病院	災害救護基礎研修	7月15日	支部会議室・救援センター	※コロナ感染症対応のため中止
	本社	原子力災害基礎研修	7月23日～24日	福島コラッセ	1
	本社	こころのケア指導者養成研修会(本社)	11月16日～17日	本社	1
	支部・病院	災害救護基礎研修	11月25日	支部会議室・救援センター	※コロナ感染症対応のため中止

	支部・病院	災害救護基礎研修	12月16日	支部会議室・救援センター	※コロナ感染症対応のため中止
	支部	こころのケア要員研修	12月21日	支部会議室	※コロナ感染症対応のため中止
	本社	日赤災害医療コーディネート研修	1月20日	本社	1
行政・外部	DMAT事務局	第1回日本DMAT隊員養成研修	5月23日～26日	岩手医大災害時地域医療支援教育センター	スタッフとして 1
	岩手医大	岩手DMAT隊員養成研修	7月28日～29日	岩手医大災害時地域医療支援教育センター	スタッフとして 1
	岩手県	災害医療コーディネーター養成研修	12月4日	岩手医大災害時地域医療支援教育センター	スタッフとして 1
	DMAT事務局	東北ブロックDMAT技能維持研修	12月18日	仙台国際センター	6
	DMAT事務局	日本DMAT隊員養成研修(西日本)	R5年1月11日～14日	兵庫県災害医療センター 日赤兵庫県支部	スタッフとして 1
	岩手医大	岩手災害医療ロジスティクス研修	R5年1月13日	岩手医大災害時地域医療支援教育センター	3
	岩手医大	日本災害医療ロジスティクス研修	R5年2月1日～2日	岩手医大災害時地域医療支援教育センター	スタッフとして 1
	DMAT事務局	東北ブロックDMAT技能維持研修	令和5年2月28日	仙台サンプラザ	3

② 訓練

(単位:人)

	主催	訓練の名称	実施日	会場	参加者数
赤十字	支部	支部職員災害対応訓練	8月23日	盛岡市 北上川河川敷	33
	支部	管内合同災害救護訓練	10月14日	支部	26
	ブロック	日赤第1ブロック支部 合同災害救護訓練	10月10日～12日	石巻赤十字病院	※コロナ感染症対応 のため延期
	支部	救護員(赤十字看護師) 研修 災害救護訓練	11月18日	支部	※コロナ感染症対応 のため延期
行政・外部	盛岡市	盛岡市総合防災訓練	-	-	※コロナ感染症対応 のため中止
	岩手県	岩手県総合防災訓練	10月29日	陸前高田市コミュニ ティホール	8



令和4年度 管内施設合同災害救護訓練の様子

(3) 救護員の登録・編成状況(令和5年3月31日現在)

① 救護員登録状況

(単位:人)

支部・施設	班数	救護班要員(人)						血液供給要員	本部要員	計
		医師	看護師長	看護師	助産師	主事	薬剤師			
支部	-	-	-	-	-	-	-	-	11	11
盛岡赤十字病院	8	29	40	130	15	34	18	-	-	266
血液センター	-	-	-	-	-	-	-	8	4	12
日赤鶯鳴荘	-	-	-	-	-	-	-	-	17	17
計	8	29	40	130	15	34	18	8	32	306

② こころのケア指導者登録状況 (令和5年3月31日現在)

(単位:人)

支部・施設名	指導者登録者数	要員登録者 (指導者除く)
支部	3	6
盛岡赤十字病院	8	173
血液センター	0	5
日赤岩手乳児院	0	5
日赤鶯鳴荘	0	6
計	11	195

(4) 救護資機材の整備状況

近い将来、高い確率で発生が予想されている南海トラフ地震、首都直下地震等の地震災害や近年相次ぐ局地的な豪雨災害等に備え、救護資材等の強化を行った。

① 令和4年度新たに整備・更新

品名	数量	用途
地区分区災害救援車設置	花巻市1台	地区分区の事務担当者の業務遂行
移動型リチウムイオン蓄電池(大)	2台	災害時停電等に対応(本社財源整備)
移動型リチウムイオン蓄電池(小)	3台	災害時救護班医療活動に対応(本社財源整備)
現地災害対策本部用プリンタ	1台	災害対策本部での資料等の準備
救援物資輸送用トラック	1台	救護班の災害診療記録などのコピー等
応急救護所用石油ストーブ	7台	救護所の他、受付やトリアージに使用
救護班用非常食更新		救護班要員の活動のため
無線基地局バッテリー更新		無線の確保



災害救護救援物資輸送用トラック



災害救援車

平野事務局長 花巻市地区長(上田市市長)

② 救護装備及び資機材の整備状況

品名	数量	品名	数量
災害救援車	支部 9台	災害用移動炊飯器	支部 4台
	地区分区 49台		地区分区 79台
アマチュア無線局	固定局 1局	救護服 夏用	105着
	移動局 3局	救護服 冬用	120着
業務用無線局 150MHZ	基地局 1局	救護服 メッシュタイプ	35着
	陸上移動局 35局	救護員用ベスト	90着
業務用無線局 400MHZ	基地局 1局	ヘルメット	65個
	陸上移動局 15局	雨具	59着
天幕(組み立て式テント)	8張	防寒具	68着
エアーテント(大)	4張	編上靴	85足
エアーテント(中)	1張	救護員用シャツ	134着
大型テント(ドラッシュ)	2張(大・小)	ノート型パソコン	病院1支部2
クイックテント	4張	プロジェクター	1台
自動体外式除細動器 AED	3台	床置スクリーン	1台

浄水機	2 台	救護員用バッグ	50 個
医療セット置台	3 セット	ワンショルダーバッグ	30 個
スクープストレッチャー	2 台	ヒップバッグ	30 個
担架	35 台	臨場バインダー	15 個
ワンタッチパーテーション	283 台	二段式簡易ベッド	6 台
発電機	21 機	医用テレメーター	1 台
ドラムコードリール	16 巻	トリアージシート	1 セット
投光機(ライトボーイ)	1 機	自吸式エアー担架	20 個
投光器(dERU 資材)	2	医療セット	3 セット
ノーパンク折畳自転車	2 台	携帯型医療セット	1 セット
大型扇風機	5 台	折りたたみ寝台(木製)	78 台
ジェットヒーター	6 台	簡易ベッド(ステンレス製)	25 台
多目的テント	61 台	防災ボランティアユニフォーム	20 着
除雪機	2 台	防災ボランティアビブス(黄)	300 枚
パルスオキシメーター	5 台	トイレ用テント	3 張
折り畳み式ホワイトボード	3 台	携帯トイレ	3,000 個
記録用カメラ	1 台	トイレキット	3,000 枚
衛星携帯電話	支部 4	本部用マイクセット	1 台
	病院 3	救護班用血圧計	6 台
	血液センター2	屋内用テント(ひなんルーム)	300 張
	鶯鳴荘 1	救護所用パーテーション	6 台
災害用 Wi-Fi ルーター	2 台	タブレット・プロジェクター	各 1 台
災害用スマートフォン	2 台	dERU 国内型緊急対応ユニット	1 台
現地災害対策本部用プリンタ	2 台	救護班用拡声器	1 台
ソーラーパネル 蓄電池	4 台 パネル 8 枚	災害用携帯電話 更新	1 台
救護班車載用プリンタ	1 台	災害救護(臨時救護)用バッグ	2 個
自動ラップ式トイレ	10 台	移動型リチウムイオン蓄電池(大)	2 台
応急救護所用石油ストーブ	7 台	移動型リチウムイオン蓄電池(小)	3 台



リチウムイオン電池 蓄電池 大



避難所用パーテーション・屋内用テント

(5) 救援物資の整備状況

支部及び地区分区配備の災害救援車の更新、救援物資の整備を行い、水害、火災、雪害等により被災された方々に救援物資等の配布を行った。

① 救援物資の備蓄

救援物資の種類	備蓄数	
	支部	地区分区
毛布	2,480	2,168
緊急セット	900	883
バスタオル	1,859	2,172
タオルケット	1,379	-
安眠セット	1,312	303
ワンタッチパーテーション	283	-
多目的テント	61	-
屋内用テント	300	-
段ボールベッド(楽天イーグルス提供)	99	-



毛布



バスタオル



緊急セット



安眠セット



救援センター内備蓄の様子

② 救援物資の被災者への配布状況と在庫状況(地区区分毎)

地区区分	毛布		緊急セット		バスタオル		タオル ケット	安眠セ ット	救援車	弔慰金 支払金 額
	配布数	在庫数	配布数	在庫数	配布数	在庫数				
盛岡市	6	62	3	26	8	107	0	0	2	30,000
釜石市	3	58	2	47	1	58	0	0	1	10,000
宮古市	4	244	2	56	4	312	0	0	3	10,000
一関市	17	102	6	68	18	72	0	0	4	30,000
大船渡市	0	156	0	99	0	342	0	0	2	20,000
奥州市	37	356	8	31	20	65	0	0	5	0
花巻市	6	59	3	60	5	58	0	0	3	10,000
北上市	4	15	1	12	4	12	0	0	1	0
久慈市	7	282	4	98	7	370	0	198	1	0
遠野市	2	27	1	16	2	27	0	0	1	0
陸前高田市	0	114	0	44	0	70	0	0	1	0
二戸市	2	148	2	30	2	120	0	0	2	0
八幡平市	0	19	0	16	0	49	0	0	3	0
滝沢市	0	9	0	2	0	10	0	0	1	0
雫石町	0	3	0	5	0	14	0	0	0	30,000
葛巻町	1	2	1	4	1	22	0	0	0	0
岩手町	0	14	0	11	0	13	0	0	1	0
紫波町	5	11	2	6	5	9	0	0	1	0
矢巾町	14	198	1	16	2	96	0	0	1	0
西和賀町	0	14	0	12	0	22	0	0	2	0
金ヶ崎町	0	18	0	7	0	10	0	0	1	0
平泉町	7	10	0	10	0	21	0	0	1	0
住田町	0	9	0	11	0	9	0	50	1	0
大槌町	0	11	0	11	0	19	0	0	1	0
山田町	0	1	0	48	0	52	0	53	1	0
岩泉町	0	13	0	9	0	13	0	0	1	10,000
田野畑村	0	0	0	24	0	0	0	0	1	0
洋野町	0	26	0	10	0	20	0	0	2	0
野田村	0	39	0	6	0	29	0	2	1	0
普代村	0	100	0	60	0	100	0	0	1	0
一戸町	0	17	0	8	0	17	0	0	1	0
軽米町	0	13	0	8	0	13	0	0	1	0
九戸村	0	18	0	12	0	21	0	0	1	0
小計	115	2,168	36	883	79	2,172	0	303	49	0
岩手県支部		2,480		900		1,859	1,379	1,312	8	
合計	115	4,648	36	1,783	79	4,031	1,379	1,615	57	150,000

(6) 防災ボランティア・個人ボランティア養成状況

災害時に救援物資の輸送・配分、炊出し、避難所の支援など赤十字の災害時の支援活動に携わる方の防災ボランティア登録を行い研修や訓練等を実施している。

4年度はコロナウイルス感染予防対策を行いながら、養成研修・ボランティア研修、災害救護訓練を行った。防災ボランティア(養成)研修は、支部職員の災害対応訓練と同時開催とし、救護班派遣時に帯同し現地にて救護所を設営するという訓練を北上川河川敷にて実施した。連絡網(昨年登録したLINE登録やメールアドレス)にて参集、現地での救護所の設営、炊き出し等の訓練を実施した。

防災ボランティア支援班については、管内合同災害救護訓練に参加し、傷病者搬送や救護所設営等の訓練を行った。

地域の絆ボランティアは、地域奉仕団が無い地域等で、ボランティアをしたいという方々の受け皿として募集し、登録いただいた方対象に養成研修を実施した。自分の身近な地域で活動していただくことを期待している。

① 研修・訓練

(単位:人)

主催	訓練の名称	実施日	会場	ボランティア参加者数
支部	支部職員災害対応訓練	8月23日	盛岡市 北上川河川敷	22
支部	管内合同災害救護訓練	10月14日	支部	6
支部	地域の絆ボランティア研修	6月18日	支部	4
支部	防災ボランティア研修・養成研修	8月23日	支部	31
支部	防災ボランティア養成研修	8月23日	支部	3

② 防災ボランティア登録者数(地域別)

(単位:人)

地域別	リーダー	地区リーダー	ボランティア	合計
盛岡市	1	0	17	18
花巻市	1	0	3	4
矢巾町	0	0	0	0
奥州市	1	0	4	5
一関市	0	0	1	1
大船渡市	0	1	0	1
陸前高田市	0	0	1	1
釜石市	1	2	1	4
八幡平市	1	0	3	4
二戸市	0	0	1	1
宮古市	0	0	4	4
滝沢市	0	0	2	2
大槌町	1	0	2	3
雫石町	0	0	2	2
その他	0	0	1	1
合計	6	3	42	51

③ 地域の絆ボランティア登録者数(地域別)

地域別	個人ボランティア(人)
盛岡市	9
紫波町	3
矢巾町	1
奥州市	1
花巻市	1
平泉町	1
一関市	1
合計	17

(7) 災害義援金の受付状況

岩手県が被災地となる災害は発生しなかったが、令和4年8月3日からの大雨による災害により被害を受けた被災地の方々に対する義援金が寄せられた。

(令和5年3月31日現在)

	義援金名	受付期間	件数(件)	金額(円)
1	令和4年8月3日からの大雨災害義援金	R4.8.12~R5.3.31	1	5,000
	合計		1	5,000



令和4年8月3日からの大雨災害における青森県支部に対する救援物資配送の様子

(8) 防災・減災の取組

東日本大震災などの過去の災害から学んだ知識や教訓を今後の備えとして多くの県民に広めるため地域住民や学校を対象に「赤十字防災セミナー」を開催した。赤十字講習と同様にコロナ感染対策を講じながら、実施した。

防災セミナーの実施場所と参加者数

(単位:人)

期 日	区分	場 所	内 容	参加者
8/24	共通プログラム	八幡平市立西根中学校(体育館)	災害への備え	64
9/3	共通プログラム	住田町農林会館	災害への備え	32
11/29	共通プログラム	盛岡市立桜城児童・老人福祉センター	災害への備え	19
R5 1/30	支部独自	八幡平市立西根中学校 (調理実習室)	災害食作り、防災ポーチづくり に向けたワークショップ	25
1/31	支部独自	二戸中央コミュニティセンター 「にこランス」	災害への備え、災害食作り	21
2/24	支部独自	盛岡医療看護大学校	赤十字の災害対応、こころの ケア	32
赤十字防災セミナー3回 支部独自セミナー3回				193



防災セミナーの様子

(9) 復興支援活動

平成 31 年 3 月に海外救援金を使用した復興支援事業「ノルディック・ウォーキングとこころのケア」による仮設住宅訪問は終了したが、その後、奉仕団による「ふれあい交流会」として公営住宅等の訪問を年間 15 回から 20 回継続していた。令和 4 年度は、令和 3 年度と同様にコロナ感染予防のため交流会を中止せざるを得ない奉仕団も多く、開催回数がコロナ前より大きく減少したが、感染症予防に留意しながら実施した。

① 奉仕団によるふれあい交流会

実施日	実施場所	内容	参加奉仕団、職員等	住民参加者
8/31	田老災害公営住宅(館が森)集会所	ポールを使った体操、ノルディックウォーキング、手ぬぐいの活用術(マスクケース作りなど)、看護師による血圧測定と健康診断	宮古市奉仕団員 1 名 岩手県ノルディックウォーキング奉仕団員 3 名 支部職員 3 名	12 名
9/15	陸前高田市気仙分団第一屯所	ポールを使った体操、ノルディックウォーキング、手ぬぐいの活用術(マスクケース作りなど)、看護師による血圧測定と健康診断	陸前高田市奉仕団員 7 名 岩手県ノルディックウォーキング奉仕団員 3 名 支部職員 3 名	16 名
10/26	大槌町文化交流センターおしゃっち	ポールを使った体操、ノルディックウォーキング、ラジオ体操、踊り、お楽しみ抽選会	花巻市内 4 奉仕団(花巻、大迫、石鳥谷、東和) 18 名 岩手県ノルディックウォーキング奉仕団員 2 名 支部職員 2 名	17 名
10/22	陸前高田市市民文化会館前(陸前高田市産業祭り会場内)	ひつつみのお振舞い(300 食)	遠野市奉仕団員 5 名 遠野市地区有功会員 3 名	約 300 名



赤十字奉仕団ふれあい交流会の様子

② 総合防災訓練等展示ブース出展

各地区分区分を通じて、総合防災訓練や各種イベントへ展示ブースを出展し、来場者へ赤十字事業や救援物資の紹介、救急法等のミニ講習を実施するなど広報活動を展開した。

実施日	実施場所	内容	ボランティア・職員	来場者
9/4	北上市立黒岩小学校 (北上市総合防災訓練会場)	赤十字活動パネル・救援物資展示、救急法体験、ノベルティグッズ・広報誌配付	支部職員3名	約 80 名
9/10	雫石町総合福祉センター(雫石町ボランティアフェスティバル会場)	赤十字活動パネル・救援物資展示、防災クイズ、災害食試食、ノベルティグッズ・広報誌配付	雫石町奉仕団員6名 支部職員1名	約 100 名
11/3	大槌町文化交流センターおしゃっち(大槌町防災フェスタ会場)	災害救助犬のデモンストレーション、救援物資展示、救急法体験、ノベルティグッズ・広報誌配付	安全奉仕団員2名 支部職員1名	約 80 名



展示ブースの様子

(10) 臨時救護

公的機関等から依頼を受けた全県規模の行事への救護要員の派遣を行い、不慮の事故等による傷病者の救護にあたった。令和4年度は、コロナウイルス感染予防のため各団体が行事の開催を自粛するなか行われた下記の依頼に応えた。

① 臨時救護派遣場所と派遣人数

(単位:人)

期日	行事名	場所	派遣人員	患者数	備考
6/3~5	岩手県高総体ボート競技	花巻市田瀬湖ボート場	看護師(3)	1	
6/4	岩手県障がい者スポーツ大会	岩手県営運動公園	看護師(1)	2	
7/15~17	東北高等学校選抜ボート大会	花巻市田瀬湖ボート場	看護師(3)	2	
7/26~28	岩手県青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター	国立岩手山 青年交流の家	看護師(3)		コロナ禍中止
8/30~31	第73回全日本少年野球大会	岩手県営野球場	看護師(3)	0	
9/2~4	高総体新人戦ボート競技	花巻市田瀬湖ボート場	看護師(3)	0	
11/23	第81回一関・盛岡間 駅伝競走大会	一関~北上間	医師(1) 看護師(1) 主事(1)	0	

2 救急法等の講習

地域の方々が健康で安全・安心な暮らしを送るために、人命救助の方法と具体的な知識・技術を普及するための救急法、水上安全法、健康生活支援講習、幼児安全法の講習を実施している。コロナウイルス感染拡大防止のため、基本的な感染防止対策(健康チェック、マスク着用、手指消毒、人と人の距離を取る)を講じ、一部の実技の方法を変更しながらの実施とした。

(1)各講習の活動概要

【 救急法 】

日常生活における事故防止の知識と、不慮の事故や急病に対して医師や救急隊に引き継ぐまでの手当ての方法を指導し、地域での自助共助の意識を高めるもので、赤十字救急法基礎講習と、その一部を短時間で行う短期講習を実施した。

令和4年度は基礎講習、救急員養成講習、短期講習を実施するとともに、3年ぶりに指導員養成講習を開催した。

① 救急法基礎講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数	備考
5/15、6/18、 7/10、9/4、1/25	日本赤十字社岩手県支部	88	
4/22	岩手県立大学看護学部	7	依頼対応
5/17	岩手県警察学校	36	依頼対応
6/20	岩手県警察学校	33	依頼対応
10/25	みちのく・みどり学園	9	依頼対応
11/2	国際医療福祉専門学校一関校大東校舎	19	依頼対応
11/30	盛岡ヘアメイク専門学校	20	依頼対応
12/7	盛岡ヘアメイク専門学校	19	依頼対応
12/10	まなび学園	9	指導員企画
12/14	盛岡ヘアメイク専門学校	20	依頼対応
12/21	一関修紅高等学校	13	依頼対応
2/6	北日本医療福祉専門学校	10	依頼対応
2/16	MCL 盛岡医療看護大学校	30	指導員企画
3/7	岩手県立盛岡第二高等学校	21	依頼対応
救急法基礎講習 18回		334	



救急法講習の様子

② 救急法救急員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
5/18~20	岩手県警察学校	36
6/21~23	岩手県警察学校	33
8/6~7	日赤岩手県支部	16
9/5~6	日赤岩手県支部	16
1/26~27	日赤岩手県支部	20
2/13~14	北日本医療福祉専門学校	10
救急法救急員養成講習 6回		131

③ 救急法短期講習 依頼先と受講人数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数	備考
4/2	西根高速分駐隊	17	指導員企画
4/3	岩手町地区猟友会	25	
4/5	八幡平市立安代中学校	11	
4/10	雫石町猟友会	12	
4/28	岩手県立盛岡みたけ支援学校(高等部)	15	
5/11	岩手県警察学校	15	指導員企画
5/12	㈱四門	12	
5/12	盛岡赤十字病院	40	指導員企画
5/18	北上警察署	13	指導員企画
5/18	岩手労働基準協会	39	
5/19	岩手労働基準協会	39	
5/21	滝沢市体育協会	21	
5/22	滝沢市体育協会	22	
5/27	北上市立飯豊中学校	89	
6/2	岩手県立盛岡青松支援学校(高等部)	16	
6/3	JRC 指導者研修会	9	
6/3	岩手県立盛岡青松支援学校(高等部)	10	
6/15	盛岡 YMCA	7	
6/22	岩手県警察運転免許課	40	
6/23	八幡平市立松野小学校	30	
6/23、6/24	盛岡赤十字病院	13	指導員企画
6/27	岩手県立一関第二高等学校	5	
6/29	八幡平市立田頭小学校	28	
7/1	岩手町立沼宮内小学校	14	
7/3	盛岡 YMCA	66	
7/4	盛岡市立中野小学校 PTA	35	
7/5	日赤二戸市地区	37	
7/6	八幡平市立安代中学校	21	

7/11	盛岡市立玉山小学校	11	
7/12	八幡平市体育協会	8	
7/13	日赤釜石市地区	15	
7/14	岩手労働基準協会	38	
7/15	岩手労働基準協会	39	
7/19	八幡平市立西根中学校	72	
7/24	日赤一関市地区	15	
8/1	矢巾町立矢巾北中学校	19	
8/4	日赤鶯鳴荘	18	
8/5	八幡平市立松尾中学校	8	
8/5	チームもりおか	8	
8/9	日赤鶯鳴荘	16	
8/9	遠野警察署	20	指導員企画
8/17	岩手県立盛岡みたけ支援学校二戸分教室	26	
8/18	(株)ジャパンファーム盛岡工場	16	
8/19	盛岡市東松園小学校	18	
8/23	岩手県立千厩高等技術専門校	16	
8/25	岩手労働基準協会	39	
8/26	岩手労働基準協会	38	
8/29	釜石警察署	10	指導員企画
8/30	釜石警察署	10	指導員企画
8/31	釜石警察署	10	指導員企画
9/1	釜石警察署	11	指導員企画
9/1	盛岡市立都南東小学校	22	
9/2	釜石警察署	10	指導員企画
9/5	雫石町分区	12	
9/7	特別養護老人ホーム 百寿の郷	21	
9/8	上田公民館	6	
9/13	八幡平市立松尾中学校	88	
9/14	特別養護老人ホーム 百寿の郷	24	
9/16	八幡平市立西根第一中学校	78	
9/21	特別養護老人ホーム 百寿の郷	20	
9/28	日赤鶯鳴荘	13	
10/6	花巻市学童クラブ連絡協議会	34	
10/7	日赤金ヶ崎町分区	37	
10/18	チームもりおか	6	
10/23	高田猟友会	15	
10/27	岩手県自動車教習所協会	38	
10/28	岩手県自動車教習所協会	38	
10/29	岩手県自動車教習所協会	38	

11/11	盛岡市立玉山中学校	20	
11/16	岩手労働基準協会	39	
11/17	岩手労働基準協会	39	
11/20	明治安田生命	40	
11/22	岩手県社会福祉協議会	37	
11/29	ふれあいサロン茶愛	8	指導員企画
11/30	花巻警察署	8	指導員企画
12/2	チームもりおか	3	
12/4	ボーイスカウト盛岡地区協議会	19	
12/6	岩手県社会福祉協議会	61	
12/9	岩手県立盛岡南高等学校	12	
12/15	(株)ユーテムプレシジョン東北工場	98	
1/22	釜石市地区生活応援センター	23	指導員企画
1/30	釜石市地区	8	
2/1	岩手県バス協会	22	
2/2	岩手県警察学校	18	指導員企画
2/3	チームもりおか	3	
2/8	岩手県バス協会	31	
2/15	岩手県立北上翔南高等学校	70	
2/16	岩手労働基準協会	40	
2/17	岩手労働基準協会	39	
2/19	いわて森林再生研究会	25	
2/20	岩手県立北上翔南高等学校	70	
2/21	岩手県立北上翔南高等学校	36	
3/1	岩手県バス協会	21	
3/4	(株)いんべクリーニング	20	
3/9	葛巻町立小屋瀬中学校	20	
3/16	岩手労働基準協会	39	
3/17	岩手労働基準協会	34	
3/18	共栄薬品営業本部	14	
3/30	ノースジャパン	14	
短期講習 99回		2,613	

④ 救急法 指導員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
事前研修 10/1~2	日本赤十字社岩手県支部	8
本研修 11/26~28 12/3~4		7
事後研修(新任研修)1/29		7
救急法講習 指導員養成講習 1回		7

⑤ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
基礎	18	334	
救急員養成	6	131	
短期講習	99	2,613	
指導員養成	1	7	
計	124	3,085	

【 水上安全法 】

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、応急手当などの知識と技術を指導するもので、令和4年度は水上安全法救助員養成講習の一部を短時間で行う短期講習のみ実施した。救助員養成講習については受講者同士が接触する実技が多く、実技中にマスク着用もできないため、開催を見送った。

① 水上安全法短期講習

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数	備考
4/19	盛岡市総合プール	15	短期 BLS 含
6/14	ゆびあす	19	短期 BLS 含
6/28	岩手大学教育学部附属特別支援学校	31	短期 BLS 含
7/14	滝沢市立滝沢東小学校	80	着衣
8/29	遠野市立青笹小学校	61	着衣
9/2	遠野市立土淵小学校	21	着衣
9/2	胆沢第一小学校	36	着衣
9/6	遠野市立遠野小学校	29	着衣
1/21	雫石町県営プール	5	短期 BLS 含
短期講習 9回		297	

② 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
救助員Ⅰ養成	—	—	コロナ禍にて実施せず
救助員Ⅱ養成	—	—	コロナ禍にて実施せず
短期講習	9	297	
指導員Ⅰ養成	—	—	コロナ禍にて実施せず
指導員Ⅱ養成	—	—	コロナ禍にて実施せず
計	9	297	

【 健康生活支援講習 】

健やかな高齢期を過ごすための介護・支援の知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合うボランティアの心を育み、赤十字活動に積極的に参加してもらうことを目的とした講習である。

令和4年度は健康生活支援講習支援員養成講習とその一部を短時間でを行う短期講習を実施するとともに、4年ぶりに指導員養成講習を開催した。

① 健康生活支援講習支援員養成講習の実施主体と受講者数 (単位:人)

開催日	実施主体	受講数
9/27～28	日本赤十字社岩手県支部	10
健康生活支援講習支援員養成講習 1回		10

② 健康生活支援講習 短期講習 依頼先と受講者数 (単位:人)

開催日	実施主体	受講者数	備考
5/23	一関市千厩奉仕団	30	身近な赤十字説明訪問研修会
6/25	生活クラブ生協(岩手)	18	
6/30	大船渡市奉仕団	10	身近な赤十字説明訪問研修会
7/21	金ヶ崎奉仕団	5	身近な赤十字説明訪問研修会
7/25	遠野市奉仕団	24	身近な赤十字説明訪問研修会
8/5	日本赤十字社岩手県支部+チームもりおか	9	
8/22	久慈市赤十字奉仕団	7	身近な赤十字説明訪問研修会
8/26	花泉奉仕団	47	
8/29	大槌町奉仕団	15	身近な赤十字説明訪問研修会
9/30	盛岡ゆうゆう大学	15	
10/3	生活クラブ生協・岩手盛岡	24	
10/4	JRC 岩手県指導者協議会	3	
10/17	金ヶ崎奉仕団	25	身近な赤十字 奉仕団サロン
10/18	日本赤十字社岩手県支部+チームもりおか	6	
10/18	生活クラブ生協・岩手盛岡	12	
10/31	金ヶ崎奉仕団	14	身近な赤十字 奉仕団サロン
11/14	盛岡奉仕団	11	身近な赤十字 奉仕団サロン
11/20	明治安田生命保険相互会社盛岡支社	40	
12/2	日本赤十字社岩手県支部+チームもりおか	3	
12/13	桜城地区(盛岡市地区)	17	
12/19	八幡平市奉仕団	10	身近な赤十字説明訪問研修会
12/22	一関市川崎奉仕団	7	身近な赤十字説明訪問研修会
1/24	日赤奥州市有功会	16	
2/3	日本赤十字社岩手県支部+チームもりおか	3	
2/8	花巻市奉仕団	37	身近な赤十字説明訪問研修会
2/24	盛岡看護医療大学校 看護学科	32	
3/15	北上市赤十字奉仕団	18	身近な赤十字説明訪問研修会
短期講習 27回		458	

③ 健康生活支援講習 指導員養成講習の実施主体と受講者数 (単位:人)

開催日	実施主体	受講数
事前研修 11/8	日本赤十字社岩手県支部	8
本研修 1/21～23 2/10～11		6
事後研修(新任研修)4/11		6
健康生活支援講習 指導員養成講習 1回		6

④ 講習種別ごと実施回数と受講者数 (単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
支援員養成	1	10	
短期講習	27	458	
指導員養成	1	6	
計	29	474	



健康生活支援講習の様子

【 幼児安全法講習 】

幼児期に起こりやすい事故の予防及び手当ての実際、かかりやすい病気と看病の仕方などの知識と技術指導を目的とした講習を実施するもので、令和4年度は幼児安全法支援員養成講習とその一部を短時間でいう短期講習を実施した。

① 幼児安全法 支援員養成講習の実施主体と受講者数 (単位:人)

開催日	実施主体	受講数
10/7～8	日本赤十字社岩手県支部	8
7/15～16	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	15
7/25～26	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	18
3/6～7	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	17
3/11～12	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	16
幼児安全法 支援員養成講習 5回		74

② 幼児安全法短期講習 依頼先と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講者数	備考
4/2、4/5、4/6、4/7、4/8	天昌寺保育園	29	指導員企画
5/26	ニチイキッズ北上本通り保育園	12	指導員企画
5/30	日赤岩手乳児院	8	指導員企画
6/2、6/3	盛岡市ファミリーサポートセンター	11	
6/3	花巻ファミリーサポートセンター	5	
6/13、6/15	南巣子保育園	15	
6/16	きたくり保育園	25	
6/20	矢巾町ファミリーサポートセンター	9	
6/22	ぎんがの里保育園	14	
6/30	手代森保育園	16	
7/4	かまいしこども園	13	
7/8	乙部保育園	15	
7/11	田野畑村立若桐保育園	17	
7/12	滝沢市ファミリーサポートセンター	6	
7/13	日赤岩手乳児院	8	指導員企画
7/21	くりやがわ保育園	21	
7/23	久昌寺保育園	23	
8/4	田野畑村立若桐保育園	17	
8/22、8/23	釜石愛育会 小佐野保育園	9	
8/26	釜石市保健福祉部子ども課	10	
9/9	日赤岩手乳児院	8	
9/10	アイリス保育園	31	
9/13	滝沢市ファミリーサポートセンター	10	
9/26	五藤光学研究所	25	
10/1	矢巾町教育委員会事務局	24	
10/5	盛岡ファミリーサポートセンター	9	
10/18、10/20	巣子保育園	10	
10/22	虹の保育園	15	
10/25	日本赤十字社岩手県支部二戸市地区	9	
10/27	元村保育園	16	
10/29	虹の保育園	17	
11/3	大槌町防災フェスタ	80	
11/10	元村保育園	17	
11/5	虹の保育園	9	
11/20	明治安田生命保険相互会社盛岡支社	40	
12/10	宮古市社会福祉協議会	9	指導員企画
12/20	一本木保育園	8	
1/13	コープ共済連	6	

1/20、1/24、1/30、1/31	いずみ保育園	8	指導員企画
1/26	あづま幼稚園	9	
1/27	滝沢市ファミリーサポートセンター	5	
2/17	コープ共済連	10	
2/27	矢巾町ファミリーサポートセンター	11	
3/13	コープ共済連	11	
3/24	日本赤十字社岩手県支部二戸市地区	7	
短期講習 56回		687	



幼児安全法講習の様子

③ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
支援員養成	5	74	
短期講習	56	687	
指導員養成	-	-	-
計	61	761	

【 各種講習の指導員在籍状況 】

(令和5年3月31日現在)

(単位:人)

所属	救急法	水上安全法	健康生活支援	幼児安全法	雪上安全法
支部	7	1	3	2	1
赤十字病院	17	0	7	11	0
血液センター	3	1	0	0	0
乳児院	2	1	0	1	0
日赤鶯鳴荘	0	0	0	0	0
ボランティア	58	12	12	19	0
合計	87	15	22	33	1

【 指導員研修 】

(単位:人)

種別	開催日	参加者数
救急法・水上安全法指導員研修	2022.3.12、21、6.11、12.17	80
健康生活支援講習指導員研修	—	コロナ禍にて実施せず
幼児安全法指導員研修	—	コロナ禍にて実施せず

※救急法については令和4年4月の新教本改訂に合わせ、令和4年度前に開催したが、病院のコロナ対応により参加できない指導員がいたため、4年度内も複数回開催したものであること。



指導員研修の様子

3 赤十字奉仕団、ボランティア活動

(1) 活動概要

① 活動内容(地域・青年赤十字奉仕団)

【会員増強】

活動資金募集のための訪問活動、資材準備の手伝い、広報誌等発送作業などを行った。

【災害救護・防災】

炊き出し指導・訓練・研修、防災セミナー受講、義援金募集などを行った。

【福祉】

・老人・児童等福祉老人施設訪問、子ども食堂参加、障がい者病棟における衣類補修などを行った。

・身近な赤十字推進モデル奉仕団活動(一関市千厩町、盛岡市、金ケ崎町)

地域住民対象のサロンを開催し、体操やじゃんけんなどでのレクリエーション、健康生活支援講習受講、災害食の紹介、季節の行事にちなんだ飾りづくりを行った。

【献血推進運動・講習普及運動】

献血推進ショッピングセンター・スーパーなどの街頭献血における協力呼びかけ、講習普及、各種講習への参加を行った。

【その他】

赤十字奉仕団ふれあい交流会(災害復興支援活動)開催



身近な赤十字推進モデル奉仕団活動の様子

(2) 奉仕団等編成、人数等

① 奉仕団種別数及び合計団員数

種別	団数	団員数(人)		
		男	女	計
地域赤十字奉仕団	32 団	222	862	1,084
青年赤十字奉仕団	3 団	20	61	81
特殊赤十字奉仕団	14 団	439	105	544
合計	49 団	681	1,028	1,709

② 地域赤十字奉仕団

(単位:人)

奉仕団名称	委員長	団員数			活動内容					
		男	女	計	会員増強	災害救護・防災	老人・児童等福祉	献血推進	講習普及	その他
盛岡市赤十字奉仕団	柴崎 一 恵	7	17	24	○		○			○
宮古市赤十字奉仕団	金丸 久子	2	23	25			○			
大船渡市赤十字奉仕団	中村 和 司	7	18	25	○	○		○		○
花巻市花巻地区赤十字奉仕団	木村 博	2	18	20	○		○	○		○
花巻市大迫地区赤十字奉仕団	佐々木 偉 夫	8	8	16				○		○
花巻市石鳥谷地区赤十字奉仕団	南館 唱子	0	24	24				○		○
花巻市東和地区赤十字奉仕団	小田 肇	4	14	18			○			○
北上市赤十字奉仕団	菅原 洋子	0	21	21		○				○
久慈市赤十字奉仕団	畑村 由 夫	10	15	25		○		○		
遠野市赤十字奉仕団	海老糸子	0	47	47		○		○		○
一関市一関赤十字奉仕団	吉川 眞理子	7	68	75	○		○	○	○	○
一関市花泉赤十字奉仕団	佐藤 みさ子	20	33	53	○			○		○
一関市大東赤十字奉仕団	増沢 純	4	34	38	○	○		○		○
一関市千厩赤十字奉仕団	五嶋 秋子	20	59	79	○		○	○		○
一関市東山赤十字奉仕団	佐藤 千賀子	0	78	78		○	○			○
一関市室根赤十字奉仕団	小山 友子	0	23	23	○					○
一関市川崎赤十字奉仕団	三浦 千代子	5	14	19		○		○		○
陸前高田市赤十字奉仕団	菅野 トシ子	2	11	13				○		
釜石市赤十字奉仕団	中川 カヨ子	0	19	19		○	○	○		○
二戸市赤十字奉仕団	田口 和子	12	38	50	○			○		
八幡平市赤十字奉仕団	佐々木 幸 雄	19	22	41				○		○
奥州市水沢赤十字奉仕団	菅原 宏 幸	2	0	2				○		
雫石町赤十字奉仕団	中川 眞理子	0	43	43		○		○		○
矢巾町赤十字奉仕団	川原 久子	13	57	70						○
西和賀町赤十字奉仕団	照井 満	29	45	74		○				
金ヶ崎町赤十字奉仕団	氏家 富士子	8	29	37		○	○	○		
大槌町赤十字奉仕団	(欠)	0	19	19		○				○
岩泉町赤十字奉仕団	志和 謙 一	13	17	30						
田野畑村赤十字奉仕団	上村 牧子	13	17	30		○				○
野田村赤十字奉仕団	(休 団)	0	12	12						
洋野町赤十字奉仕団	猪石 悦 男	0	0	0	○		○	○		
九戸村赤十字奉仕団	若山 秀 一	6	6	12	○	○	○			
計 32団		222	862	1,084						

③ 青年赤十字奉仕団

(単位:人)

奉仕団名	委員長	団員数			活動内容					
		男	女	計	会員増強	災害救護・防災	老人・児童等福祉	献血推進	講習普及	その他
岩手大学学生赤十字奉仕団	阿部 光希	5	4	9				○		
イーハトーブ学生赤十字奉仕団	畠山 彩音	0	18	18				○		
岩手県立大学宮古短期大学部赤十字奉仕団	(不在)	15	39	54				○		
計 3団		20	61	81						

④ 特殊赤十字奉仕団

(単位:人)

奉仕団名称	委員長	団員数			主な活動内容
		男	女	計	
岩手県アマチュア無線赤十字奉仕団	中村 昌司	18	0	18	無線設備点検、通信訓練
岩手県水上安全法赤十字奉仕団	(欠)	14	2	16	水上安全法講習会指導協力
岩手県赤十字安全奉仕団	木村 博	44	60	104	救急法、幼児安全法、健康生活支援講習の講習会指導協力
岩手県青少年赤十字賛助奉仕団	佐々木壮一	67	10	77	JRC 加盟校登録式へのメッセージ送付、JRC 指導者育成協力
日赤釜石市地区赤十字安全奉仕団	佐々 隆裕	4	5	9	救急法講習会指導協力
久慈ライフセービング赤十字奉仕団	久慈 剛史	34	2	36	着衣泳指導、海水浴場監視
胆沢スキーパトロール赤十字奉仕団	(休 団)	0	0	0	
むろね山岳赤十字奉仕団	小山 一成	14	0	14	山開き行事参加
大船渡ライフセービング赤十字奉仕団	(休 団)	0	0	0	
岩手県赤十字バイク奉仕団	田中 清也	102	5	107	災害を想定した走行訓練
岩手県赤十字ライフセービング赤十字奉仕団	伊藤 真悟	10	6	16	海水浴場監視
山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団	上野 祐一	11	4	15	通信訓練、炊き出し勉強会、防災訓練
岩手県柔道整復師会赤十字奉仕団	阿部 納	115	4	119	スポーツ競技大会における救護員派遣
岩手県ハルディック・ウォーキング赤十字奉仕団	太田 正孝	6	7	13	ハルディックウォーキング活用による健康生活支援活動
計 14 団		439	105	544	

⑤ モデル赤十字奉仕団

令和2年度指定 一関市千厩赤十字奉仕団

令和3年度指定 釜石市赤十字奉仕団

令和3年度指定 久慈市赤十字奉仕団

(3) 会議、研修、訓練

① 本社主催

名称	期日	会場	内容	参加者
赤十字奉仕団中央委員会	5/30～31	日本赤十字社 本社	中央委員会常任委員について、各ブロック委員長会議の報告について、令和4年度事業計画について、日赤の地域包括ケアの取り組みについて 他	支部委員会委員長： 増沢純
赤十字ボランティア基礎調査	10/19	日本赤十字社 岩手県支部	本社職員等によるボランティアの実態調査のための奉仕団員及び担当職員へのインタビュー(全国から5支部が選ばれ、当支部が対象となった。)	盛岡市、遠野市、 金ケ崎町奉仕団 各2名
赤十字ボランティア・リーダー研修会	R5 1/28～30	日本赤十字社 岩手県支部 奉仕団室	中央委員会常任委員について、各ブロック委員長会議の報告について、令和4年度事業計画について、日赤の地域包括ケアの取り組みについて 他	釜石市赤十字奉仕 団：千葉裕子

② 支部主催

名称	期日	会場	内容	参加者
赤十字奉仕団岩手県支部委員会	R5 3/2	ホテルメトロポリ タン盛岡 NEWWING	次期委員の委嘱について、次期役員を選任について、令和5年度指定モデル奉仕団について、「身近な赤十字」推進について 他	支部委員会 委員8名、次期委員 3名
赤十字奉仕団委員長・事務担当者会議	R4 3/2	ホテルメトロポリ タン盛岡 NEWWING	令和4年度中央委員会報告、令和4年度支部事業報告及び令和5年度事業計画、モデル奉仕団活動報告、「身近な赤十字」推進モデル奉仕団事例発表、令和5年度「身近な赤十字推進」について、他	奉仕団委員長29名 事務担当者12名

4 青少年赤十字

将来を担う青少年が赤十字の精神を正しく理解し、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、学校教育活動のなかで青少年赤十字の活動を促進した。また、若手指導者を養成するため、指導者研修会をトレセンと切り離し実施したり、事例研究発表会へ参加を意図的に組織した。JRC創設100周年の岩手県支部独自の事業を実施し、多くの児童・生徒の参加を得た。トレセンは新型コロナの感染急拡大の影響で一旦は中止したが、指導スタッフの熱意で1日開催であったが参集しての実施となった。

青少年赤十字事業内容

(1) 本社主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
青少年赤十字創設100周年記念オープニングセレモニー(Web会議)	5月5日	岩手県支部	青少年赤十字の「過去・現在・未来」の3つの時間軸で構成されたセレモニーに、自宅や職場から参加した。支部会議室ではパブリックビューを行った。	中学生1名 高校生1名 賛助奉仕団1名が参加 (パブリックビューイング)
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会(Web会議)	6月29日	岩手県支部	総会で、泉澤会長がR5～6年度の全国指導者協議会の副会長に就任となった。研修会では、各県・各校での防災についてグループワークが行われた。	青少年赤十字岩手県指導者協議会 会長 泉澤 毅
青少年赤十字国際交流事業(Web会議)	10月2日	岩手県立大船渡高等学校	気候変動～未来と世界を守る行動を共に～をテーマに、国内26、海外33グループと繋ぎグループワークを行った。海外のメンバーの積極性に触発を受けた。	大船渡高校 2年 葉凜々子さん 2年 志田歩夢さん 2年 氏家謙成さん
青少年赤十字スタディー・プログラム(Web会議)(参集)	3月21日 3月25日	岩手県支部 日赤本社	第1部Web会議、第2部参集でそれぞれ1日で開催。社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)について学んだ。	一関第二高等学校 2年 熊谷怜奈さん 2年 笠原愛莉さん高泉里桜さん 北上翔南高校 2年 小田島 稚奈さん



1B高校生交流会:グループワーク



国際交流事業:バヌアツからの報告に注視



1B指導者研究会:オンライン語り部LIVE

(2) ブロック主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
第1ブロック青少年赤十字高校生交流会	10月1日 ～ 10月2日	福島県郡山市三春町	福島県支部が主催し、第1ブロックの高校生が参集して、各県の活動を交流した。また、震災・原発事故について学んだ。	・盛岡二高 2年 富手結愛 ・一関二高 2年 熊谷怜奈 ・大船渡高校2年 不村優希 希
第1ブロック青少年赤十字指導者研究会(web会議)	1月13日	参加者各校	宮城県支部が主催。JRCオンライン語り部LIBEを体験し防災への意識を高めることができた。	・今野忠頼 盛小校長 ・妻田 篤 宮古小校長 ・佐々木夏未 小佐野小教諭

(3) 支部主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
岩手県青少年赤十字 指導者研修会	6月3日	日本赤十字社 岩手県支部	青少年赤十字を学校教育に生かし、活動内容及び方法等を協議し教育の向上に資することを旨とし研修会を開催した。青少年赤十字について理解を深めたとともに、現在の学校現場の問題点について参加者と共有でき、これからの教員生活に生かしていきたいとの感想が多数寄せられた。	小学校教員－6名 中学校教員－3名
こども赤十字 活動研究会	10月4日	陸前高田市コ ミュニティー ホール	R4年度は気仙地区での開催であった。陸前高田市立小女保育所所長から、話題提供をいただき、交流が深まった。 JRC賛助奉仕団理事 坂本信行氏 幼児安全法指導員 高見静子氏	幼保職員3名参加
リーダーシップ・ トレーニング・ センター	10月29日	日本赤十字社 岩手県支部	国立岩手山青少年の家で7月26日～28日に計画していたトレセンは、コロナウイルスの急拡大の影響で中止とし、日を改めて1日開催で行った。1日の開催であったが、自身の成長や変化を実感したという感想が多く寄せられた。また、日赤の施設や備蓄品を見学したり体験できたことは意義がある活動となった。	小学生－12名 中学生－12名 高校生－16名 指導スタッフ－10名
青少年赤十字活動 事例発表研究会	11月14日	サンセール 盛岡	昨年度と引き続き分科会を割愛し午後開催とした。第8波の兆候が見られ欠席者も数名あった。研究2年目の軽米中学校・聴覚支援学校は昨年の課題解決に取り組み大きな成果を上げたことを報告した。100周年を記念したパネライカッションでは、主体性について様々な考えに琉れることができた。	参加者65名
青少年赤十字 創設100周年記念事業	4月 ～ 12月		<ul style="list-style-type: none"> ・トレセンセンター長による講話 ・私の考える青少年赤十字 ・JRC記念旗へ寄せ書き ・ポスターコンクール作品展示 (ふれあいフェスティバル) 	



トレセン:段ボールベットを組み立て



トレセン:フィールドワークの振り返り



活動事例発表研究会:研究発表校代

(4) 研究推進指定校

指定年度	学 校 名	研 究 主 題
令和4～令和5年度	盛岡市立仙北小学校	豊かな心もち 自らを切り拓く児童の育成 ～ 思いやりの輪を広げる、児童主体の日常における教育活動を通して～
令和2年～4年度	軽米擁立軽米中学校	「誰かのために何かができる」生徒の育成 ～ 「気づき、考え、実行する」JRC目標の具現化を通して～
令和2年～4年度	岩手県立盛岡聴覚支援学校	盛岡聴覚支援学校のJRC活動について ～コロナ禍での「気づき、考え、実行する」ための取り組み～

令和4年度 青少年赤十字加盟状況

☆新規加盟校




※令和5年3月31日

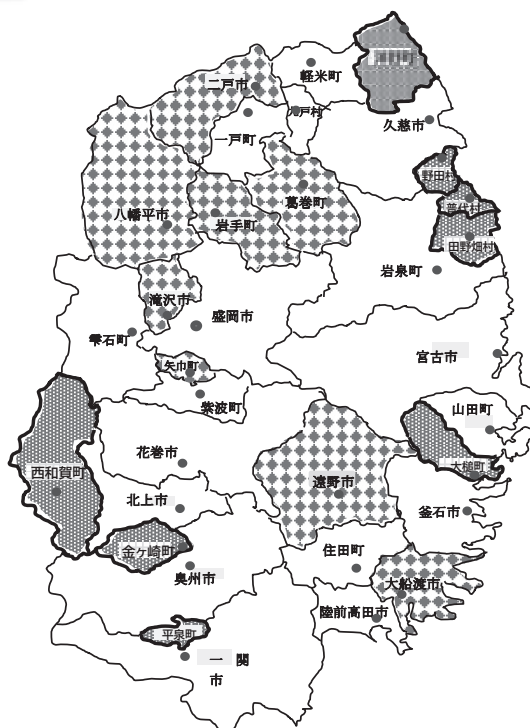
地区区分	校数	メンバー数	校種	校数	メンバー数	加盟校(園・所)					
盛岡市	52	12,191	幼稚園	2	27	太田好摩					
			こども園	4	243	盛岡水道橋くるみ	なでしこ	都南			
			保育所	7	326	くりやがわ	見前	手代森	乙部	あべたて	
						太田	さくらがおか				
			小学校	27	9,042	青山	太田	太田東	河北	厨川	
						好摩	桜城	山王	洪民	城南	
						仙北	大慈寺	月が丘	手代森	都南東	
						杜陵	中野	東松園	松園	☆北松園	
			中学校	6	1,765	緑が丘	見前	見前	南	向中	野本
山岸	☆玉山	山									
高等学校	3	722	下橋	城東	仙北	見前	米内				
			☆玉山								
特別支援	3	66	盛岡聴覚支援	盛岡青松	岩大附属特別支援						
釜石市	2	306	小学校	1	288	小佐野					
			高等学校	1	18	釜石商工					
宮古市	2	254	小学校	1	214	宮古					
			中学校	1	40	重茂					
一関市	3	80	こども園	2	57	千厩小羊	花泉				
			高等学校	1	23	一関二高					
大船渡市	16	1,897	こども園	2	117	あかさき	末崎				
			保育所	1	22	明和					
			小学校	8	1,125	猪川	大船渡	大船渡北	盛立	根	
						末崎	吉浜	綾里			
			中学校	3	617	大船渡	第一中	末崎			
高等学校	2	16	大船渡	大船渡高定時制							
奥州市	9	181	こども園	3	77	駒形	稲瀬わかば	もみじ			
			保育所	3	46	江刺南	田原	玉里			
			高等学校	3	58	岩谷堂	前沢	水沢			
花巻市	6	527	中学校	3	494	大迫	花巻北	矢沢			
			高等学校	3	33	大迫	花巻東	花巻南			
北上市	10	866	保育所	6	498	江釣子	大通り	口内	鳩岡崎二子		
			中学校	2	313	和賀東	☆飯豊				
			高等学校	2	55	北上翔南	専大北上				
久慈市	2	481	小学校	1	64	大川目					
			中学校	1	417	久慈					
遠野市	14	1,606	小学校	11	1,029	青笹	綾織	小友	上郷		
			土淵	遠野	遠野北	宮守	附馬牛				
陸前高田市	6	328	保育所	2	95	小友	気仙				
			小学校	3	226	小友	竹駒	広田			
			高等学校	1	7	高田					
二戸市	9	1,538	小学校	6	980	石切所	金田一	浄法寺	中央		
			福岡								
八幡平市	16	1,534	保育所	1	20	畑保育園					
			小学校	10	901	安代	大更	柏台	平館	田山	
			安寺	田	田頭	平	笠	松野	寄木		
			中学校	4	464	安代	西根	西根第一	松尾		
高等学校	1	149	☆平館								

地区区分	校数	メンバー数	校種	校数	メンバー数	加盟校(園・所)					
滝沢市	26	5,603	幼稚園	1	226	つばめ					
			こども園	1	241	ふじなでしこ					
			保育所	9	317	巣子南 巣子大 沢 ふうりん 元 村 鶴飼 一本木 柳 沢 ☆ 川 前					
			小学校	9	3,190	一本木 鶴飼 篠木 滝沢 滝沢第二 滝沢中央 滝沢東 柳 沢 姥屋敷					
			中学校	6	1,629	滝沢第二 滝沢 滝沢南 柳 沢 姥屋敷 一本木					
雫石町	2	366	小学校	2	366	御所 雫石					
葛巻町	7	273	小学校	4	176	葛巻 江川 小屋 瀬 五日市					
			中学校	3	97	葛巻 江川 小屋 瀬					
岩手町	4	583	小学校	3	445	一方井 川口 沼宮内					
			中学校	1	138	沼宮内					
紫波町	3	1,191	こども園	1	125	あづま					
			小学校	1	414	日詰					
			中学校	1	652	紫波第一					
矢巾町	15	2,662	こども園	5	259	矢巾中央 ぶどう やはば こそかた 北高田					
			保育所	3	223	北川 煙山 徳田					
			小学校	4	1,416	煙山 徳田 不動 矢巾東					
			中学校	2	722	矢巾 矢巾北					
			高等学校	1	42	不来方					
住田町	2	151	小学校	2	151	有住 世田 米					
山田町	1	316	中学校	1	316	山田					
岩泉町	1	95	中学校	1	95	岩泉					
一戸町	3	381	小学校	2	212	小鳥谷 一戸					
			中学校	1	169	一戸					
軽米町	2	362	小学校	1	184	軽米					
			中学校	1	178	軽米					
九戸村	2	155	小学校	1	33	長興寺					
			中学校	1	122	九戸					

総計	215	33,927	幼稚園	3	253					
			こども園	18	1,119					
			保育所	32	1,547					
			小学校	97	20,456					
			中学校	44	9,363					
			高等学校	18	1,123					
			特別支援	3	66					

【市町村ごとの加盟の状況】

-  加盟校・園とにもない市町村
-  小中学校のほとんどが加盟している市町村
-  1校(園)~半数程度が加盟している市町村



＜加盟学校を有していない町村＞

- ・平泉町 ・金ケ崎町 ・大槌町 ・洋野町 ・西和賀町
- ・野田村 ・普代村 ・田野畑村

＜新規加盟校・園＞

- ・滝沢市保育協会 川前保育園
- ・盛岡市立北松園小学校 盛岡市立玉山小学校
- ・北上市立飯豊中学校 ・盛岡市立玉山中学校
- ・岩手県立平館高等学校

＜活動再開校＞

なし

＜加盟辞退園＞(統合等による辞退)

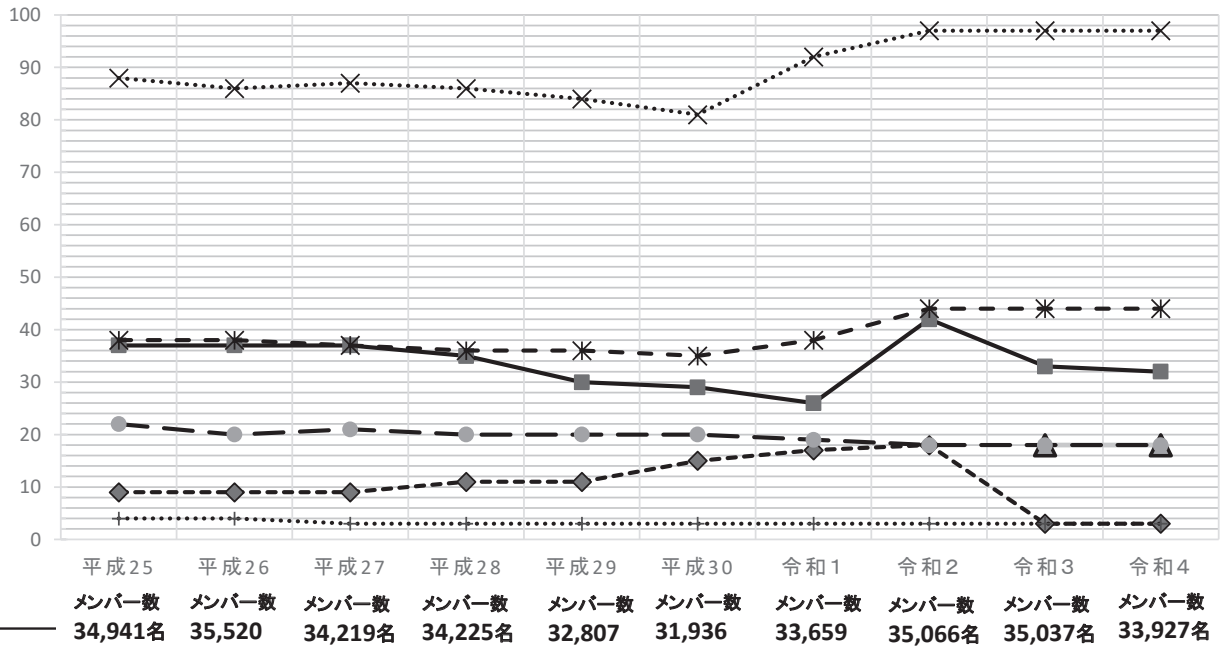
- ・盛岡市立きたくり保育園(民営化)

＜学校事情による脱退校＞

- ・奥州市立江刺第一中学校
- ・岩手町立川口中学校

青少年赤十字加盟校(園)の推移

◆ 幼稚園 ■ 保育所 ▲ こども園 …×… 小学校 - * - 中学校 ● 高等学校 …+… 特別支援学校



※令和3年から幼稚園と認定こども園を分けて表示した。

※園児・児童・生徒の数が減少傾向にあり、加盟しているメンバー数の減少が大幅に減少した。学校の統廃合・保育園の民営化が進んでいるため加盟校数に減少傾向が見られる。

一円玉募金(青少年赤十字活動資金)協力校

合計 342,041円 (令和5年3月10日現在)

保育所・幼稚園	小学校		中学校	高等学校・支援学校
あづま幼稚園	河北小学校	篠木小学校	九戸中学校	大船渡高等学校
あかあきこども園	沼宮内小学校	遠野北小学校	安代中学校	専大北上高等学校
なでしこ こども園保護者会	本宮小学校	城南小学校	下橋中学校	盛岡聴覚支援学校
都南幼稚園	滝沢中央小学校	中野小学校	仙北中学校	
北上市立大通り保育園	青笹小学校	厨川小学校	小屋瀬中学校	
北上市立南保育園	向中野小学校	杜陵小学校	姥屋敷小中学校	
北上市立二子保育園	煙山小学校	広田小学校		
北上市立鳩岡崎保育園	葛巻小学校	緑が丘小学校		
北上市立口内保育園	鶺鴒小学校			
北上市立江釣子保育園	太田小学校			
陸前高田市立気仙保育所	不動小学校			
盛岡市立好摩幼稚園	猪川小学校			
陸前高田市立小友保育所	江刈小学校			
	一本木小学校			
13	22		6	3

青少年赤十字 海外支援事業

青少年赤十字の実践目標の一つ「国際理解・親善」の一環として、青少年赤十字メンバーが集めた青少年赤十字活動資金(通称:一円玉募金)を財源として実施される海外への支援事業。令和2年度からネパールとバヌアツを支援する第二次3か年計画が始まり今年度で終了する。

※ゴシックは複数回寄付をいただいた学校

5 国際活動

今日の国際情勢をみると、依然として、戦争や民族・宗教等の対立による武力紛争が生じており、多くの難民や避難民が発生している。また、気候の変動や環境破壊が及ぼす自然災害による被災者も多く発生している。

このような国際情勢に迅速に対応するため、日本赤十字社では人道危機に対する緊急救援から復旧・再建、開発協力までの中・長期的な取り組みを展開している。

本県支部としても、毎年NHKと共催で実施している「NHK海外たすけあい」の募金や海外救援金の募金を受け付け、また、支部国際活動参加事業に活動資金支援や指導員派遣などの支援を行っている。

(1) 全社の活動概要

① 令和4年度支部国際活動参加事業

	事業対象国	事業名
1	バングラデシュ	保健医療支援事業
2	ラモス	救急法普及支援事業
3	ネパール	青少年赤十字海外支援事業
4	バヌアツ	青少年赤十字海外支援事業
5	インドネシア	コミュニティ防災強化事業
6	ネパール	コミュニティ防災強化事業
7	レバノン	シリア難民等水衛生管理支援事業
8	アジア・大洋州	給水・衛生災害対応キット整備事業
9	南スーダン共和国	紛争犠牲者支援事業
10	東アフリカ	地域保健強化事業
11	南部アフリカ	感染症対策事業
12	ルワンダ	気候変動等レジリエンス強化事業
13	アフガニスタン	気候変動対策事業

② 令和4年度 当支部負担額

令和4年度支部国際活動参加事業のうち、「救急法普及支援事業」「青少年赤十字海外支援事業」について、第1ブロック支部として600万円(各県支部社資実績額に応じて按分)の支援を行った。

国名	支援事業	支援金額	備考
ラオス	救急法普及支援事業	318,000 円	
ネパール	青少年赤十字海外支援事業	0 円	ネパール赤の事情により活動休止
バヌアツ	青少年赤十字海外支援事業	318,000 円	
合計		636,000 円	

■救急法普及支援事業

ラオスは、医療水準は近隣諸国と比べても極めて低い状況である。2015 年時点の人口 1,000 人当たりの医師数は 0.272 人であり、世界平均の 1.804 人を大きく下回っている。地域住民が自分たちで応急手当を実施できるようにすることが非常に重要となる。日赤は、2019 年 10 月からラオス赤が行う救急法普及事業に対して、財政支援や資機材整備支援等をはじめ、指導者のスキルアップのための技術指導の支援等を行っている。

■青少年赤十字海外支援事業

バヌアツ赤十字社は災害リスク軽減や防災教育への意識が高く、バヌアツ教育研修省との連携も積極的に行われてる。日赤は、2017 年度から支援を開始し、政府との協働や支援地域における防災意識の向上を促進し、さらなる防災教育の普及のために 2020 年度から第2次事業を開始している。



ワールドファーストエイドデーイベント
で応急手当を学ぶ学生©ラオス赤



教員・生徒対象の防災教育©バヌアツ赤

(2) 支部の職員派遣

例年、第1ブロック支部内で調整を行い、救急法等指導員の派遣を行っている。令和4年度の派遣は、宮城県支部から派遣した。

派遣期間	派遣先	派遣者
令和5年2月18日～25日	ラオス人民民主共和国	赤十字救急法指導員 1名

(3) 海外救援金等受付状況（令和4年度実績 岩手県支部扱い分のみ掲載）

①NHK海外たすけあい

NHK と協働して実施する募金キャンペーンで、昭和 58 年から毎年 12 月に継続して実施している。世界各地での紛争、災害、病気に苦しんでいる人びとを支援する活動に役立てられている。

救援金名	受付期間	件数	金額
NHK海外たすけあい	R4.12.1～R4.12.25	652件	783,522円



令和4年度
NHK 海外たすけあいポスター



NHK 海外たすけあい 2022 募金受付会場
NHK 盛岡放送局内の様子

②ウクライナ人道危機救援金

ウクライナ各地で激化している戦闘により、多くの市民が緊張と不安の中で過ごしている。子どもを含む市民の死傷者が数多く報告され、市民生活に不可欠なインフラにも被害が出ています。また、紛争の被害を恐れ、多くの人びとが、周辺国（ポーランド、ルーマニア、スロヴァキア等）に避難している。

この状況を受け、日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社が実施するウクライナでの人道危機対応及びウクライナからの避難民を受け入れる周辺国とその他の国々における救援活動を支援するため、海外救援金を募集している。

救援金名	受付期間	件数	金額(R4年度末現在)
ウクライナ人道危機救援金	R4.3.2～R6.3.31	254件	21,173,366円

③2023年トルコ・シリア地震救援金

2023年2月6日(月)現地時間午前4時17分、トルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とする地震とその余震により、トルコ南東部及びシリア北西部において多数の死傷者が報告された。

こうした事態に対し、日本赤十字社は、国際赤十字・赤新月社連盟および赤十字国際委員会の緊急救援アピール等に対する資金援助、トルコ赤新月社並びにシリア赤新月社による救援活動・復興支援、日本赤十字社による救援・復興支援等を行うため、海外救援金を募集している。

救援金名	受付期間	件数	金額(R4年度末現在)
2023年トルコ・シリア地震救援金	R4.2.6～R5.5.31	61件	2,577,127円

6 医療事業、血液事業、社会福祉事業

(1) 医療事業

令和4年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大並びに院内感染が発生し、入院患者数が前年度比8.3%減少と経営に深刻な影響を与えた。しかしながら盛岡医療圏における中核の公的病院として、また『地域医療支援病院』として、地域の医療・介護・福祉機関との連携を強化、救急患者受け入れにも対応し患者中心の医療を実践した。

新型コロナウイルス感染症の対応については、発熱外来を24時間体制で年間5,000人を超える患者の治療を行った。また、「重点医療機関」として岩手県内で最も多いコロナ患者対応病床数を確保し、年間400人を超える陽性入院患者さんの受け入れ・治療を行った。令和5年度以降は5類感染症に移行するものの発熱外来及びコロナ病床などの患者受け入れ体制は維持する見込みである。

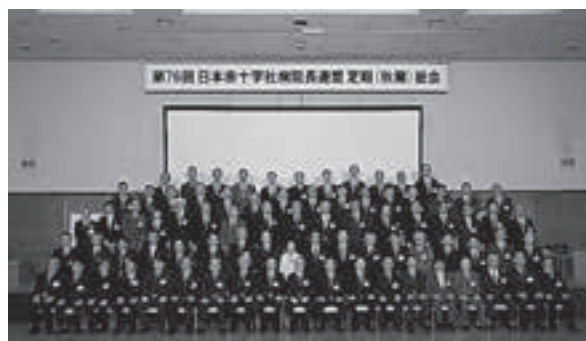
患者に信頼される医療の提供については、病院一体となって病院機能の再確認とケアプロセスの見直しを行い、11月に病院機能評価（日本医療機能評価機構）を受審し認定（更新）された。

安全で良質な医療の提供については、令和4年度に更新整備予定だった低線量でかつ高精度なカテーテル治療が可能な血管撮影装置については、本社共同入札の遅れから令和5年度に納入される見込みである。また、医療人の育成として認定看護師養成学校に2名、看護師特定行為養成学校に1名を派遣した。

令和4年度の経営収支は、新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者数が大幅に減少したことでコロナ感染拡大前に比べ医業収益が7億円減少したが、コロナ関連の運営費補助金が10億円計上されたことにより4期連続の黒字を確保することができた。また、令和5年度は血管撮影装置に加えMRI装置の更新も予定していることから、アフターコロナを見据えた地域連携の強化および救急患者受け入れによる収入確保と材料費等の医業経費全般の見直しによる健全経営に努める。また、引き続き岩手医科大学附属病院との連携強化と環境変化に応じた病院運営体制を構築し経営基盤の強化を継続する。



緩和ケア研修会
(コロナで中止された研修会も対面で再開)



第76回日本赤十字社病院長連盟
定期（秋期）総会
(全国の赤十字病院の院長会議を主管)

年度別患者数調べ

()内は一日平均

区分 科 別	入院患者数			外来患者数			外来新患延べ数(再掲)			健康診断受診数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総合診療科	(6.6) 2,399	(6.2) 2,251	(3.9) 1,428	(12.7) 3,077	(15.7) 3,788	(14.0) 3,409	(1.2) 283	(1.2) 282	(0.7) 173			
精神科	(0.0) 0	(0.0) 0		(13.4) 631	(14.4) 648	(10.3) 472	(0.2) 9	(0.1) 3	(0.1) 3			
脳神経内科	(5.8) 2,113	(5.8) 2,128	(6.1) 2,211	(11.9) 2,890	(12.5) 3,026	(12.7) 3,097	(0.9) 225	(0.9) 226	(0.9) 223			
血液内科	(40.4) 14,761	(33.1) 12,070	(34.8) 12,710	(16.8) 4,062	(18.3) 4,429	(20.1) 4,882	(0.9) 217	(1.1) 259	(1.2) 294			
呼吸器内科	(4.4) 1,607	(4.6) 1,674	(4.8) 1,764	(11.5) 1,682	(9.2) 1,310	(9.8) 1,447	(1.7) 242	(1.5) 209	(1.8) 265			
消化器内科	(19.5) 7,118	(17.2) 6,292	(18.7) 6,837	(32.8) 7,946	(34.6) 8,375	(32.4) 7,869	(5.6) 1,356	(5.8) 1,414	(5.9) 1,424			
循環器内科	(14.8) 5,394	(12.7) 4,633	(13.2) 4,819	(27.0) 6,523	(27.3) 6,606	(27.3) 6,640	(2.0) 486	(2.1) 506	(2.3) 566			
小児科	(12.7) 4,650	(14.5) 5,278	(11.5) 4,212	(35.1) 8,502	(34.1) 8,256	(35.0) 8,497	(7.7) 1,854	(7.8) 1,882	(8.5) 2,063	(4.9) 1,185	(4.4) 1,068	(4.3) 1,058
外科	(20.2) 7,379	(20.8) 7,609	(18.3) 6,678	(39.3) 9,516	(37.9) 9,183	(38.3) 9,304	(2.9) 692	(2.8) 681	(3.1) 764	(2.5) 595	(2.5) 602	(2.7) 651
小児外科	(0.2) 86	(0.3) 115	(0.2) 73	(2.4) 355	(7.2) 351	(6.7) 329	(0.8) 109	(2.3) 111	(1.7) 83			
整形外科	(31.8) 11,612	(33.1) 12,077	(27.7) 10,125	(42.8) 8,212	(43.5) 8,398	(38.5) 7,594	(6.2) 1,185	(4.8) 1,136	(5.1) 1,009			
脳神経外科	(12.0) 4,387	(11.0) 4,003	(10.3) 3,746	(15.8) 3,823	(15.8) 3,728	(20.1) 4,880	(2.8) 689	(2.8) 681	(4.8) 1,172	(0.8) 184	(0.8) 196	(0.8) 183
皮膚科	(0.7) 240	(0.3) 209	(0.8) 292	(25.9) 6,277	(26.5) 6,409	(25.5) 6,200	(1.8) 439	(1.8) 441	(1.7) 401			
泌尿器科	(13.7) 4,984	(12.5) 4,576	(11.3) 4,125	(69.1) 16,717	(67.1) 16,245	(66.3) 16,119	(2.9) 704	(3.1) 758	(2.7) 655			
産婦人科	(37.6) 13,742	(32.1) 11,728	(28.1) 10,271	(89.5) 21,670	(89.2) 21,583	(89.2) 21,679	(6.7) 1,617	(6.8) 1,644	(6.2) 1,499	(3.0) 734	(3.2) 776	(2.9) 711
眼科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0	(6.9) 669	(8.0) 1,422	(9.5) 1,843	(0.0) 2	(0.5) 86	(0.3) 67			
耳鼻咽喉科	(4.2) 1,535	(3.4) 1,245	(3.0) 1,108	(18.1) 4,385	(15.2) 3,667	(17.5) 4,255	(3.4) 811	(3.0) 727	(4.5) 1,084			
放射線科	(0.0) 5	(0.0) 9	(0.3) 123	(44.7) 10,812	(44.3) 10,713	(41.7) 10,133	(2.2) 530	(2.1) 517	(1.9) 456			
麻酔科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0	(5.6) 538	(5.1) 500	(5.6) 548	(0.1) 12	(0.1) 10	(0.2) 19			
リハビリテーション科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 9	(19.2) 4,642	(13.2) 3,170	(10.0) 2,430	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0			
緩和ケア科	(14.4) 5,257	(13.6) 4,965	(9.9) 3,612	(1.5) 225	(1.2) 174	(1.1) 169	(0.5) 70	(0.4) 53	(0.3) 42			
健診部										(6.9) 1,675	(6.1) 1,485	(5.8) 1,427
合計	(239.1) 87,269	(221.5) 80,862	(203.1) 74,143	(508.9) 123,154	(504.1) 121,981	(501.2) 121,796	(47.7) 11,532	(48.0) 11,626	(50.5) 12,262	(18.1) 4,373	(17.0) 4,127	16.5 4,030

健診部業務内容年度別実績表

健診部活動		(単位:人)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
子宮がん検診	受診者数		734	776	711
	要精検者数		76	93	68
	精検受診者数		15	33	27
	がん発見者数		1	0	0
乳がん・甲状腺がん検診	受診者数		595	602	651
	要精検者数		78	67	68
	精検受診者数		37	35	43
	がん発見者数		1	0	0
1泊人間ドック	受診者数		274	277	286
	要精検者数		98	125	116
	がん発見者数		1	1	1
1日人間ドック	受診者数		322	290	284
	要精検者数		143	126	117
	がん発見者数		0	2	3
脳ドック	受診者数		184	196	183
	要精検者数		29	60	70
成人病健診(協会けんぽ)	受診者数		770	734	691
	要精検者数		232	94	198
	がん発見者数		0	2	0
一般健康診断 職域健康診断	受診者数		587	468	459
	がん発見者数		1	0	0
肺がんCT検診	受診者数		0	0	0
	がん発見者数		0	0	0
集団健診(学校等)	受診者数		3,456	3,260	3,922
乳児健診(受診券)	受診者数		1,185	1,061	1,058
妊産婦健診(受診券)	受診者数		4,626	3,793	4,013
肺がん検診(喀痰検査)	受診者数		570	547	547
	要精検者数		0	0	0

医療社会事業部業務内容実績表

(令和4年度 相談援護関係実施状況)

1 入退院支援部門の人員配置

社会福祉士	実人員	4	人
	換算人員	3	人
看護師	実人員	6	人
	換算人員	5.4	人

2 相談救護関係の実施状況

区分		実件数	
取扱件数	年度実件数	2,145	
	継続実件数	10	
	新規実件数	入院	1,814
		外来	331
年度延件数	年度延件数	9,201	
新規ケースの紹介経路	医師	52	
	看護職	1,910	
	リハビリ職	0	
	その他院内職員	12	
	本人	42	
	家族・親戚縁者	31	
	院外関係機関	92	
	近隣者・知人	0	
	医療チーム	0	
	ソーシャルワーカー	7	
介入の時期	受診前	15	
	外 来	292	
	入院前	31	
	入院中	1,773	
	その他	35	
社会的背景	独居	156	
	経済困窮	26	
	家族疎遠・身寄りなし	32	
	ハイリスク妊産婦	13	
	精神疾患	50	
	認知症	173	
	家庭内暴力・虐待	2	
	自殺企図	2	
	無保険	0	
	身元不明	1	
	ホームレス	0	
	外国人	0	
相談担当者職種および人数	MSW(再掲:社会福祉士)	3	
	精神保健福祉士(PSW)		
	看護師	1	
	その他	2	

区分		実件数	延件数	
援助内容	受診・受療	337	694	
	経済的問題	24	98	
	制度活用	222	472	
	入院療養生活	55	111	
	退院支援	1,675	6,030	
	在宅療養・介護	184	476	
	医療者との関係	8	19	
	家族関係	14	69	
	日常生活	100	242	
	就労・就学	12	22	
	身元保証・権利擁護	11	36	
	死後対応	7	13	
	その他	48	137	
	援助方法	面談	本人	817
			家族	779
			友人・知人	12
		電話	本人	72
家族			988	
友人・知人			2	
訪問		家庭	0	
		その他	0	
同行・同伴・代行			8	
連絡調整・院内			3,090	
連絡調整・院外:面会		83		
連絡調整・院外:電話		5,246		
連絡調整・院外:その他		742		
カンファレンス (院内職種のみ)		650		
カンファレンス (院外職種含む)		28		
合同カンファレンス (院内職種のみ)		21		
合同カンファレンス (院外職種含む)		36		
チーム医療	退院支援チーム		2,457	
	認知症ケアチーム		35	
	患者サポートチーム		0	
	リエゾンチーム		0	
	緩和ケアチーム		215	
	虐待対応チーム		0	
	倫理コンサルテーションチーム		1	
その他		1		

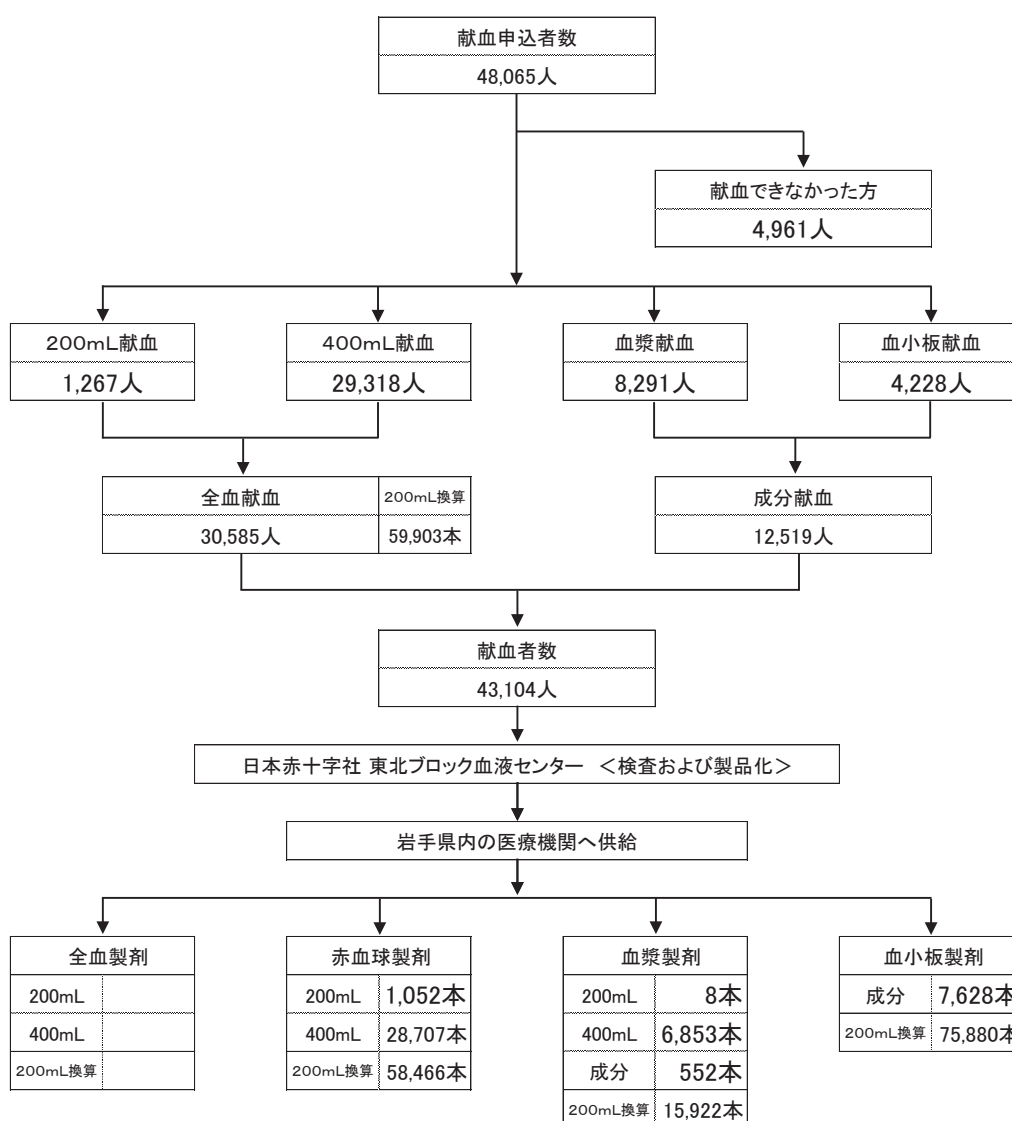
(2) 血液事業

日本赤十字社は病気やけがで苦しみ、血液製剤を必要としている方の尊い命を救うため需要に応じた献血血液を安定的に確保し、安全性・品質向上に取り組み、献血者の皆様の思いをお届けするという使命を担い、血液事業に取り組んだ。

令和4年度の県内における血液事業の状況

医療機関の需要に見合った血液の確保に努め、令和4年度は全血献血 30,585人（前年度比 98.48%）、成分献血 12,519人（前年度比 93.3%）、合計 43,104人（前年度比 96.9%）の方々から献血の協力を得た。

また、全血献血の 400mL 献血率は 95.9%と目標（97.6%）を下回ったものの、医療機関が必要とする輸血用血液製剤は、安定して供給することができた。



① 献血協力者への新たなアプローチ

輸血を必要とする患者さんへ安定的に輸血用血液製剤を届けることができるよう、継続的な献血協力者を募集するため、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」に9月28日から新たにスマホアプリが誕生した。



献血の事前予約、事前問診回答、血液検査の確認、会員特典（献血してためたポイントでオリジナル記念品と交換できる他、イベントやキャンペーン情報を案内）などについて県民に周知を行い、登録者を増やすことにより献血予約率向上に取り組んだ。

② 献血思想の普及啓発

ア 献血キャンペーンの実施

広く県民に対し献血思想の普及啓発を図り、献血血液による血液製剤の医療機関への安定供給を図るため、県、市町村、血液センターが相互に連携し、また、医療機関での需要が増加している 400mL 及び成分献血由来の血液を確保することを目的に各種献血キャンペーンを実施した。

キャンペーン内容	期間	期間中の献血者数（人）			
		成分	400mL	200mL	合計
愛の血液助け合い運動 	R4. 7. 1～7. 31	1, 112	2, 449	126	3, 687
クリスマス献血キャンペーン 	R4. 12. 3～12. 25	266	921	23	1, 210

はたちの献血キャンペーン 	R5. 1. 1～2. 28	2, 180	4, 992	180	7, 352
バレンタイン献血キャンペーン 	R5. 2. 4～2. 14	474	843	38	1, 355

イ 若年層を対象とした普及啓発

(ア) 小学生への普及啓発

例年開催していた「親と子の血液センター見学会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度に引き続いて中止となった。

(イ) 高校生への普及啓発

高校生対象の献血セミナーは、令和4年度はコロナ禍により実施できなかった。

また、文化祭等におけるパネル展示は2校で実施した。

高校献血については、延べ17校で実施し228名から献血協力を得た。

ウ 献血会場の告知

新聞、ラジオにおいて翌日又は当日の献血会場の告知を行い、また、市町村広報誌、血液センターホームページで当月の告知を行った。

新聞	<ul style="list-style-type: none"> ・(株) 岩手日報社 ・(株) 東海新報社 ・(株) 盛岡タイムス社
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> ・(株) IBC岩手放送 ・(株) ラヂオもりおか ・特定非営利活動法人カシオペア市民情報ネットワーク ・えふえむ花巻(株) ・奥州エフエム放送(株) ・一関コミュニティFM(株)

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の広報誌 ・血液センターホームページ
-----	--

エ 報道各社への献血啓発依頼

本社作成の献血啓発CMを、民放テレビ局（4社）、民放ラジオ局（6社）において冬期間を中心に放送協力を得た。また、NHK盛岡放送局においては、毎週金曜日に献血情報の放送協力を得た。

テレビ	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)IBC岩手放送 ・(株)岩手朝日テレビ ・(株)岩手めんこいテレビ ・(株)テレビ岩手
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK盛岡放送局 ・(株)IBC岩手放送 ・(株)エフエム岩手 ・(株)ラジオもりおか ・えふえむ花巻(株) ・奥州エフエム放送(株) ・宮古エフエム放送(株)

オ 各種リーフレットを活用した献血推進と健康啓発

血液センターで作成した各種パンフレットを献血者や各企業に配布し、健康増進や献血推進に活用した。(献血リピーターブック、団体献血パンフレットは岩手県で作成)





③ 成分献血・400mL 献血の推進

輸血を必要とする患者さんに対する輸血リスクの軽減を図るため、輸血用血液製剤の高単位化が求められていることから、血小板成分献血・400mL 献血の推進を行った。

[献血種別献血状況]

区分		献血者数 (人)		対前年度比	
		令和4年度	令和3年度	人数 (人)	率 (%)
全血	200mL	1,267	1,384	△117	91.5
	400mL	29,318	29,686	△368	98.8
成分	血 漿	8,291	9,208	△917	90.0
	血 小 板	4,228	4,203	25	100.6
合 計		43,104	44,481	△1,377	96.9

※献血ルーム 363 日開設、移動採血 648 稼働 (前年度 642 稼働)

④ 複数回献血協力確保事業の普及

平成 30 年 10 月に導入した献血推進・予約システム「ラブラッド (愛称)」を活用し、献血の WEB 予約を働きかけるとともに、予約による献血者の利便性向上に努めた。

※複数回献血クラブ「ラブラッド」会員数 20,086 人 (令和 5 年 3 月末現在)

⑤ ボランティアの育成と活動

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、献血制度の啓発や献血ボランティア団体の育成 (研修) は、規模を縮小した開催となった。

各種ボランティア団体等の献血研修会

団 体 名	開催日	場 所	参加人数 (人)
東北ブロック内血液センター 学生献血奉仕団	4/24	W e b 会議	1
	6/18	W e b 会議	1
	9/24	W e b 会議	1
	11/26	W e b 会議	1
	2/26	W e b 会議	1
天理教岩手教区献血たすけあいの会	3/2	天理教岩手教務支庁	30

各種献血キャンペーン参加団体

キャンペーン名	実施期間	協力団体
クリスマス献血 キャンペーン	R4. 12. 3 ～12. 25	大船渡ライオンズクラブ 大船渡五葉ライオンズクラブ 大船渡赤十字奉仕団 前沢ライオンズクラブ 岩手県立前沢高等学校 一関ライオンズクラブ 一関修紅高等学校 釜石ライオンズクラブ 釜石リアスライオンズクラブ 釜石レオクラブ 釜石市赤十字奉仕団 江釣子ライオンズクラブ 岩手県立北上翔南高等学校 北上市赤十字奉仕団 花巻東ライオンズクラブ 花巻市花巻地区赤十字奉仕団 北上ライオンズクラブ 和賀ライオンズクラブ 北上国見ライオンズクラブ 北上ロータリークラブ 北上西ロータリークラブ 北上和賀ロータリークラブ

		盛岡南ライオンズクラブ イーハトーブ学生赤十字奉仕団 盛岡市保健推進員 盛岡不來方ライオンズクラブ 岩手教区献血たすけあいの会 岩手女子高等学校 JRC 部
バレンタイン献血 キャンペーン	R5. 2. 4 ～2. 14	花巻ライオンズクラブ 花巻市花巻地区赤十字奉仕団 一関中央ライオンズクラブ 陸中宮古ライオンズクラブ 二戸ライオンズクラブ 二戸市赤十字奉仕団 釜石市赤十字奉仕団 盛岡中津川ライオンズクラブ 岩手教区献血たすけあいの会 金ヶ崎ライオンズクラブ 金ヶ崎町赤十字奉仕団 前沢ライオンズクラブ 江釣子ライオンズクラブ 陸前高田ライオンズクラブ

⑥ 医薬情報活動充実・強化

令和4年度は、コロナ禍から得られた様々な医療情報活動の方法を適切に使い分けた業務の効率化を行った。医療機関への活動については、片道1時間以上かかる施設においてオンラインツールを用いて情報提供、遡及調査、苦情品調査報告を行った。情報提供（輸血情報やお知らせ文書等）は、郵送で行い電話での問い合わせにも対応した。また、県内主要医療機関の院内輸血療法委員会には、直接、訪問して情報収集に努めた。説明会は医療機関の要望やニーズを踏まえて実施した。岩手県合同輸血療法委員会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮し、医療関係者が一堂に会する集会方式での開催は中止し書面開催とした。

血液製剤発注システムによるWeb発注率は全発注数の約76%を占めた。令和5年3月には医療機関のニーズに合わせたシステム改修が行われたので今後もシステム未登録の医療機関に対し登録のお願いと操作についての説明を行い、Web発注率の増加を目指す。

活動件数

対象者	令和4年度		令和3年度	
	人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)
検査技師	378	81.8	284	78.2
医師	44	9.5	37	10.2
薬剤師	24	5.2	20	5.5
看護師	12	2.6	14	3.9
事務	3	0.7	8	2.2
その他	1	0.2	0	0
合計	462	100.0	363	100.0

活動内容

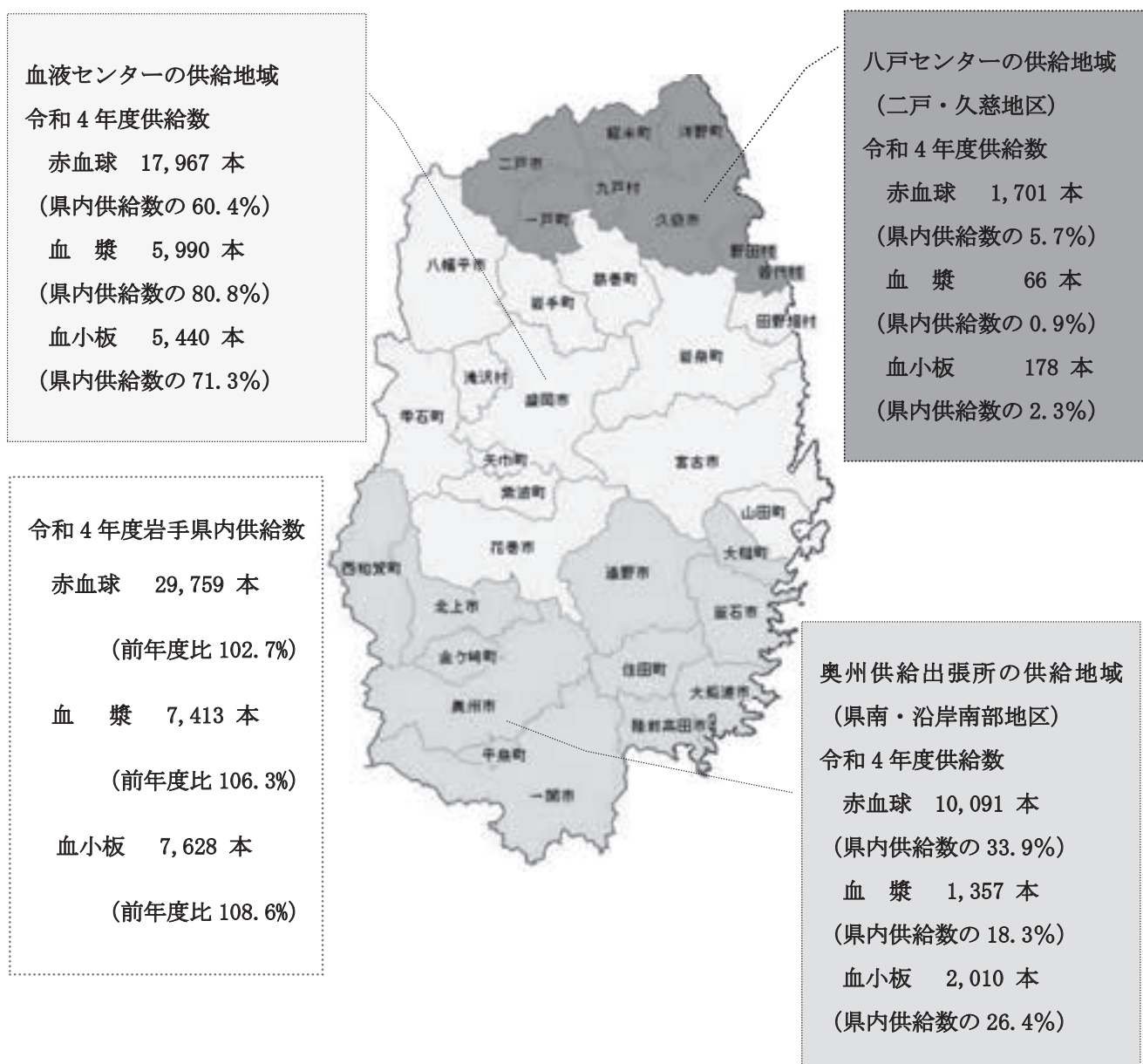
活動内容	令和4年度		令和3年度	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
情報提供	143	24.1	164	40.5
遡及調査	97	16.3	23	5.7
配送支援	63	10.6	23	5.7
WEB発注システム	57	9.6		
問い合わせ処理	53	8.9	45	11.1
情報収集	46	7.7	23	5.7
副作用処理	38	6.4	19	4.7
院内輸血療法委員会参加	36	6.1	27	6.7
依頼検査関連	28	4.7	5	1.2
苦情対応	10	1.7	13	3.2
説明会・研修会等	7	1.2	7	1.7
血液事業広報	4	0.7	3	0.7
使用動向情報の入手	2	0.3	15	3.7
回収処理	1	0.2	0	0
合同輸血療法委員会関連	0	0	1	0.3
技術協力	0	0	0	0
その他活動	9	1.5	37	9.1
合計	594	100.0	405	100.0

※複数項目にまたがる活動もあることから、活動内容の合計は活動件数の合計より多い。

⑦ 輸血用血液の医療機関への供給状況

安全性の高い血液を安定的に医療機関に供給するため、平成 24 年度から実施している血液事業広域事業運営体制（全国 7 ブロックでの運営体制）により、北上地区以南・沿岸南部・西和賀地区医療圏は奥州供給出張所から、県北医療圏（二戸・久慈地区）は青森県赤十字血液センター八戸出張所からの供給体制を整えたことにより迅速な供給が可能となり、令和 4 年度は岩手県内 94 の医療機関に下図のとおり血液製剤の供給をした。

長期ビジョン第一次中期事業計画では、目標とする定時発注率の達成と新 Web 発注率が掲げられ、令和 4 年度の定時発注率は目標値 80% に対して 86.7%、新 Web による発注率は目標値 80% に対して 82.0% (3 月) となった。今後も設定された目標値の達成を目指す。



輸血用血液の岩手県内供給状況（単位：本）

区 分	供給数		比較増減	
	令和4年度	令和3年度	本数	前年度対比
全 血	0	0	—	—
赤血球	29,759	28,971	788	102.7%
血 漿	7,413	6,973	440	106.3%
血小板	7,628	7,026	602	108.6%
合 計	44,800	42,970	1,830	104.3%

⑧ 献血表彰

献血運動の推進に関し積極的に協力し、他の模範となる実績を示した献血推進団体及び献血団体に対して、厚生労働大臣表彰等の贈呈を行った。

【厚生労働大臣表彰状：2団体】

団 体 名	所在地
国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	盛岡市
学校法人岩手橘学園江南義塾盛岡高等学校	盛岡市

【厚生労働大臣感謝状：8団体】

団 体 名	所在地
宮古地区広域行政組合 宮古消防署	宮古市
岩手県立産業技術短大	矢巾町
東日本高速道路株式会社 東北支社盛岡管理事務所	盛岡市
公益財団法人岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	盛岡市
株式会社 榊鐵工所	宮古市
岩手県農業共済組合 胆江地域センター支部 ロータス岩手株式会社	奥州市
遠野市赤十字奉仕団	遠野市
岩手県遊技業協同組合 青年部	盛岡市

【知事及び日赤岩手県支部長感謝状：11 団体】

団 体 名	所在地
岩手県立東和病院	花巻市
東北ポール株式会社 北上工場	北上市
岩手教区献血たすけあいの会	盛岡市
株式会社バイタルネット 盛岡支店	盛岡市
株式会社ヤマデン 岩手事業所	奥州市
岩手県農業共済組合盛岡・紫波支所	盛岡市
ユニカ株式会社岩手工場	奥州市
岩手県立北上翔南高等学校	北上市
奥州エフエム放送株式会社	奥州市
神文ストア花泉店	一関市
株式会社マイヤ千厩店	一関市

⑨ 骨髄ドナー登録事業

法に基づく造血幹細胞提供支援機関である日本赤十字社の事業所として、次の指定業務を行った。

○ドナー登録手続き（献血併行型ドナー登録会も含む）

骨髄登録者の状況

	岩 手 県		全 国	
	登録者数(人)	対前年度比(%)	登録者数(人)	対前年度比(%)
平成 30 年度末	3,182	104.1	509,263	105.2
令和元年度末	3,191	100.3	529,965	104.1
令和 2 年度末	3,171	99.4	530,953	100.2
令和 3 年度末	3,174	100.1	537,820	101.3
令和 4 年度末	3,084	97.2	544,305	101.2

※令和 4 年度新規登録 105 人

(3) 社会福祉事業

①日赤岩手乳児院

令和4年度の乳児入退所状況は、入所9名、退所6名により年度末在籍は13名であった。入所理由は虐待が3名、養育困難6名であった。退所理由は、家庭引取が2名、家族引取1名、養護施設等への措置変更が2名、里親委託1名であった。これにより、昭和9年創設以来の総養育乳児数は1,987名となった。

近年、少子化や核家族化、離婚増加など子どもを取り巻く環境が大きく変化し、社会的養護を必要とする子どもが増加傾向にある中、現在地に新築移転後は、小規模グループケアを中心とした養育に移行し、家庭的な養育を目的とした担当養育制を実施している。

スタッフに医師、看護師、心理判定員、保育士、栄養士など資格を有する職員を配置し、よりきめ細かな養育を必要とする病虚弱児についても積極的に受け入れを行ってきている。

加えて、児童虐待やDVなどが増加傾向にある中、乳幼児の養育とともに保護者への支援も重要な課題となっていることから、家庭支援専門相談員を中心に児童相談所と密接に連携を行い、家族への相談援助を行った。

また、入所児のより幸せな生活を実現するための里親制度への支援として、里親支援専門相談員による里親同士や里親と職員との交流を実施し、マッチングの支援や専門機関との連携に努めた。

コロナ禍においては、職員等による感染を抑えるため基本的な感染対策の徹底を実施した。地域貢献として、市町村から委託を受ける「子育て短期支援事業」は、再開を検討していたが感染状況により見送らざるを得なかった。また、個人や赤十字奉仕団などのボランティアの受け入れ、保護者や家族を対象とした各体験教室も停止している。なお、保育士等の養成にかかる施設実習や委託里親、里親候補、未委託里親宅への家庭訪問については感染対策を徹底しながら取り組んだ。



夕涼み会

ア 日赤岩手乳児院入退所状況

(単位：人)

児童相談所 (市町村名)	3年度末現在					入 所 児					退 所 児					4年度末現在				
	男		女		計	男		女		計	男		女		計	男		女		計
	措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時	
福祉総合相談センター	6				6	3	4	3	7	17	4	4		7	15	5		3		8
盛岡市	3				3	1	3	1	2	7	2	3		2	7	2		1		3
花巻市	1				1	1			2	3	1			2	3	1				1
北上市	2				2						1				1	1				1
紫波町									1	1				1	1			1		1
洋野町							1		1	2		1		1	2	1		1		2
宮古市								1	1	2				1	1					
						1		1		2										
一関児童相談所	1	2	2	1	6	1	3		3	7	1	4	1	3	9	1		1	2	4
奥州市			1		1		2		2	4		1		2	3			1	1	2
一関市			1		1															
平泉町	1	2		1	4				1	1		2		1	3	1			1	2
他県						1	1			2	1	1	1		3					
宮古児童相談所	1	2			3	1	1	1		3		2			2	2	1	1		4
宮古市	1	2			3			1		1		1			1	1	1	1		3
釜石市						1	1			2		1			1	1				1
他県委託																				
合計	8	4	2	1	15	5	8	4	10	27	5	10	1	10	26	8	1	5	2	16

イ 初日在籍児数及び延べ人数の状況

(入所定員 20 人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度比
初日在籍児数	15	14	12	12	13	12	12	12	12	15	13	15	157	-25
延べ人数	423	396	389	379	426	379	390	360	436	461	406	489	4,934	-611

(2) 特別養護老人ホーム日赤鷺鳴荘

ア 施設入所

日赤鷺鳴荘では、1ユニット10名の完全個室・小規模グループとしたユニットケアを実施し、プライバシーの配慮、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていけるように介護支援を行い、また、要介護度の重度化や認知症の増加傾向にあるなか、利用者の安心と安全で笑顔あふれる生活が送れるよう入居者どうしの関係や職員との信頼関係・なじみの関係が構築できるよう努めている。

例年、地域住民・ボランティア等との交流を積極的に行ってきたが、本年においては新型コロナウイルス感染対策のため見送りとなった。

少しでも潤いのある施設生活を送っていただくため、職員が中心となり感染対策に努めながら園内行事やユニット毎の季節行事などを開催した。



節分（ユニットイベントの様子）



園内夏祭りの様子

長期入所における令和4年度の新規入居者は23人、退居者24人（うち死亡15人）、年度末在籍者は79人で、開設以来の入居者は901人、また、短期入所の利用者数は延べ4,239人（1日平均11.6人）となっている。

なお、長期入所の要介護度別の入居者数は下記のとおりである。

（単位：人）

要介護度別	3年度末			入居			退居			年度途中の介護度変動			4年度末		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要介護度1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護度2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
要介護度3	4	17	21	3	6	9	1	2	3	△2	△5	△7	4	16	20
要介護度4	4	29	33	2	8	10	0	10	10	△4	△10	△14	2	17	19
要介護度5	4	22	26	0	4	4	4	7	11	5	15	20	5	34	39
計	12	68	80	5	18	23	5	19	24	0	0	0	12	67	79

イ 日赤鶯鳴荘デイサービスセンター

平成 30 年 4 月から雫石町の指定を受け、単独事業として地域密着型通所介護を行っている。介護保険法に規定する在宅の要介護者等に対し、通所の方法により各種のサービスを提供することによって、要介護者等の自立的生活の助長、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族介護者の身体的、精神的な負担の軽減を図ることを目的に実施した。

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者実数(人)	39	39	40	42	44	42	41	39	36	41	39	46	488
利用者延数(人)	379	336	370	374	366	379	321	335	312	298	312	385	4,167
実施日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293

ウ 指定居宅介護支援事業所

在宅の要援護高齢者若しくは要援護となるおそれのある高齢者、また、その家族に対し、在宅介護等に関する総合的相談に応じ、地域の要援護高齢者及びその家族等の福祉の向上を図ることを目的としたサービスを提供した。

なお、令和 4 年度の相談件数は 1,508 件、介護保険法に規定された在宅要介護者に対するケアプランの作成件数は、延べ 540 件（うち在宅要支援者 59 件）であった。

(単位：件)

区 分	本 人	家 族	関係機関	相談協力員 (民生委員)	その他	合 計
電 話	18	460	416	0	2	896
訪 問	489	26	14	0	1	530
来 所	1	6	0	0	0	7
そ の 他	16	50	8	0	1	75
合 計	524	542	438	0	4	1,508

エ 「日本赤十字社長期ビジョン（第一次中期事業計画（R2～R4）」における取組み

地域への福祉サービスの向上として、当施設が「超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求」の一助となるために、利用者からも介護を志す人からも選ばれる施設となって安定的に施設運営を継続するとともに、施設運営以外の部分における地域の福祉ニーズにも応えていく必要がある。

そのため、効果的な人材確保対策及び充実した教育環境の整備を通じて優れた人材を確保・育成するとともに、ボランティアが事業運営に積極的にに関わり、職員が自らの専

門スキルを最大限に生かせる環境を整えることにより、福祉サービスの質を向上させ、また、地域貢献活動を積極的に実施する。「日本赤十字社長期ビジョン（第一次中期事業計画）」における当施設の取組みについて、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら次のとおり実施した。

(1) 介護職員の確保・教育環境の充実

施策内容				備考
<ul style="list-style-type: none"> 超少子高齢化社会を踏まえ、介護等職員の人材確保に当たっては、介護等実習生の受入れ、就職説明会等の人材確保対策に継続して取り組むとともに、地域住民等を対象に介護現場説明会を実施する。 また、介護・看護等の直接処遇職員のスキルアップのため、職務内容及び経験年数に応じ、職場内研修の実施や各種研修会に積極的に参加させる。 				※介護現場説明会
活動指標	R 2 実績	R 3 実績	R 4 実績	1. 小学校 1回 2. 中学校 0回 3. 介護希望者 0回
①介護等実習生の受入れ	0回	0回	0回	
②介護現場説明会	1回	3回	1回	
③介護職員初任者研修参加	2人	2人	0人	
④実務者研修会等受講助成	2人	1人	0人	

(2) ボランティア等による施設運営への参画促進

施策内容				備考
<ul style="list-style-type: none"> これまで職員に限定されてきた業務の一部に積極的にボランティアが関わることにより、職員の専門スキルを最大限に生かせる環境を整えることを目指し、ボランティアが担える活動範囲について地域住民等を対象とした説明会を開催し、介護業務ボランティアを積極的に受け入れる。 				※ボランティア説明会は開催できなかったが、関係者等へは適宜説明
活動指標	R 2 実績	R 3 実績	R 4 実績	
①ボランティア説明会	0回	0回	0回	
②介護業務ボランティア受入数	1人	2人	2人	

(3) 地域貢献活動の推進

施策内容				備考
<ul style="list-style-type: none"> 地域における福祉の拠点として機能している状態を目指し、地域ニーズを再確認するとともに、地域貢献活動を行う。 				※シンポジウムは例年12月～3月に開催していたが、本年同時期コロナ感染者増加により開催を見送る（R2は全戸チラシ配布）
活動指標	R 2 実績	R 3 実績	R 4 実績	
①医療・介護に関するシンポジウムの開催	1回	0回	0回	
②近隣小中高生等の学習体験受入	0回	0回	1回	

7 赤十字思想の普及・広報

(1) 赤十字事業の普及啓発

赤十字に対する理解を深め、社業発展の基盤を確立するために、さまざまな機会や媒体を活用した積極的な情報の発信が必要であることから、次のような赤十字思想の普及啓発に努めた。

ア 支部における広報活動

(ア) 広く県民に対して赤十字事業への理解と協力を求める必要があることから「赤十字ふれあいフェスティバル」を開催し、赤十字事業に対する県民の認識を高め、赤十字思想の普及を図ることを目的としている。令和4年度は3年振りの開催ということもあり、県支部として初めて2カ所（北上市、盛岡市）で実施した。



10/9（日）北上市、10/16（日）盛岡市で開催したフェスティバルの様子

(イ) 広報紙「赤十字いわて」の発行及び赤十字 NEWS 等の配付

- ・赤十字いわて 年2回各 6,500部（会員約 5,000件への送付を含む）
- ・赤十字 NEWS（新聞） 毎月1回各 1,500部
- ・赤十字いわて特別号 年1回全世帯配布 425,500部



「赤十字いわて」
（左 夏季・秋季号・右 冬季・春季号）



「赤十字いわて」特別号（各戸配布用）

(ウ) JR 東北本線（盛岡～一関間）車内広告用ポスターを年に4回更新しながら赤十字のPRを行った。



(エ) 赤十字運動月間に新聞広告（全地区分区の協賛を含む）と民放各社の協力を得て、テレビ・ラジオCMスポット放送による広報を行い県民に運動の周知を行った。また、テレビスポットについては、通年でのCMスポット（30秒）放送を民放放送局（4社）に依頼した。



令和4年度日本赤十字社テレビCMスポット
民放4社の協力を得て5月を中心に通年放送した

岩手日報誌面での広告(5月1日)

各地区分区と協賛各社の協力により
全面広告を行った

- (オ) ラジオ媒体を使って通年にわたり、県民へ各赤十字施設の事業内容を周知した。
- ・ IBC 岩手放送ワイドステーション内の「身近な赤十字」(月1回 第一月曜日 15時15分～放送)を実施した。



- ・ FM 岩手朝の情報番組アクセセル内の「教えて赤十字」(月2回 第2、4火曜日 8時35分～放送)を実施した。



- (カ) 令和4年度岩手日報社主催の「いわて防災サミット」への後援・協賛を行い、赤十字が行う防災・減災事業の周知と、岩手県支部と覚書を交わしている災害救助犬に関する周知を行った。



- (キ) 5月の赤十字運動月間期間中、岩手県庁県民ホールに当支部活動パネルとチラシを展示した。



(ク) 日本赤十字社（本社）が令和3年度より各都道府県支部のホームページを統一（管理）し、クレジットカードによる支援等寄付方法の選択肢の拡充や、赤十字の最新情報をいち早く入手できるなど、支援者へのサービス向上の一助となっている。

令和4年度も、ホームページの他Instagramでの広報活動を行い、特に若年層へのアプローチをするなど積極的に県民に発信した。



令和4年度投稿数 149
 フォロワー1,235人
 令和5年3月31日現在

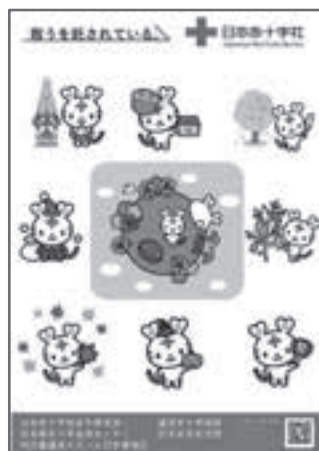
(ケ) 日本赤十字社のマスコットキャラクター「ハートラちゃん」のノベルティグッズの購入や、岩手県支部独自で広報用グッズを作成し、イベントでの配布のほか、赤十字会員など法人へのCSR・SDGs活動の推進に向けて積極的に活用した。

令和4年度作成 ハートラちゃんを活用したノベルティグッズ ①タオル ②クリアファイル ③ハートラちゃん人形
 10月に2度開催された「赤十字ふれあいフェスティバル」の際、一般来場者にグッズを配布するなど活用した。

①

②

③



(ケ) 広報活動の評価・検証を管下施設の広報業務連絡調整会議広報委員会（3月）で行った。

イ 地区・分区における広報活動

地区・分区を通じ、赤十字運動月間用チラシの全戸配布とポスターの掲出依頼を行うほか、市町村広報紙を活用した広報活動を促進する。また、産業まつり等の地域イベントに赤十字活動紹介ブースを出展し、救急法ミニ講習や災害救援物資の展示など地域に密着した広報活動を可能な限り展開した。

令和4年度 運動月間ポスター

各自治会・町内会の掲示板に掲出された



ウ 本社主催の広報活動

(ア) 防災・減災プロジェクト

東日本大震災から12年が経過し、毎年のように甚大で広域な災害が発生している。日本赤十字社では、令和2年度より災害や感染症からいのちを守り、家族や地域で多くの方々に災害の備えに取り組む行動のきっかけとなることを目的に、3月1日からの1か月間、Twitter投稿（#あなたの備えがみんなの備えにキャンペーン）を全国から募り、投稿者の備えをより多くの方が共有し、自助から共助に繋がるよう実施している。

1投稿につき100円が、賛同企業・団体から地域の防災・減災に取り組む日赤に寄付される仕組みを作り、趣旨に賛同する企業に寄付の募集を行っている。（ホームページ上で協賛企業の紹介あり）

岩手県支部としてこのキャンペーンに参加し、各企業にキャンペーンへの理解と協賛金の募集を行った。

令和4年度 日赤岩手県支部協賛企業実績数 10社



防災・減災プロジェクトシンボルマーク



令和4年度 防災・減災キャンペーンポスター

8 会員・活動資金

(1) 会員・社資概要

赤十字活動の財政基盤をより強固にするため、毎年5月を赤十字会員増強運動月間として、地区・分区役職員や協賛委員・地域奉仕団・有功会などの赤十字関係者の理解と協力を得て、活動資金の募集活動を実施するとともに赤十字思想の普及を図った。また、赤十字会員（年額2,000円以上の支援者）には、年2回、広報誌を発送するなど情報提供を行い、支部事業への理解促進を図るとともに、活動資金の振込用紙を同封して資金確保に努めた。

令和4年度は、法人活動資金が目標額を5%程度上回ったものの、地区分区扱いの一般活動資金が都市部で低調だったことから目標額を下回る見込みとなった。依然コロナウイルス感染症やウクライナ人道危機による物価高騰による経済活動の低迷した状況で、年々減少傾向にある一般活動資金の募集について、これまで以上に強化することが急務である。

日赤岩手県支部 会員数（会費2,000円以上の納入）

令和5年3月31日現在

会 員 数	一 般 会 員	法 人 会 員
	1,307 人	2,207 社

令和4年度 社資（活動資金）募集実施結果

区 分	目 標 額 (円)	実 績 額 (円)	達 成 率 (%)
一般活動資金	168,888,000	164,937,038	97.7
法人活動資金	20,681,000	21,766,426	105.2
合 計	189,569,000	186,703,464	98.5

地区・分区における会員の増強及び赤十字事業の進展を図るため、次のとおり説明会を開催した。

名称	開催日	場所	参加人数	主な内容
地区・分区担当課長 及び事務担当者説明会	4月21日	盛岡地区合同庁舎	14名	<ul style="list-style-type: none"> ・重点事業の説明 ・赤十字事業の概要 ・令和4年度事業計画 ・赤十字活動資金募集 ・地区分区事務処理 ・表彰事務 ・義援金、救援金募集 ・災害時の対応 ・赤十字奉仕団の活動 ・赤十字講習、防災セミナー
	4月22日	釜石市民ホール	16名	
	4月26日	奥州地区合同庁舎	16名	
	4月28日	久慈地区合同庁舎	13名	



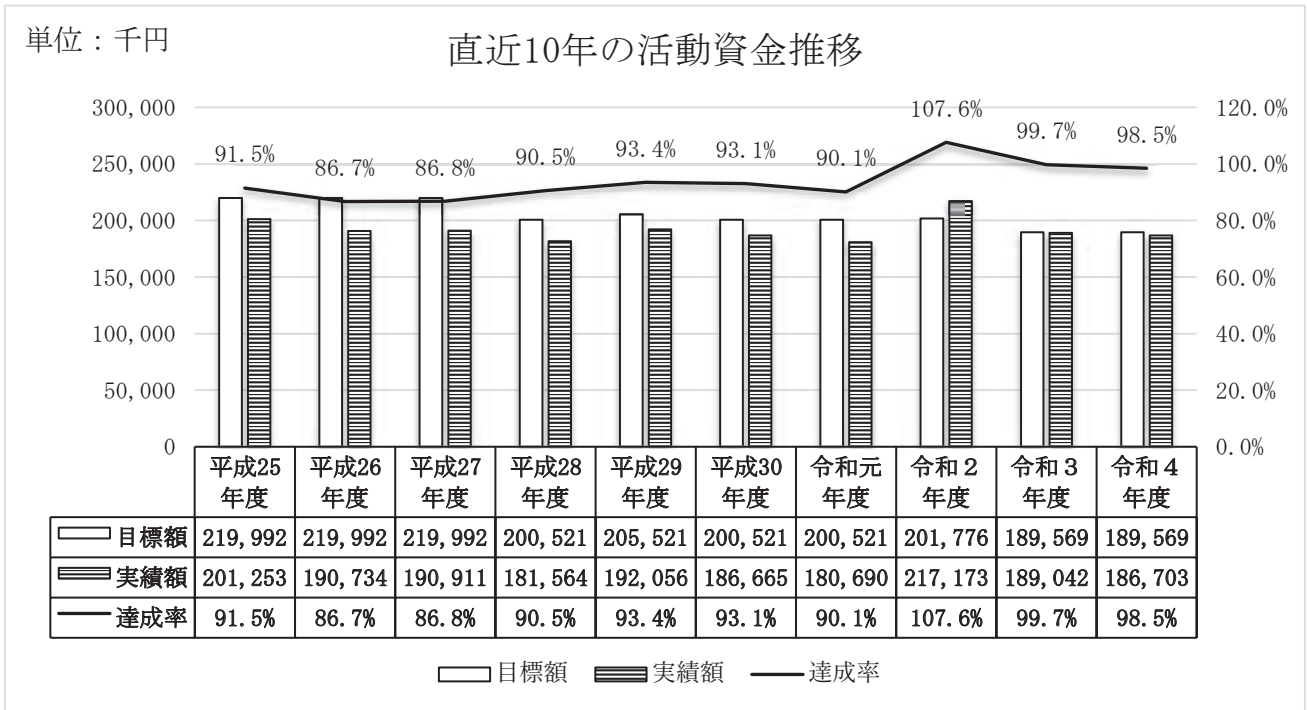
令和4年度活動資金収納状況一覧表

令和5年3月31日現在

地区・分区	一般活動資金			法人活動資金			総額			前年度実績額
	目標額	実績額	達成率	目標額	実績額	達成率	目標額	実績額	達成率	
盛岡市	40,529,000	18,397,077	45.4%	3,816,000	3,698,249	96.9%	44,345,000	22,095,326	49.8%	23,706,805
宮古市	7,101,000	6,788,482	95.6%	669,000	165,500	24.7%	7,770,000	6,953,982	89.5%	6,974,450
大船渡市	4,713,000	4,956,700	105.2%	627,000	140,000	22.3%	5,340,000	5,096,700	95.4%	5,585,600
花巻市	12,609,000	12,381,100	98.2%	1,401,000	1,508,000	107.6%	14,010,000	13,889,100	99.1%	14,288,022
北上市	12,750,000	10,630,600	83.4%	2,126,000	2,543,000	119.6%	14,876,000	13,173,600	88.6%	13,430,718
久慈市	4,981,000	5,041,110	101.2%	525,000	658,000	125.3%	5,506,000	5,699,110	103.5%	5,795,810
遠野市	3,462,000	4,160,900	120.2%	345,000	356,500	103.3%	3,807,000	4,517,400	118.7%	5,699,000
一関市	15,088,000	17,909,795	118.7%	1,371,000	1,124,100	82.0%	16,459,000	19,033,895	115.6%	19,948,210
陸前高田市	2,398,000	2,867,400	119.6%	197,000	0	0.0%	2,595,000	2,867,400	110.5%	2,784,500
釜石市	4,601,000	3,048,877	66.3%	454,000	225,500	49.7%	5,055,000	3,274,377	64.8%	3,914,972
二戸市	3,799,000	4,029,063	106.1%	1,091,000	758,000	69.5%	4,890,000	4,787,063	97.9%	5,181,720
八幡平市	3,502,000	3,647,500	104.2%	305,000	296,000	97.0%	3,807,000	3,943,500	103.6%	4,238,500
奥州市	15,058,000	15,991,750	106.2%	1,398,000	945,250	67.6%	16,456,000	16,937,000	102.9%	17,172,596
滝沢市	7,770,000	4,610,806	59.3%	353,000	104,000	29.5%	8,123,000	4,714,806	58.0%	4,975,537
地区計	138,361,000	114,461,160	82.7%	14,678,000	12,522,099	85.3%	153,039,000	126,983,259	83.0%	133,696,440
磐石町	2,187,000	2,288,700	104.7%	181,000	133,000	73.5%	2,368,000	2,421,700	102.3%	2,396,100
葛巻町	855,000	1,147,500	134.2%	73,000	130,000	178.1%	928,000	1,277,500	137.7%	1,328,000
岩手町	1,802,000	2,120,500	117.7%	128,000	130,000	101.6%	1,930,000	2,250,500	116.6%	2,500,440
紫波町	4,376,000	4,633,207	105.9%	267,000	50,000	18.7%	4,643,000	4,683,207	100.9%	4,804,000
矢巾町	3,528,000	3,143,300	89.1%	388,000	243,000	62.6%	3,916,000	3,386,300	86.5%	3,690,000
盛岡地区	12,748,000	13,333,207	104.6%	1,037,000	686,000	66.2%	13,785,000	14,019,207	101.7%	14,718,540
西和賀町(北上)	724,000	939,005	129.7%	245,000	277,000	113.1%	969,000	1,216,005	125.5%	1,229,800
金ヶ崎町(水沢)	2,122,000	2,044,500	96.3%	135,000	286,000	211.9%	2,257,000	2,330,500	103.3%	2,361,500
平泉町(一関)	892,000	1,045,000	117.2%	100,000	186,000	186.0%	992,000	1,231,000	124.1%	1,277,500
住田町(大船渡)	686,000	833,700	121.5%	55,000	0	0.0%	741,000	833,700	112.5%	841,700
大槌町(釜石)	1,595,000	1,687,000	105.8%	105,000	0	0.0%	1,700,000	1,687,000	99.2%	1,775,000
山田町	1,999,000	2,143,500	107.2%	152,000	0	0.0%	2,151,000	2,143,500	99.7%	2,243,500
岩泉町	1,310,000	1,618,600	123.6%	288,000	330,000	114.6%	1,598,000	1,948,600	121.9%	1,951,200
田野畑村	450,000	517,000	114.9%	31,000	0	0.0%	481,000	517,000	107.5%	555,500
宮古地区	3,759,000	4,279,100	113.8%	471,000	330,000	70.1%	4,230,000	4,609,100	109.0%	4,750,200
野田村	561,000	660,500	117.7%	77,000	68,000	88.3%	638,000	728,500	114.2%	757,800
普代村	362,000	412,500	114.0%	34,000	31,000	91.2%	396,000	443,500	112.0%	446,000
洋野町	2,273,000	2,550,700	112.2%	313,000	327,000	104.5%	2,586,000	2,877,700	111.3%	3,136,100
久慈地区	3,196,000	3,623,700	113.4%	424,000	426,000	100.5%	3,620,000	4,049,700	111.9%	4,339,900
軽米町	1,259,000	1,435,500	114.0%	218,000	292,000	133.9%	1,477,000	1,727,500	117.0%	1,741,500
九戸村	726,000	937,000	129.1%	55,000	0	0.0%	781,000	937,000	120.0%	947,000
一戸町	1,804,000	2,345,700	130.0%	138,000	56,000	40.6%	1,942,000	2,401,700	123.7%	2,452,800
二戸地区	3,789,000	4,718,200	124.5%	411,000	348,000	84.7%	4,200,000	5,066,200	120.6%	5,141,300
分区計	29,511,000	32,503,412	110.1%	2,983,000	2,539,000	85.1%	32,494,000	35,042,412	107.8%	36,435,440
地区分区計	167,872,000	146,964,572	87.5%	17,661,000	15,061,099	85.3%	185,533,000	162,025,671	87.3%	170,131,880
支部扱い	1,016,000	17,972,466	1768.9%	3,020,000	6,705,327	222.0%	4,036,000	24,677,793	611.4%	18,909,792
総計	168,888,000	164,937,038	97.7%	20,681,000	21,766,426	105.2%	189,569,000	186,703,464	98.5%	189,041,672

(単位：円、達成率：%)

※ () は郡地区



※平成29年度は日赤鷲鳴荘新築移転特別寄付金の募集があったため、目標額が増加していること。

(2) 遺贈・相続財産寄付の推進

近年、遺贈（遺言による寄付）、相続財産寄付（相続人が相続により取得した財産による寄付）により、「自分が築いた財産を社会に役立てたい」、「故人の遺産を社会に役立てて欲しい」という申し出が増えており、そのような申し出に迅速に対応できるように令和3年10月20日に岩手県司法書士会と連携協定を締結した。その後、岩手県司法書士会との共催で「次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー」を次のとおり開催し、遺贈・相続財産寄付の獲得に向けた取り組みを実施した。

開催日	場所	参加人数	内容
9月1日	ブランニュー北上	29名	司法書士による相続・遺言講座
2月21日	サンセール盛岡	30名	日本赤十字社の活動について



(3) 個人・企業とのパートナーシップ推進

赤十字事業への理解促進、活動資金募集を目的として、以下のとおり来客及び訪問で CSR や SDGs の提案を取り入れながら企業対応を実施した。



ア 企業対応件数

目標数	実績数
100 件	126 件

イ 協定の締結

令和4年度は2者（社）との協定を締結した。

(ア) 災害時における食糧支援に関する協定

高館農園【矢巾町】（9月20日）

岩手県内で災害が発生、又は発生する恐れがある場合の避難所で生活する被災者及び救護業務にあたる日本赤十字社職員や赤十字ボランティアへの食糧支援を目的として締結。



(イ) 包括パートナーシップにかかる事業連携に関する協定

明治安田生命保険相互会社 盛岡支社【盛岡市】岩手南支社【奥州市】（2月9日）

緊密な相互連携と協働による社会貢献活動を推進し、地域社会の活性化や課題解決に向けて、人々の健康・福祉を支え、豊かな社会づくりに取り組むため、岩手県内で具体的に実施する事業を明らかにし円滑に推進することを目的として締結。



道の駅雫石あねっこでの健康増進イベント

ウ 赤十字寄付金付き自動販売機の設置

令和4年度までに法人会員を中心に**赤十字寄付金付き自動販売機**（飲料用）の設置が累計**60**台となっており着実に支援の輪が広がっている。赤十字マークがより県民の目に触れられる機会を増やし、活動資金の安定確保と支援の意識の醸成を図る。



(4) 表彰概要

有功章等贈与規則により表彰を実施し、寄付者及び功労者に感謝の意を伝達した。

ア 全国赤十字大会

全国赤十字大会は新型コロナウイルス感染症の影響により5月18日に縮小開催となったが、赤十字事業の進展を図るため、寄付者及び功労者とともに参会した。



イ 地区・分区主催の表彰伝達式

寄付者及び功労者に感謝の意を表すため、次のとおり地区・分区主催の表彰伝達式に参加した。

開催日	主催	場所
6月1日	金ヶ崎町分区	金ヶ崎町役場
10月24日	盛岡市地区	盛岡市役所
11月1日	大槌町分区	大槌町役場
11月17日	花巻市地区	東和温泉
11月24日	遠野市地区	遠野市役所とびあ庁舎
12月2日	釜石市地区	釜石市民ホール TETTO



盛岡市



釜石市

有功章贈与規則による表彰一覧表

(単位:件)

地区区分名	社 資 功 勞							業 務 功 勞					献血功勞	
	紺綬褒章	厚生労働大臣感謝状	社長感謝状	金 色 有功章	銀 色 有功章	支部長 感謝状	特別社員	社長感謝状	金 色 有功章	銀 色 有功章	支部長 感謝状金柁	支部長 感謝状銀柁	金 色 有功章	銀 色 有功章
盛岡市				3	7	3	24						31	50
釜石市						1	6		1	1	3	4		
宮古市							6		1	2	11	12		1
一関市				1	3	7	23		15	11	23	86	1	7
大船渡市							1					1		
奥州市				1	5	4	3			3		32	4	1
花巻市			1	1	1	2	4		2	6	13	42	7	6
北上市			2	1	7	9	12						3	9
久慈市									2	1	11	1		4
遠野市					1	2	3				5	4		
陸前高田市							1						1	1
二戸市				1	4	1	1		3	1	4	8	3	1
八幡平市					1	5	8						1	5
滝沢市													1	11
雫石町													2	1
葛巻町														
岩手町														
紫波町													6	
矢巾町							1						2	2
西和賀町					3	2								1
金ヶ崎町							1						1	1
平泉町														
住田町							1							
大槌町									2					
山田町														1
岩泉町														
田野畑村													1	
洋野町				1	1	1							1	
野田村														
普代村														
一戸町							1		1	1	3	7		1
軽米町					1	1								
九戸村														1
計	0	0	3	9	34	38	96	0	27	26	73	197	65	104
支部扱い	1	1	2	5	10	28	68	3		3	5	8		
合計	1	1	5	14	44	66	164	3	27	29	78	205	65	104
総計	295							342					169	

9 有功会の育成及び活動

有功会は、地域において赤十字精神を広く普及する様々な活動を行なう任意のボランティア組織であり赤十字に対する最大の応援団である。現在、県内には9地区に有功会があり総勢約660名の会員がいるが、年々会員の減少による地区区分有功会の休会が相次いでおり、コロナ感染症の蔓延により事業活動にも影響が出ている。赤十字思想の普及、会員増強活動等、赤十字事業の推進に大きな役割を担っている支部有功会連合会及び地区・区分有功会の活動が積極的に展開されるよう支援した。

(1) 有功会の育成強化

ア 県内の有功会会員や有功章受章者が一堂に会する「日赤岩手県支部第1回有功会感謝の集い」を開催し、表彰や懇談、講演会を行うなど、日々の活動への感謝を表すとともに、会員同士の情報交換や研修を兼ねた場を設け、地区有功会活動の活性化を図った。



9月9日に開催した第1回有功会感謝の集い

イ 全国赤十字大会（東京都開催）への派遣を行うほか、地区・区分有功会が実施する総会等に参加し、地域における有功会活動の活性化に努めた。

岩手県支部有功会連合会

有功会名	会長名	加盟数	設置年月日
県支部有功会連合会	齊藤 洋美	9	昭和63年3月14日

地区区分有功会名簿

有功会名	会長名	会員数	設置年月日
1 盛岡市地区	春山 一男	76	昭和62年10月26日
2 遠野市地区	佐々木 達郎	135	昭和51年4月19日
3 奥州市地区	熊谷 孝一	36	平成18年7月24日
4 北上市地区	高橋 祥元	112	昭和55年2月1日
5 二戸地区	山崎 雄一	11	昭和60年10月18日
6 陸前高田市地区	鈴木 康文	24	昭和62年1月24日
7 大船渡市地区	大和田 恭子	145	昭和63年11月21日
8 花巻市地区	齊藤 洋美	61	平成1年3月29日
9 二戸市地区	國分 敏彦	29	平成10年11月6日
計 9地区		629	

10 評議員会の開催

令和4年度の評議員会は次のとおり実施され、支部並びに施設における事業、予算、決算等について審議した。

評議員会	期 日・場 所	審 議 等 事 項
第1回評議員会	令和4年6月20日（月） エスポワールいわて	協議事項 1 令和3年度事業報告 2 令和3年度一般会計歳入歳出決算 3 令和3年度医療施設特別会計歳入歳出決算 4 令和3年度社会福祉施設特別会計歳入歳出決算 5 令和4年度事業計画、取組
第2回評議員会	令和5年2月13日（月） エスポワールいわて	協議事項 1 令和4年度補正予算 2 令和5年度事業計画 3 令和5年度一般会計歳入歳出予算 4 令和5年度医療施設特別会計歳入歳出予算 5 令和5年度社会福祉施設特別会計歳入歳出予算 報告事項 1 各施設の事業運営

日本赤十字社岩手県支部役員、評議員名簿

(令和5年4月1日現在)

役員名等	氏名	職業名等	摘要(選出区分等)
支部長	達増 拓也	岩手県知事	
副支部長	谷藤 裕明	盛岡市長	
〃	野原 勝	岩手県企画理事兼保健福祉部長	
本社常任理事・代議員	守谷 祐志		
代議員	石川 健正		
〃	齊藤 洋美		
〃	木戸口 敏男		
監査委員	十文字 悦子		
〃	三浦 千代子		
〃	國分 敏彦		
評議員	藤原 哲	㈱岩手日報社常務取締役執行役員総務局長	支部長
〃	鎌田 英樹	㈱IBC岩手放送代表取締役会長	支部長
〃	石川 健正	㈱岩手銀行取締役常務執行役員	支部長
〃	守谷 祐志	岩手県支部有功会連合会顧問	盛岡市
〃	小枝指 好夫		盛岡市
〃	十文字 悦子	盛岡市赤十字奉仕団員	盛岡市
〃	長沢 雅彦	農 業	宮古市
〃	中村 和司	大船渡市赤十字奉仕団委員長	大船渡市
〃	齊藤 洋美	岩手県支部有功会連合会会長	花巻市
〃	菅原 洋子	北上市赤十字奉仕団委員長	北上市
〃	木戸口 敏男	久慈市赤十字奉仕団事務局長	久慈市
〃	菅原 直徳	岩手県支部遠野市地区有功会理事	遠野市
〃	辻山 慶治	一関市社会福祉協議会会長	一関市
〃	三浦 千代子	一関市川崎赤十字奉仕団委員長	一関市
〃	泉 進	自 営 業	陸前高田市
〃	佐々木 亨	釜石市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	釜石市
〃	國分 敏彦	二戸市議会議員・岩手県支部二戸市地区有功会会長	二戸市
〃	佐々木 幸雄	八幡平市赤十字奉仕団委員長	八幡平市
〃	熊谷 孝一	岩手県支部奥州市地区有功会会長	奥州市
〃	鈴木 明夫	岩手県支部奥州市地区有功会副会長	奥州市
〃	主浜 照風	農 業	滝沢市
〃	猿子 恵久	雫石町長	盛岡
〃	鈴木 重男	葛巻町長	盛岡
〃	高橋 昌造	矢巾町長	盛岡
〃	内記 和彦	西和賀町長	北上
〃	高橋 寛寿	金ヶ崎町長	水沢
〃	青木 幸保	平泉町長	一関
〃	神田 謙一	住田町長	大船渡
〃	平野 公三	大槌町長	釜石
〃	佐藤 信逸	山田町長	宮古
〃	岡本 正善	洋野町長	久慈
〃	晴山 裕康	九戸村長	二戸

(評議員任期 令和4年2月14日～令和7年2月13日)

11 決算概要

(1) 一般会計歳入歳出決算報告(日本赤十字社岩手県支部)

一般会計 (歳入)	1 社資収入	190,033,129 円
	2 補助金及び交付金収入	14,525,697 円
	3 繰入金収入	3,329,665 円
	4 資産収入	2,500,000 円
	5 雑収入	4,150,224 円
	6 前年度繰越金	14,884,147 円

歳 入 合 計 229,422,862 円

一般会計 (歳出)	1 災害救護事業費	災害義援金 災害救護訓練への参加 救護装備の整備 救援物資の整備	22,054,378 円
	2 社会活動費	救急法等講習の普及 講習資材の整備 青少年赤十字の普及	25,760,596 円
	3 国際活動費	国際救援活動、国際開発協力 海外救援金	3,965,665 円
	4 指定事業地方振興費	救護班関係装備品整備	5,829,665 円
	5 地区区分交付金支出	市町村での赤十字事業の促進	33,336,703 円
	6 社業振興費	広報活動の促進 活動資金募集及び会員管理	42,672,616 円
	7 基盤整備交付金 ・補助金支出	医療施設基盤整備 血液事業普及整備 社会福祉施設基盤整備	150,000 円
	8 積立金支出		16,696,542 円
	9 業務管理運営費等		36,203,750 円
	10 本社送納金支出		26,535,519 円
	11 翌年度繰越金		16,217,428 円

歳 出 合 計 229,422,862 円

(2) 医療施設特別会計歳入歳出決算報告

盛岡赤十字病院

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
	円		円
医 業 収 益	7,453,393,385	医 業 費 用	8,448,450,646
医 業 外 収 益	1,262,731,608	医 業 外 費 用	43,275,631
医 療 社 会 事 業 収 益	186,968	医 療 奉 仕 費 用	93,477,267
特 別 収 益	1,160,680	特 別 損 失	4,430,163
		法 人 税 等	-192,871
		当 期 利 益 剰 余 金	128,031,805
歳 入 合 計	8,717,472,641	歳 出 合 計	8,717,472,641

(3) 社会福祉施設特別会計歳入歳出決算報告

日赤岩手乳児院・日赤鶯鳴荘

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
日赤岩手乳児院分	円		円
措 置 費 収 入	219,739,760	人 件 費 支 出	197,657,567
補 助 金 事 業 収 入	319,000	事 務 費	10,017,846
受 託 収 入	5,957,485	事 業 費	14,580,552
寄 付 金 収 入	774,000	固 定 資 産 取 得 支 出	154,000
他 会 計 繰 入 金 収 入	166,040	そ の 他 の 支 出	28,089,705
そ の 他 収 入	33,011,397		
前 年 度 繰 越 金	41,161,462		
小 計	301,129,144	小 計	250,499,670
日赤鶯鳴荘分	円		円
介 護 保 険 事 業 収 入	500,555,895	人 件 費 支 出	403,886,495
寄 付 金 収 入	391,224	事 務 費	29,587,845
補 助 金 収 入	5,068,272	事 業 費	76,790,701
受 取 利 息 配 当 金 収 入	1,904	借 入 金 償 還 支 出	27,826,000
他 会 計 繰 入 金 収 入	705,600	固 定 資 産 取 得 ・ 除 却 支 出	190,300
そ の 他 の 収 入	49,124,569	フ ァ イ ナ ン ス ・ リ ー ス 債 務 返 済 支 出	4,885,920
前 年 度 繰 越 金	96,796,289	そ の 他 支 出	17,480,186
小 計	652,643,753	小 計	560,647,447
歳 入 合 計	953,772,897	歳 出 合 計	811,147,117

歳入歳出差引額 142,625,780円 (翌年度繰越金)

日赤岩手乳児院 50,629,474円

日赤鶯鳴荘 91,996,306円

付 録

日本赤十字社岩手県支部現勢

日本赤十字社スローガン
人間を救うのは、人間だ。

◎赤十字の基本原則
・人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

◎ジュネーブ条約締結国 196カ国
○国際赤十字・赤新月社 192社

1. 沿革

明治20年(1887)11月12日・・・日本赤十字社岩手委員会創立
明治29年(1896)5月20日・・・日本赤十字社岩手支部に改称
昭和27年(1952)8月14日・・・日本赤十字社岩手県支部に改称

2. 会員 個人 1,307人
法人 2,207社

3. 評議員 32人 (定員32人)

4. 役員 (令和5年4月1日現在)

支部長 達増拓也
副支部長 谷藤裕明、野原勝
本社常任理事 守谷 祐志
本社代議員 石川健正、齊藤洋美、木戸口敏男
支部監査委員 十文字悦子、三浦千代子、國分敏彦

5. 青少年赤十字 (令和5年3月31日現在)

幼稚園・保育所	53校	2,919人
小学校	97校	20,456人
中学校	44校	9,363人
高等学校	18校	1,123人
特別支援学校	3校	66人
計	215校	33,927人

6. 赤十字ボランティア (令和5年3月31日現在)

地域赤十字奉仕団	32団	1,084人
青年赤十字奉仕団	3団	86人
特殊赤十字奉仕団	14団	544人
計	49団	1,714人

7. 有功会 (令和5年3月31日現在)

組織数	会員数
9	629人

8. 講習普及活動

区分	指導員登録者数
救急法	87人
水上安全法	15人
雪上安全法	1人
健康生活支援	22人
幼児安全法	33人
計	158人

9. 国際活動

NHK海外たすけあいキャンペーン

652件	783,522円
------	----------

ウクライナ人道支援救援金

254件	21,173,366円
------	-------------

10. 災害等救援

救護班	8班 48人
無線局	基地局 2、移動局 50
救護車両	8台
R4年度取扱義援金額	1件 5,000円
配布救援物資(令和3年度)	230個(毛布、緊急セット、バスタオル)

11. 医療事業

施設数	
病院	1
病床総数(令和4年度)	398床
総患者数(令和4年度)	
入院	74,143人 (203.1人/日)
外来	121,796人 (501.2人/日)

12. 血液事業

施設数	車両台数
血液センター	1 献血バス 4台
献血ルーム	1 血液運搬車 10台
奥州供給出張所	1 その他車両 16台
献血者数(令和4年度)	供給本数(令和4年度)
成分献血 12,519人	赤血球 58,466本
400mL献血 29,318人	血漿 15,922本
200mL献血 1,267人	血小板 75,880本
合計 43,104人	合計 150,268本

13. 社会福祉施設

事業の区分	施設の種類	施設数
児童福祉施設	乳児院	1
老人福祉施設	特別養護老人ホーム	1

14. 施設及び職員数 (令和5年4月1日現在)

区分	施設数	職員数
支部	1	11人
病院	1	607人
血液センター	1	80人
乳児院	1	38人
特別養護老人ホーム	1	87人
合計	5	823人

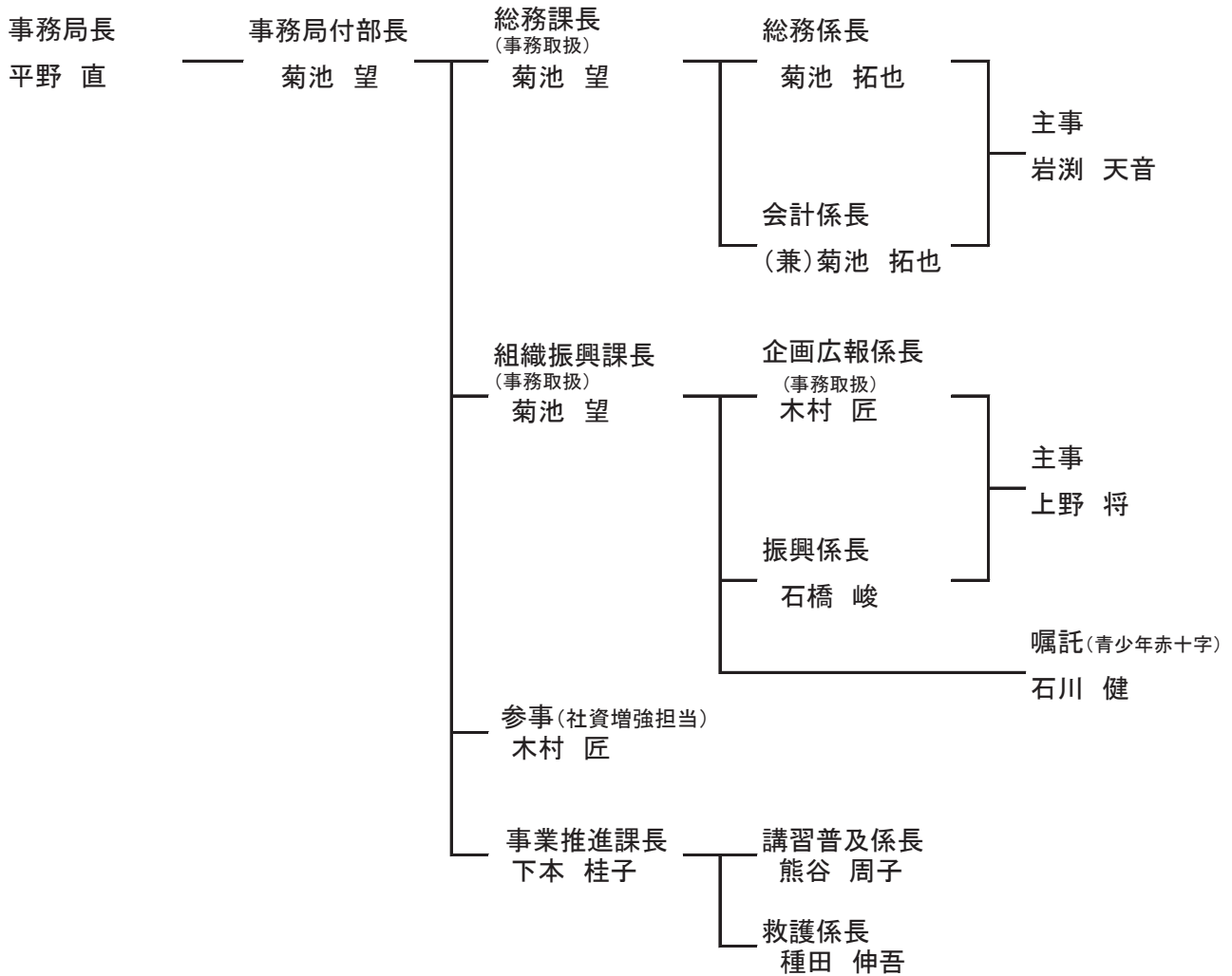
15. 会計 (令和4年度当初予算)

一般会計(支部)	213,538千円
社会福祉特別会計	906,622千円
医療事業特別会計	8,638,323千円

※血液事業特別会計は、ブロック化に伴い岩手センター単独での計上はなし

日本赤十字社岩手県支部組織図

令和5年4月1日現在



各施設等の職員数

施設等名	正職員	嘱託	臨時職員等	計
日本赤十字社岩手県支部	10人	1人	0人	11人
盛岡赤十字病院	478人	20人	109人	607人
岩手県赤十字血液センター	44人	28人	8人	80人
岩手県赤十字血液センター盛岡大通り出張所	(9人)	(4人)	(0人)	(13人)
岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所	(2人)	(3人)	(3人)	(8人)
日赤岩手乳児院	29人	5人	4人	38人
特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘	39人	36人	12人	87人
合計	600人	90人	133人	823人

各施設の幹部職員

「盛岡赤十字病院」

(令和5年4月1日現在)

役 職 名	兼務	氏 名	役 職 名	兼務	氏 名
病 院 長		久 保 直 彦	第二産婦人科部長		畑 山 伸 弥
副 院 長		藤 原 純	眼 科 部 長		欠
副 院 長		一 戸 克 明	耳 鼻 咽 喉 科 部 長		佐 藤 尚 徳
			放 射 線 科 部 長		欠
総 合 診 療 科 部 長		欠	第 一 麻 酔 科 部 長		西 嶋 茂 樹
第 一 血 液 内 科 部 長		菅 原 健	第 二 麻 酔 科 部 長		永 田 博 文
第 二 血 液 内 科 部 長		峯 貴 浩	ペ ー イン クリ ニック 科 部 長		星 有 己 枝
精 神 科 部 長		欠	リ ハ ビ リ テー シ ョ ン 科 部 長	兼	久 保 直 彦
脳 神 經 内 科 部 長		米 澤 久 司	健 診 部 長		鎌 田 弘 之
呼 吸 器 内 科 部 長		田 村 伸 夫	病 理 部 長		欠
第 一 消 化 器 内 科 部 長		藤 原 隆 雄	薬 剤 部 長		鈴 木 弘 文
第 二 消 化 器 内 科 部 長		安 孫 子 幸 人	医 療 技 術 部 長	兼	一 戸 克 明
循 環 器 内 科 部 長		小 澤 真 人	医 療 社 会 事 業 部 長	兼	藤 原 隆 雄
第 一 小 児 科 部 長		小 西 雄 華	医 療 技 術 部 技 師 長		浅 沼 匡 介
第 二 小 児 科 部 長		梶 原 和 華			
消 化 器 外 科 部 長		欠	看 護 部 長		藤 根 美 知 子
第 一 外 科 部 長		大 山 健 一	看 護 副 部 長		高 橋 節 子
第 二 外 科 部 長		欠	看 護 副 部 長		山 口 裕 子
小 児 外 科 部 長		欠			
緩 和 ケ ア 科 部 長		欠	事 務 部 長		石 山 武 美
第 一 整 形 外 科 部 長	兼	一 戸 克 明	総 務 課 長		赤 平 寛 彦
第 二 整 形 外 科 部 長		欠	企 画 管 理 課 長		生 内 正 悦
第 一 脳 神 經 外 科 部 長		和 田 司	管 財 課 長		阿 部 賢 二
第 二 脳 神 經 外 科 部 長		船 山 雅 之	医 事 課 長		畠 山 誠 次
皮 膚 科 部 長		馬 場 由 香	施 設 管 理 課 長		砂 子 澤 誠 一
泌 尿 器 科 部 長		瀬 尾 崇	医 療 社 会 事 業 課 長		沼 田 佳 子
第 一 産 婦 人 科 部 長		本 田 達 也	健 診 課 長		鷹 觜 康 之

「岩手県赤十字血液センター」

役 職 名	兼務	氏 名	役 職 名	兼務	氏 名
所 長		増 田 友 之	採 血 課 長		中 島 み どり
事 業 部 長		梅 野 真 和	品 質 情 報 課 長		乳 井 和 夫
事 業 副 部 長		佐 藤 泉 悦	医 務 課 長	兼	増 田 友 之
総 務 課 長	兼	佐 藤 泉 悦	盛 岡 大 通 り 出 張 所 長		佐 々 木 孝 司
献 血 推 進 課 長		西 海 枝 武 志	奥 州 供 給 出 張 所 長		中 野 宏
学 術 情 報 ・ 供 給 課 長		中 村 秀 一			

「日赤岩手乳児院」

役 職 名	兼務	氏 名	役 職 名	兼務	氏 名
院 長	兼	梶 原 和 華	事 務 長		三 上 浩 二

「特別養護老人ホーム鶯鳴荘」

役 職 名	兼務	氏 名	役 職 名	兼務	氏 名
園 長		千 葉 豊 重	事 務 長	兼	千 葉 豊 重

岩 手 県 支 部 の あ ゆ み

()内は月

年 号	西 暦	あ ゆ み
明治10年	1877	博愛社創立
20年	1887	「博愛社」を「日本赤十字社」と改称(5月) 「日本赤十字社岩手委員部」を創立(11)社員数14人
27年	1894	日清戦争が起こり救護活動開始(8月) 日清戦争の間、盛岡駅等主要駅に救護員を派遣し傷病兵の救護、各駅に休憩所を設け茶菓等を提供(27.10～28.5)
29年	1896	本社規則の改正により「岩手委員部」を「岩手支部」と改称(7月) 三陸大津波発生(6月)被災者救護のため医員、看護婦等延102人を派遣。救護人員3,542人 岩手、稗貫、和賀3郡の地震被災地に医員2人を救護のため派遣。現地に診療施設を仮設して25人を救護(8月)
30年 (10周年)	1897	本年度社員数5,239人 看護婦生徒養成細則を定め看護婦養成を開始。初年度入学10人
31年	1898	達曾部村の水害被災地に医員、看護婦4人を派遣し13人を救護 岩手、宮城、福島3支部共同で看護人教育を仙台陸軍衛戍病院に委託(岩手3人)
32年	1899	第1回岩手支部総会を盛岡中学校運動場で開催。参加人員3,244人。この総会の際第1回救護演習を盛岡城跡等の会場にて実施(12月)
33年	1900	北清事変の救護として、本社召集により模範看護婦1人を広島予備病院に派遣 看護婦養成所を盛岡市内丸に移転。実務練習は私立盛岡病院に委託(10月)
35年	1902	沼宮内町火災の被災地に医員、看護婦等8人を派遣し20人を救護(5月)
36年	1903	第2回岩手支部社員総会を盛岡中学校枝運動場で開催。参加人員約3,500人。この総会の際第2回救護演習を盛岡城跡等の会場にて実施(11月)
37年	1904	日露戦争が起こり救護活動を開始(2月)本社及び各県支部で教護班149人派遣 第50救護班を大阪予備病院(のちに弘前予備病院)に派遣 第51救護班を姫路予備病院に派遣 同戦争中盛岡駅等に患者休憩所を設け、支部職員及び篤志看護婦人会員などによる傷病兵の救護、送迎等を実施
39年	1906	東北飢饉に米国から義援金を受ける
40年 (20周年)	1907	本年度社員数20,681人 過去10年間の看護婦養成実績入学80人卒業61人
41年	1908	支部本館等の建設敷地を盛岡市仁王内丸に取得。面積2,550.65坪、価格6,750円
42年	1909	支部本館、看護婦生徒寄宿舎等新築建坪188.5坪建築価格23,800円
43年	1910	支部に救護看護婦養成所を設け本年から養成開始

年号	西暦	あ	ゆ	み
明治45年	1912	看護人教育を盛岡衛生病院に委託		
大正 2年	1913	岩手支部「結核予防撲滅規程」制定(2月)衛生劇、講演会等実施。診療取扱患者235人(大正11年までの延患者取扱数9,921人)		
5年	1916	日本赤十字社岩手支部病院設立計画本社承認 青森県下田・古間木駅間で本県入営兵の搭乗列車が貨物列車と衝突。死亡29人重軽傷100人の事故が発生。医員13人を救護のため派遣(11月)		
6年 (30周年)	1917	岩手支部病院工事着工(10月)		
7年	1918	盛岡市内に流行性感冒大流行のため臨時救護班等により延309人救護(11月)		
8年	1919	弘前第8師団各隊に流行性感冒大流行。同師団軍医部長の依頼により救護看護婦長等5人を派遣し553人を救護(12月)		
9年	1920	岩手支部病院落成(4月)(内科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科98床工事費18万円余) 総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ開院式を挙(6月) 第3回岩手支部社員総会に総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ岩手公園で開催。参加入員4,800人(6月) 支部病院開院に看護婦養成を同病院で実施		
12年	1923	支部病院に小児科設置、病床数132床に増床(6月) 関東地方大震災の救護のため、本社要請に応じて医員(4人)等27人の救護班を派遣し救護活動。篤志看護婦人会、学童の義援金、救援物資による救援も実施 岩手支部病院看護婦長峰谷カツ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章		
13年	1924	山田町大火にあたり、被災地に医員等3人を派遣11人救護(4月) 日本赤十字社岩手県支部少年赤十字結成(9月)		
昭和 3年	1928	総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ御親授式を支部楼上において開催。さらに少年赤十字団御親閲式を岩手公園において挙(10月) 岩手支部病院看護婦長長谷川トミ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章		
4年	1929	岩手支部病院看護婦宿舎を改築(7月)		
5年	1930	岩手支部病院附属産婆養成所開所(2月) 総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ第4回社員総会、御親授式、支部病院創立10周年記念式及び少年赤十字団御親閲式を挙(9月)		
6年	1931	満州事変派遣救護班鉄嶺衛戍病院(昭和7.8.20解散)に救護看護婦3人派遣		
7年	1932	岩手支部病院看護婦長沢田キヌ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章		
8年	1933	秋田県尾去沢鉦山の沈殿池堤防決壊による被災救護に救護班を派遣(11月) 三陸大津波被災者救護のため4班(釜石町、山田町、小本村及び八木村各方面)の救護班を派遣し、臨時教護所を開設して延1,310人の患者を救護(3月)(東京支部、新潟支部からも救護班の派遣あり)		

年号	西暦	あ	ゆ	み
昭和 9年	1934	岩手支部病院に乳幼児保育所(現日赤岩手乳児院)を開設(日本赤十字社の最初の児童福祉施設)		
10年	1935	本年度少年赤十字結成状況366団体103,295人		
11年	1936	秋田県尾去沢鉱山事故に救護班を派遣。17日間救護活動(11月) 日本赤十字社の社旨普及の映画開催19か所参観者23,600人		
12年 (50周年)	1937	日華事変が起こり、救護活動を開始(7月) 赤十字病院の補助制が実施され、支部病院が陸海軍の戦時衛生業務を幫助することとなる。(第1次昭14.1.10～15.5.15、第2次昭20.4.20～20.8.30、この間の収容治療延42,800人) 岩手支部病院看護婦菱川ハツ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章		
14年	1939	松尾鉱山の坑道が崩壊。生埋め者(246人)の救護のため医療班(医員3人、看護婦27人、書記1人)を派遣。救護患者数延1,397人		
15年	1940	高松宮殿下より岩手保育所に対して500円を援助金として下賜(有栖川宮記念厚生資金)		
16年	1941	青森県三本木町の大火に救護班を派遣(5月) 第2次世界大戦が起こり、救護活動開始(12月)		
18年	1943	支部病院規則改正により、岩手支部病院を盛岡赤十字病院と改称(1月)		
19年	1944	大戦救護に全力を傾注するため平時事業中止		
20年	1945	第2次世界大戦終る(8月) 第2次世界大戦の救護本部廃止(11月) (日華事変(昭12.7)から大戦終結までに派遣した救護班17班657人)		
21年	1946	引揚者救護のため派遣救護班岩手第1班を編成し浦賀検疫所に派遣(5月)		
22年 (60周年)	1947	皇后陛下を日本赤十字社名誉総裁に推戴(1月) 日本国憲法施行(5月) キャサリン台風による被災地(一関市)に救護班を派遣、被災者救護の街頭募金を実施(9月) 盛岡駅に赤十字ハウスを開設し病弱な旅行者等を救護(9月) 社員の社費年額を10円以上と改正(1月) 社員の社費年額を30円以上と改正(10月)		
23年	1948	アイオン台風による被災地(死亡393人、行方不明316人、被災者180,117人、被害総額127億円余)に対し、救護班9班を派遣延5,983人の患者を救護(9月) 日赤岩手乳児院が児童福祉法に基づく福祉施設として認可(11月) 岩手支部家庭看護法講習開始		

年号	西暦	あ	ゆ	み
昭和25年	1950	共同募金と分離し赤十字単独で募金運動開始(白い羽根赤十字募金)(5月) 岩手県と日赤岩手支部共催で身体障害者巡回相談を開始 看護婦養成所を盛岡赤十字看護学院と改称(3月)。さらに11月盛岡赤十字高等看護学院と改称		
27年	1952	「日本赤十字社法」制定。特殊法人となりこれを契機に募金運動より社員増強運動に移行(8月) 「日本赤十字社岩手支部」を「日本赤十字社岩手県支部」と改称		
28年	1953	日本赤十字社「新定款」制定(3月) 社員の社費年額を100円以上と定款改正(4月) 岩手県支部事務局長が第5次帰国船興安丸の日本赤十字社代表として乗船(天津より1,192人帰国)(8月) 日本赤十字社「支部規則」制定(9月)		
30年	1955	本年度社員数128,496人 本年度社費募集額13,233,881円 本年度末赤十字奉仕団の結団状況 地域奉仕団143団12,839人 学生奉仕団1団50人 職域奉仕団1団130人 計145団13,019人		
31年	1956	岩手県支部創立70周年記念事業として盛岡市大志田地区に赤十字山林造成開始 盛岡赤十字病院血液銀行を開設し、開所式を挙(1月) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ第5回社員大会並びに御親授式を県公会堂において開催(9月) 社員制度改正、法人社員を新設(有功章を金色、銀色の2種とする)(4月)		
32年 (70周年)	1957	浄法寺町火災の被災16世帯に医療班を派遣(4月) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ親授式を支部において開催(11月) 和賀、胆沢地方の強風災害に災害救助法が適用され、被災世帯に救援金を贈る(12月)		
33年	1958	21号及び22号台風の被災に対して盛岡地区及び久慈地区に災害救助法が適用され、日赤県支部は報道機関、岩手県社会福祉協議会とともに「水害義援金募集岩手県委員会」を設置して募集(支部扱い義援金5万円余、義援品1,720点) 盛岡赤十字病院附属藪川診療所開設(6月) 本社主催の日赤奉仕団中央指導者講習会を花巻市志戸平において開催(第1ブロック各支部から43人参加)		
34年	1959	15号台風の被災地への救援のため「義援金募集岩手県委員会」を設置して募集。愛知県等に義援金品を分配 三陸村及び田老町の豪雨災害に災害救助法が適用され、救援品を送付。 イタリア赤十字から贈られたソルフェリーノの記念樹「糸杉」の種子の配布があり、小山苗圃で愛育管理(62年現在県内には育成していない)		

年号	西暦	あ	ゆ	み
昭和35年	1960	チリ地震津波の被害が甚大なことから「義援金募集委員会」を設置して募集。県内外から多大の義援金品が寄せられ、配分委員会によって7,545万円余、2万5千余個の配分を決定し被災地に送付		
		赤十字による在日朝鮮人の帰還業務が開始され、岩手県支部に臨時帰還業務岩手県対策本部を設置。市地区、町村分区に日赤窓口を設置して帰還業務にあたる。第1回帰還30人		
36年	1961	三陸沿岸大火強風災害による被災者(1,008世帯 5,211人 死者5人)に救護班(8班延169人 取扱い患者2,300余人)を派遣したほか、「義援金募集岩手県委員会」を設置して募集(義援金2,104万円余、義援品7,718個)(5月)		
		日赤、郵政省、NHK共催によるNHK夏季移動相談(医療等)を山田町において実施(8月)		
37年	1962	第1回赤十字奉仕団及び青少年赤十字大会を盛岡市下ノ橋中学校において開催。参加者200人(5月)		
38年	1963	盛岡赤十字病院第1期改築工事完成(1月)		
		国際赤十字百周年記念岩手県大会を県公会堂において開催(10月)		
		在日朝鮮人の帰還業務を日赤単独で実施。38年の帰還者11人 累計124世帯494人		
39年	1964	東京オリンピック県内聖火リレーに救護班を派遣		
		協賛委員制度の充実を図るため、社業推進地区として5町村分区を指定		
		「岩手県献血推進協議会」設置(11月)		
40年	1965	「岩手県赤十字血液センター」開所(3月)		
		名誉副総裁高松宮妃殿下の御臨席を仰ぎ有功章御親授式並びに社員大会を県公会堂において開催(9月)		
		本年度社員数192,025人		
		本年度社費募集総額28,349,416円		
		本年度献血者4,105人		
41年	1966	県北・沿岸豪雨災害発生。久慈市に救護班を派遣。県内外から義援金品の送付。		
		地域代表協賛委員研究会を4地域で開催(初年度)		
42年	1967	岩手県献血推進員制度発足。県内15保健所に駐在(9月)		
(80周年)		盛岡赤十字病院第2期病棟改築工事完成(12月)		
		釜石地区に水上安全奉仕団(25人)結成		
43年	1968	岩手県赤十字会館新築落成(鉄筋コンクリート造4階建延2,643㎡支部事務局、血液センター及び乳児院)(1月)		
		盛岡赤十字高等看護学院新築落成(鉄筋コンクリート造4階建1,554㎡)(1月)		
		赤十字会館、高等看護学院及び赤十字病院第2期工事の完成を祝して落成式を挙(7月)		

年号	西暦	あ	ゆ	み
昭和44年	1969	名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、岩手県赤十字社員大会を県公会堂において開催。参加約1,000人(10月)		
45年	1970	山形、大野両村の林野火災の被災地に救護員を派遣し、義援金品を贈る		
46年	1971	岩手アマチュア無線クラブに赤十字奉仕団結成(団員208人)		
		社員の社費額を300円以上と定款改正(5か年間の経過措置を設ける)(4月)		
		雫石町上空における全日空機墜落事故にあたり、赤十字病院医師、看護婦による死体処理作業班(4班72人)を派遣。アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団は情報通信連絡等で救援活動(7月)		
		北朝鮮帰還援助。第6次帰還船ですべての帰還業務終了		
47年	1972	家庭看護法講習会に第3部(老人看護)を新設		
		本県初の有功会結成(都南村分区)		
48年	1973	青少年赤十字岩手県大会を県公会堂において開催。参加者800人(10月)		
		和賀地方豪雪被災地に全国から食料品の援助		
49年	1974	主要国道事故多発地帯に「交通事故救急連絡所」を4カ年計画で設置(62カ所のうち初年度15カ所)		
50年	1975	本年度社員数216,020人		
		本年度社費募集額81,460,873円		
		本年度献血者46,629人		
		本年度赤十字奉仕団状況7団689人		
		本年度青少年赤十字加盟校64校13,998人		
51年	1976	中国から永久帰国者に対する日本語習得のための講師派遣等の事業を県の委託で本年度から実施(本年3世帯)		
		盛岡赤十字高等看護学院が看護専門課程の設置認可を受け、盛岡赤十字看護専門学校と改称(4月)		
		遠野市地区有功会結成(4月)		
52年 (90周年)	1977	日本赤十字社新社屋落成(4月)		
		日本赤十字社創立100周年記念事業を実施		
		1.日赤100周年記念座談会を岩手日報社と共催で開催(4月)		
		2.赤十字事業についての史実、現況等を収録した日赤100周年記念特集号の発行(5月)		
		3.赤十字「岩手のつどい」開催。参加400余人(5月)		
53年	1978	献血予約登録(現献血登録)制度発足(7月)		
		宮城県沖地震により仙台赤十字病院の給食設備が被害を受け、岩手県支部は救援車によりパン(390食)牛乳(300本)を輸送して救援		
		主要スキー場にスノーボードを配置(初年度6台)		

年号	西暦	あ	ゆ	み
昭和54年	1979	水沢市地区有功会結成(3月) 特別養護老人ホーム「日赤鶯鳴荘」開設(鉄筋コンクリート造平屋建2,314㎡工事費4億2,800万円余、入所定員80人)(5月)		
55年	1980	北上市地区有功会結成(2月) 紫波町同(6月) 日赤救護車を3市地区に配置(4カ年計画で全13市地区に配置する計画) 救護用天幕を20町村分区に配置(3カ年計画で全13市地区、62町村分区に配置する計画) 家庭看護法講習に幼児家庭看護法が追加		
56年	1981	台風15号本県縦断。被災者に本社を経て義援金の寄託があり、遠野市ほか4地区に配分 盛岡赤十字病院移転用地の売買契約締結		
57年	1982	「愛の血液助け合い運動月間」に県南地区を対象として献血キャラバン隊によるPR実施(7月) 岩手県Rh(一)友の会連合会結成。会員600人		
58年	1983	国際赤十字創設120周年並びにNHKテレビ放送30周年にあたり、NHKと日本赤十字社で「海外たすけあい」を実施(2月) フェーン現象のもとで林野等の火災が県内各地に発生(4月)。被害甚大な久慈市に医療救護班(7人)の派遣並びに救援物資配布(1,000人分)のほか義援金品の募集(18,243,000円、40,400個)		
59年	1984	陸前高田市芸能奉仕団結成(2月) 江刺市地域奉仕団結成(4月) 西磐井地区有功会結成(4月) 北部3県支部災害救護訓練。参加者450人(うち奉仕団250人)(10月) 東磐井地区有功会結成(11月) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンを歳末たすけあいと同時に初めて実施(12月)		
60年	1985	県総合防災訓練に花巻市赤十字奉仕団非常炊き出し訓練に初めて参加(8月) 災害用移動炊飯器を地区分区に配置開始 矢巾町、大東町、紫波町、室根村の4地域奉仕団結成 二戸地区有功会結成(10月) 本年度社員数 303,958人 本年度社費募集額 178,721,869円 本年度有功会結成状況 9有功会 457人 本年度赤十字奉仕団状況 28団 1,082人 本年度青少年赤十字加盟校 116校 33,443人 本年度献血者 95,143人		

年号	西暦	あ	ゆ	み
昭和61年	1986	社員の社費年額を500円以上と定款改正(3ヵ年間の経過措置を設ける)(4月) 花巻地区有功会結成(3月) 盛岡赤十字病院移転工事着工(3月) 岩手県機構改革に関連し、日赤郡地区の名称及び所管区域変更(4月) 宮古地区有功会結成(8月) 陸前高田市、北上市に地域奉仕団結成		
62年 (100周年)	1987	陸前高田市地区有功会結成(1月) 赤十字フェスティバル開催(5月) 盛岡市地区有功会結成(10月) 水沢地区有功会結成(11月) 盛岡赤十字病院、盛岡赤十字看護専門学校及び災害救援センター新築落成(11月) (病院) 鉄筋コンクリート5階 延29,244㎡ 61億円 (学校) 鉄筋コンクリート2階 1,998㎡ 3億2,000万円 (センター) 鉄筋平屋建 569㎡ 3,000万円 敷地90,573㎡		
63年	1988	岩手県支部有功会連合会結成(3月) 名誉副総裁三笠宮寛仁親王妃殿下のご臨席を仰ぎ支部創立100周年記念岩手県赤十字大会を岩手県民会館において開催。参加者約2,000人 支部事務局組織改正(総務課、振興課、事業課)(7月) 大船渡市地区有功会結成(10月) 盛岡市大通りに血液センター献血ルーム開設(11月) 遠野市赤十字奉仕団(3月) 住田町アマ無線赤十字奉仕団結成(8月)		
平成元年	1989	皇后陛下を名誉総裁に推戴(1月) 花巻市地区有功会結成(3月) 東山町赤十字奉仕団結成(3月) 赤十字フェスティバル開催(5月) 日赤鶯鳴荘創立10周年記念式挙行(9月)		
2年	1990	北上地区有功会結成(1月) 江刺市地区有功会結成(3月) 日赤鶯鳴荘老人短期保護施設建設 岩泉町赤十字奉仕団(2月)、江刺市赤十字芸能奉仕団(3月)結成 血液センター移転新築工事着工(7月) 北部3県支部合同災害救護訓練。参加者700人(10月) 台風による被害甚大(9月18号 11月28号)救援物資等の救援活動 久慈地区有功会結成(11月)		

年号	西暦	あ	ゆ	み
平成3年	1991	<p>田野畑村赤十字奉仕団結成(2月)</p> <p>葛巻町分区有功会結成(3月)</p> <p>北上市地区、和賀町分区、江釣子村分区合併(4月)</p> <p>中村直支部長退任(4月)、工藤巖支部長就任(5月)</p> <p>雫石町分区有功会結成(5月)</p> <p>赤十字フェア大船渡市において初めての地方開催(5月)</p> <p>新北上市地区有功会結成総会(7月)</p> <p>血液センター新築落成(7月)。鉄筋コンクリート造5階 延4,495.09㎡ 10億5千万円余</p> <p>赤十字会館改装成る(12月)</p>		
4年	1992	<p>九戸村赤十字奉仕団、一戸町アマチュア無線赤十字奉仕団結成(2月)</p> <p>浄法寺町赤十字奉仕団結成(4月)</p> <p>盛岡市地区と都南村分区合併(4月)</p> <p>盛岡市地区有功会と都南村分区有功会合併(4月)</p> <p>盛岡赤十字病院診療棟増築(リハビリ、透析)(4月)</p> <p>盛岡赤十字病院が社団法人日本病院建築協会主催第1回病院建築賞受賞(4月)</p> <p>支部が雫石町から受託し、デイサービス事業(D型)開始(7月)</p> <p>二戸市赤十字奉仕団結成(7月)</p> <p>「'92赤十字フェア」二戸市で開催(10月)</p> <p>大韓赤十字代表団が来県(11月)</p> <p>盛岡赤十字病院平成4年度都市景観賞受賞(11月)</p>		
5年	1993	<p>'93アルペンスキー世界選手権に積極支援 (救護、通訳、旗門審判、医療セット配備)(2月3日～4日)</p> <p>大船渡地区有功会結成(3月)</p> <p>金ヶ崎町赤十字奉仕団結成(3月)</p> <p>支部事務局組織5年ぶりに改正(4月)</p> <p>支部初の献血功労・金色功労楯表章者誕生(献血350回)(4月)</p> <p>「'93赤十字フェア」(一関市)(5月日)</p> <p>第29回献血運動推進全国大会に全国から2,000名参加。成功裡に終了(7月)</p> <p>皇太子、同妃両殿下岩手県血液センター、盛岡赤十字病院ご視察(7月)</p> <p>北海道南西沖地震(7月12日地震発生)被災者救援に盛岡赤十字病院の医師、看護婦及び支部職員を救護班として派遣。義援金1億2百万円余集まる</p> <p>支部がデイサービスセンター(雫石町)の経営を受託し、地域との連携大きく前進(工事着工8月、完成12月、業務開始6年2月)</p>		

年号	西暦	あ	ゆ	み
平成 5年	1993	北海道南西沖地震被災者に対する見舞金贈呈式(具志堅用高氏から工藤支部長に) (10月)		
		献血ルーム「メルシー」開設5周年(一日所長にグレートサスケを迎える)(11月4日)		
6年		ネパール給水事業の現地確認と周辺赤十字の視察研修に支部職員派遣(12月13日～25日)		
	1994	献血ルーム70,000人達成(1月7日)		
		千厩町赤十字奉仕団結成(3月)		
		種市町赤十字奉仕団、野田村赤十字奉仕団結成(3月)		
		支部受託の雫石町デイサービスセンター(B型)完成し、事業開始(4月1日)		
		盛岡赤十字病院診療棟増築工事完了(4月30日)		
		世界赤十字デー蘇生法普及全国統一イベント(盛岡市)(5月8日)		
		「'94赤十字フェア」(北上市)(5月)		
		血液事業全国統一システム導入(6月)		
		本社主催青少年赤十字ネパール派遣事業に全国10人の1人として岩手女子高生が選出される(8月3日～17日)		
		献血ルーム成分献血の日キャンペーンに城南小学校生(JRC)が一日所長(9月)		
		宮城県豪雨災害に際し、救援物資(毛布1,000枚、日用品セット500個)贈る(9月)		
		北部3県支部合同災害救護訓練(青森)(9月)		
		第3回全国ボランティアフェスティバル岩手(10月)		
		三陸はるか沖地震発生(マグニチュード7.5 震度八戸6、盛岡、青森5)(12月28日)		
7年	1995	三陸はるか沖地震義援金募集開始(1月4日)		
		兵庫県南部地震災害(阪神・淡路大震災)発生。直ちに義援金募集開始(1月17日)		
		兵庫県南部地震災害被害者救援として支部職員2名派遣(1月21日～1月27日)		
		兵庫県南部地震災害医療救護班第1陣(8名)現地派遣(1月28日～2月4日)		
		兵庫県南部地震災害医療救護班第2陣(5名)現地派遣(2月17日～2月21日)		
		雫石町赤十字奉仕団結成(2月)		
		川崎村赤十字奉仕団結成(2月)		
		釜石地区大槌町分区有功会結成(3月)		
		有功章社員章等贈与規則の一部改正(4月)		
		支部受託雫石町在宅介護支援センター事業開始(4月)		
		盛岡赤十字病院開院75周年記念式典(4月)		
		日本赤十字社岩手県支部工藤巖支部長退任(4月28日)		
		日本赤十字社岩手県支部増田寛也支部長就任(4月29日)		
		世界赤十字デー周知キャンペーンの一環として瀬戸内寂聴氏の講演会開催(5月)		

年号	西暦	あ	ゆ	み
平成 7年	1995	赤十字日韓職員交換研修のため支部職員を韓国に派遣(6月8日～6月17日)	病院問診項目の全国統一(7月)	ボランティアによる在宅訪問サービス事業開始(一関市)(7月)
8年	1996	日赤同方会桐花会殉職会員等慰霊祭(9月)	岩手県赤十字血液センター創立30周年記念式典(9月)	本社主催海外視察研修(ヨーロッパ)のための支部職員派遣(9月24日～10月9日)
9年 (110周年)	1997	遠野地区宮守村分区有功会結成(2月)	花泉町赤十字奉仕団結成(3月)	沢内村赤十字奉仕団結成(3月)
10年	1998	盛岡赤十字病院、岩手県における基幹災害拠点病院に指定(4月)	献血ルーム「メルシー」献血者10万人達成(4月)	秋山ちえ子講演会(赤十字運動月間広報キャンペーンの一環として)(5月)
		北上川上流水防演習に医療救護班派遣(5月)	釜石市地区有功会結成(6月)	救護用エアーテント2張りを配置(8月)
		阪神・淡路大震災被災者に対する支援活動に対し菅厚生大臣からの感謝状受賞(8月)	盛岡赤十字病院、血液センター主会場に第1ブロック合同災害救護訓練の実施(9月)	県支部特別企画「赤十字の創始者アンリー・デュナンの足跡を訪ねて」初の海外研修視察(10月5日～15日)
		大槌町赤十字奉仕団結成(11月)	日赤鶯鳴荘で、デンマーク介護専門職員招聘による介護技術研修開催(2月)	阪神・淡路大震災への支援活動続く
		石鳥谷、紫波町山林火災に救援物資(炊き出し資材、毛布40枚、タオル40枚)支部職員4名派遣(5月)	海老名香葉子講演会(赤十字運動月間広報キャンペーン)の開催(5月)	県内献血協力者延べ200万人を達成(6月)(200万人達成謝恩キャンペーンを実施)
		村上タマオさん(朝鮮民主主義人民共和国在住日本人配偶者)盛岡市へ帰郷(1月)	岩手県赤十字大会(岩手県支部創立110周年・同有功会連合会結成10周年記念)	名誉副総裁高円宮妃殿下ご臨席宮妃殿下より有功章のご授与62名
		盛岡赤十字病院、岩手県赤十字血液センターご視察(11月)	日赤岩手県支部広報業務連絡調整要綱制定。赤十字施設関係者による広報委員会発足(1月)	家庭に眠る善意で“世界の子供を救おう！”75.50全国統一バザーの開催(5～6月)
		岩手県内20会場でバザー収益金 1,818,987円	(青少年赤十字創設75周年・赤十字奉仕団創設50周年記念行事として実施)	

年号	西暦	あ	ゆ	み
平成10年	1998	<p>家族計画組織活動セミナー(12カ国13人)が盛岡赤十字病院を視察研修(5月)</p> <p>岩手山西側の大地獄谷周辺で火山性地震が断続的に発生していることから岩手県では災害警戒本部を設置。支部においても災害警戒本部を設置。各施設においては防災体制を強化(6月)</p> <p>盛岡赤十字病院が厚生省臨床研修病院に指定(8月)</p> <p>東北地方に停滞した前線の影響で、岩手県南部と沿岸地域に洪水被害</p> <p>一関市、川崎村、平泉町、東山町に毛布、日用品セット、バスタオル等を搬送。福島県支部には700枚の毛布を搬送(8月)</p> <p>9月3日午後4時58分雫石町長山で震度6を記録。岩手山周辺で火山活動が活発化</p> <p>赤十字講習(家庭看護法・救急法)専用室を設置し、普及活動の充実を図る(9月)</p> <p>二戸市地区有功会結成(11月)</p>		
11年	1999	<p>献血推進専門員制度が発足。県内6ブロックに6名配置(4月)</p> <p>沿岸地方の大雨災害で、陸前高田市、大船渡市、釜石市、遠野市、大槌町に毛布、日用品セット、バスタオルを搬送(7月)</p> <p>日赤鶯鳴荘創立20周年記念式典(10月)</p> <p>大雨により軽米町に災害救助法が適用されるなど、県北部に大きな被害が発生したため二戸市、久慈市、軽米町、山形村に毛布、日用品セット、バスタオルを搬送(10月)</p> <p>軽米町大雨災害義援金の募集を開始。(10月) 274件 20,212,192円が集まり、義援金配分委員会の決定のもと、二戸市、久慈市、軽米町、山形村、九戸村、普代村に配分</p> <p>水沢市地区有功会創立20周年記念式典(11月)</p>		
12年	2000	<p>支部初の青少年赤十字国際交流事業の準備として、シンガポール赤十字社を事前視察(3月)</p> <p>北海道有珠山噴火(3月)。岩手県支部救護班(班長以下7名)伊達赤十字病院内赤十字現地対策本部へ派遣。避難所の巡回診療にあたる(4月)</p> <p>盛岡市ふれあいランド岩手において「第1回赤十字フェスティバル」を開催(5月)</p> <p>台風3号の影響により、野田村、普代村地域の避難所へ毛布、日用品セット、バスタオルの救援物資を緊急輸送(7月)</p> <p>青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(8月)</p> <p>住田町赤十字奉仕団結成(9月)</p> <p>赤十字幼児安全法講習が開始され、救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法と併せて、5大講習となる</p>		
13年	2001	<p>久慈ライフセービング赤十字奉仕団結成(2月)</p> <p>防災ボランティア地区リーダー養成研修会開催(3月)</p> <p>盛岡市川徳デパート前広場において「第2回赤十字フェスティバル」を開催(5月)</p>		

年号	西暦	あ	ゆ	み
平成13年	2001	青少年赤十字国際交流事業実施。シンガポール国から青少年を迎え交流(6月) 種市町において支部初の水上安全法「海」講習開催(8月) 大船渡市地区と三陸町分区合併(11月)		
14年	2002	江刺市赤十字芸能奉仕団解団(3月) 一関市地区赤十字奉仕団と一関市地区婦人赤十字奉仕団が一本化し、一関市赤十字奉仕団として再結成(5月)北上市江釣子ショッピングセンター・パルにおいて「第3回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 日本赤十字社法制定50周年・日本赤十字社創立125周年記念全国赤十字大会(東京都:明治神宮会館)に岩手県から25名が出席(5月) 台風6号大雨災害により東山町に災害救助法が適用(7月) 赤十字防災ボランティアリーダー1名を現地に派遣(7月19日～21日) 東山町大雨災害義援金の募集を開始(7月) 222件8,403,504円が集まり、義援金配分委員会の決定のもとに被災した29市町村に配分 青少年赤十字岩手県賛助会から岩手県青少年赤十字賛助奉仕団に移行(7月) 富士大学学生赤十字奉仕団結成(10月)		
15年	2003	青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(1月8日～12日) 北上市江釣子ショッピングセンター・パルにおいて「第4回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 宮城県沖地震(三陸南地震)18時24分発生。県南部を中心に震度6弱を記録。19時10分盛岡赤十字病院医療看護班待機。同日21時20解散。被災者に対し、大船渡市地区から救援物資(毛布・日用品セット・バスタオル)配布(5月) 宮城県北部地震発生。宮城県支部に日用品セット(200セット)を送付(7月) 岩手県消防学校、盛岡赤十字病院を主会場に第1ブロック合同災害救護訓練を実施(10月)		
16年	2004	盛岡赤十字看護専門学校閉校(3月) 盛岡赤十字看護専門学校学生奉仕団解団(3月) 遠野市ショッピングセンターとぴあにおいて、「第5回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 地域高齢者生活支援の一環として、新たに「セラピューティック・ケア」講座を開始 青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(8月7日～12日) 青少年赤十字国際交流事業「パプアニューギニア国」RCYメンバー受入れ(11月13日～19日) 新潟県中越地震発生(10月23日 17:56 震度7) 小千谷市に2個班の救護班を派遣し、緊急仮設診療所(ERU)における医療活動、被災者のこころのケア等を行うとともに、日赤現地災害対策本部への要員と、救援物資搬送要員を派遣		

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成 17 年	2005	<p>愛知県で開催された愛・地球博(3月～9月)の「愛知万博赤十字パビリオン」の運営スタッフとして支部職員を派遣(4月10日～16日)</p> <p>水沢グランドホテルライブラリーホールにおいて、水沢市商人まつりと併催し「第6回赤十字ふれあいフェスティバルを開催(6月)</p> <p>青少年赤十字国際交流事業実施。シンガポール国から青少年を迎え交流(6月9日～14日)</p> <p>第3回「献血スタンド・バイ・ミー」親と子の血液センター見学会を実施(7月)</p> <p>支部、関係施設、防災ボランティア合同による災害救護訓練の実施(10月)</p> <p>いわぎん健康クラブから赤十字血液センターの血液運搬車の寄贈(購入経費の一部)(11月)</p>		
18 年	2006	<p>「こころのケア」研修の実施(2月)</p> <p>バイク奉仕団の結成(2月)</p> <p>第一ブロック事業国際活動対象国(ベトナム)視察事業に青少年賛助奉仕団副委員長参加(2月20日～25日)</p> <p>支部国民保護計画の策定(3月)。保護計画に伴うNBC災害除染セット整備(3月)</p> <p>岩手県ライフセービング赤十字奉仕団結成(7月)</p> <p>「第7回赤十字ふれあいフェスティバル」を県立福祉の里センター(大船渡市)で開催(7月)</p> <p>地区分区有功会の再編(解散有功会：江刺市地区、宮守村分区、水沢市地区、水沢地区、千厩地区、花巻地区)(結成有功会：奥州市地区)</p> <p>山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団結成(10月)</p>		
19 年 (120周年)	2007	<p>AED(自動体外式除細動器)を旧市町村に58台配備(1月)</p> <p>八幡平市赤十字奉仕団結成(3月)</p> <p>救急法基礎講習始まる(4月)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部増田寛也支部長退任(4月29日)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部増達拓也支部長就任(4月30日)</p> <p>新潟県中越沖地震発生(7月16日)</p> <p>岩手県支部救護班(7名)を現地に派遣(7月20日～22日)</p> <p>前線停滞の影響による大雨被害発生。盛岡市、紫波町、石鳥谷町に救援物資輸送(9月)</p> <p>「第8回赤十字ふれあいフェスティバル」を浄法寺文化センターで開催(11月)</p>		

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成 20 年	2008	岩手・宮城内陸地震発生（6月14日） 岩手県支部救護班（7名）を一関市に派遣（6月14日） こころのケア班（延べ15名）を奥州市に派遣（6月23日～27日） 岩手県沿岸北部を震源とする地震発生（7月24日） 岩手県支部救護班（7名）を洋野町に派遣（7月24日） 防災ボランティアのためのこころのケア研修開始（10月、12月、3月実施） A E D（自動体外式除細動器）を J R C 加盟の2高等学校に配備（11月） 柔道整復師会赤十字奉仕団結成（11月） 赤十字奉仕団基礎研修開催（二戸市、宮古市、釜石市、久慈市、岩泉町） 岩手県赤十字大会（岩手県支部創立120周年・同有功会連合会結成20周年記念 （11月8日） 岩手県支部創立120周年記念事業国内交流派遣事業（本社・東京都支部へ7名高 校生）		
21 年	2009	「第9回赤十字ふれあいフェスティバル」を花巻市総合体育館で開催（5月） 盛岡赤十字病院緩和ケア病棟竣工記念式典（5月） 岩手大学学生赤十字奉仕団・イーハトーブ学生赤十字奉仕団合同結団式（7月） 岩手県議会議員連盟盛岡赤十字病院緩和ケア病棟視察（9月） 日赤鷺鳴荘創立30周年記念式典（9月）		
22 年	2010	国内型緊急対応ユニット【dERU】盛岡赤十字病院へ配備（3月） 国内型緊急対応ユニット【dERU】実技研修 盛岡赤十字病院（4月） 社員増強運動月間街頭キャンペーン【カワトク前・クロスステラス】（5月） NBC訓練【盛岡駅・盛岡赤十字病院】（7月） 「第10回赤十字ふれあいフェスティバル」を宮古市シートピアなあどで開催（8 月） 「第1ブロック支部合同災害救護訓練」岩手産業文化センターアピオ（10月）		
23 年	2011	東日本大震災発生（3月11日） 東日本大震災（3月11日）に対する義援金の受付（3月12日～） 「第11回赤十字ふれあいフェスティバル」を一関市総合体育館サブアリーナで開催 （10月）		
24 年	2012	東日本大震災復興支援事業「こころのケア」（平成23年9月～平成25年3月まで） 東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキング」（平成23年10月～） 東日本大震災復興支援事業「青空教室」（6月・9月・11月） 東日本大震災復興支援事業「炊き出し交流会」（5月～平成25年3月） 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月）		

平成 24 年	2012	「第12回赤十字ふれあいフェスティバル」を八幡平市さくら公園で開催(9月)
平成 25 年	2013	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成25年4月～) 東日本大震災復興支援事業「ふれあい炊き出し交流会」(平成25年4月～平成26年3月) 東日本大震災復興支援事業「被災地の赤十字講習普及とこころのケア」(平成25年4月～平成26年3月) 岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所業務開始(5月) 「第13回赤十字ふれあいフェスティバル」開催 盛岡市イオンモール盛岡 (5月) 「赤十字150年写真展」地方巡回展をいわて県民情報交流センターで開催(7月) 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(7月) 大雨災害に伴い盛岡市、花巻市、矢巾町、紫波町へ救援物資配送(8月9日～10日) 岩手県平成25年豪雨・大雨災害義援金の受付(8月14日～9月30日) 東日本大震災復興支援事業「赤十字キャリア教育支援」(8月) 台風18号に伴う大雨災害により盛岡市へ救援物資配送(9月) 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月)
26 年	2014	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成26年4月～継続) 東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成26年4月～平成27年3月) 日赤岩手乳児院盛岡市三本柳へ移転新築(4月) 盛岡市林野火災に伴い盛岡市玉山区総合福祉センターへ救援物資配送(4月) 「第14回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。 盛岡市イオンモール盛岡(5月) 東日本大震災復興支援事業「JRC赤十字ふれあいコンサート」(6月) 東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2014inいわて」(7月29日～31日) 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月) 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月) 防災教育プログラムパイロット事業実施(1月) 防災ボランティア養成研修開催(2月) 日本赤十字社岩手県支部盛岡市三本柳へ移転新築(新社屋落成式2月20日、新社屋業務開始3月1日)
27 年	2015	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成27年4月～) 東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成27年4月～平成28年3月)

平成 27 年	2015	<p>「第15回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡（5月）</p> <p>東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2015inいわて」（7月）</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」（8月）</p> <p>日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（8月）</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字ふれあいコンサート」（8月）</p> <p>東ティモール赤十字社救急法等普及支援事業支部職員派遣（10月17日～25日）</p> <p>防災教育プログラムパイロット事業実施（10月）</p> <p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月）</p> <p>カンボジア赤十字社救急法普及支援事業支部救急法ボランティア指導員派遣（11月6日～15日）</p> <p>日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（1月）</p>
28 年	2016	<p>東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」（平成28年4月～）</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」（平成28年4月～平成29年3月）</p> <p>熊本地震災害発生（4月）</p> <p>岩手県支部第1救護班（7名）を現地に派遣（4月19日～24日）</p> <p>盛岡赤十字病院医師1名を熊本赤十字病院支援に1名派遣（4月25日～5月1日）</p> <p>盛岡赤十字病院看護師1名を熊本赤十字病院支援に1名派遣（4月29日～5月5日）</p> <p>岩手県支部第2救護班（7名）を現地に派遣（5月1日～6日）</p> <p>「第16回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡（5月）</p> <p>盛岡赤十字病院看護師1名を熊本地震被災者健康支援事業に2名派遣（7月15日～22日）</p> <p>東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2016inいわて」（7月）</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」（8月）</p> <p>日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（8月）</p> <p>台風10号災害発生（8月）</p> <p>岩手県支部救護班6班（33名）を矢巾消防学校SCUに派遣（8月31日～9月2日）</p> <p>久慈市、宮古市、岩泉町、住田町に救援物資輸送（8月）</p> <p>日赤災害医療コーディネーター（6名）を岩泉町に派遣（9月6日、9日）</p> <p>第71回国民体育大会・第16回全国障害者スポーツ大会臨時救護に救護員45名を派遣（9月25日～10月24日）</p> <p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月）</p>
29 年 (130周年)	2017	<p>日本赤十字社定款の一部変更（4月1日）年額2,000円以上の会費を納めるものを会員と定め、会員を社法上の社員と規定</p>

平成 29 年 (130周年)	2017	<p>日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成29年4月～)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成29年4月～平成30年3月)</p> <p>釜石市林野火災に伴い釜石市立平田小学校避難所及び旧県立釜石商業高校体育館避難所に救援物資配送(5月)</p> <p>「第17回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)</p> <p>赤十字奉仕団岩手県支部委員会増沢委員長が赤十字奉仕団中央委員会委員長に就任(6月)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修(8月)</p> <p>日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月)</p> <p>東日本大震災支援国赤十字・赤新月社会議(2月)</p>
平成 30 年	2018	<p>東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(4月～平成31年3月)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(4月～平成31年3月)</p> <p>「第18回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)</p> <p>特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘:雫石町南畑へ新築移転(落成式6月26日・業務開始7月1日)</p> <p>東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月)</p> <p>平成30年7月豪雨災害発生に伴い、こころのケア班(4名)を広島県呉市に派遣。(8月9日～16日)</p> <p>北海道胆振東部地震発生に伴い、盛岡赤十字病院DMAT班、救護班2班、こころのケア班1班、こころのケア調整班1班を現地に派遣。(9月6日～10月1日)</p> <p>岩手県赤十字大会(岩手県支部創立130周年・同有功会連合会結成30周年記念)(11月2日)</p>
平成 31 年 令和元年	2019	<p>赤十字レッドライトアッププロジェクト初参加 盛岡城跡公園の石垣の一部を赤くライトアップ。(5月)</p> <p>「第19回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)</p> <p>ラグビーワールドカップ2019釜石開催に係る岩手県国民保護共同訓練(7月11日)、7月27日、9月25日のラグビーワールドカップ試合にテロ災害等に備え救護班を派遣</p> <p>東日本大震災被災地支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」開催 (7月13日～12月17日まで のべ13回)</p>

平成 31 年 令和元年	2019	<p>令和元年東日本台風(台風第19号)災害発生(10月12日)</p> <p>被災した市町村に救援物資配送(10月13日～11月8日)</p> <p>宮城県丸森町に岩手県支部救護班1班(7名)を派遣(10月16日～19日)</p> <p>宮城県支部支援のため岩手県支部職員2名を派遣(10月19日～23日)</p> <p>ボランティアセンターを開設し、沿岸被災地に防災ボランティア等26名を派遣(10月18日～11月17日)</p> <p>12月下旬 新型コロナウイルスが中国湖北省武漢市で発生し、全世界に感染拡大。日本でも2020年1月に初の感染者が確認</p> <p>2月末 今年度の救急法等の講習を全て中止</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応(ダイヤモンドプリンセス号の乗船者(PCR陰性2週間隔離対象者)の健康管理のため、税務大学校へ救護班(医師1名・看護師長1名・看護師1名・薬剤師1名)を派遣(2月28日～3月1日)</p> <p>3月3日～4日開催予定の赤十字奉仕団委員長・事務担当者会議を中止</p>
令和 2 年	2020	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、支部災害対策警戒本部を設置(4月17日)</p> <p>職員を2班に分け隔日勤務とし、在宅勤務時にはリモートアクセスを利用 (4月20日～5月10日)</p> <p>赤十字レッドライトアッププロジェクトに参加し、盛岡城跡公園の一部を赤くライトアップ(5月8日～5月28日)</p> <p>6月から各種短期講習、11月から救急法基礎講習を再開</p> <p>JRCリーダーシップ・トレーニング・センターが新型コロナウイルス感染症の影響で中止(2020年で70周年であったが初の中止)</p> <p>第1回評議員会(6月10日予定)、第2回評議員会(2月10日予定)とも新型コロナウイルス感染症の影響により文書審議</p> <p>第1ブロック支部合同災害救護訓練を盛岡市で実施(11月6日～7日)</p> <p>災害救助犬のユキとサチに岩手県支部のロゴ入りハーネス用ワッペンを贈呈</p> <p>災害救助犬のハーネスに赤十字マークのワッペンを付けるのは全国初(1月)</p> <p>日本赤十字社が東日本大震災義援金の募集を3月31日で終了(約10年間募集)</p>
令和 3 年	2021	<p>青少年赤十字創設100周年記念岩手県ポスターコンクール実施(5月～11月)</p> <p>全国赤十字大会(明治神宮会館:5月20日開催予定)が新型コロナウイルス感染症の影響で中止</p> <p>第1回評議員会を盛岡市において開催(6月15日)</p> <p>青少年赤十字スタート・プログラムを滝沢市において実施(7月29日～30日)</p> <p>宮城県において実施予定の第1ブロック支部合同災害救護訓練(10月8日～9日)は、新型コロナウイルス感染症の影響で翌年度に延期</p>

令和3年	2021	<p>釜石市で開催された「防災推進国民」大会に出展(11月6日～7日)</p> <p>復興支援事業として陸前高田市、釜石市、大槌町の地域住民を対象に、平泉町にてノルディックウォーキングと交流会を実施(11月17日)</p> <p>第2回評議員会(2月10日予定)は新型コロナウイルス感染症の影響により文書審議「次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー」(遺贈・相続財産寄付)を盛岡市にて開催(2月23日)</p> <p>ウクライナ人道危機救援金の募集を開始(3月2日～)</p>
令和4年	2022	<p>第1回評議員会を盛岡市において開催(6月20日)</p> <p>青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(滝沢市にて7月26日から7月28日実施予定)が新型コロナウイルス感染症の影響で中止</p> <p>大雨災害で青森県支部に救援物資支援(8月10日・25日)</p> <p>次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを北上市において実施(9月1日)</p> <p>岩手県支部有功会感謝の集いを盛岡市において実施(9月9日)</p> <p>赤十字ふれあいフェスティバルを北上市において実施(10月9日)</p> <p>管内施設合同災害救護訓練を盛岡市において実施(10月14日)</p> <p>赤十字ふれあいフェスティバルを盛岡市において実施(10月16日)</p> <p>明治安田生命と連携協定締結(2月9日)</p> <p>第2回評議員会を盛岡市において開催(2月13日)</p> <p>次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを盛岡市において実施(2月1日)</p> <p>第28回日本災害医学会総会・学術集会で演題発表:盛岡市(3月10日)</p> <p>いわて防災サミットに防災ブース出展:盛岡市(3月10日)</p>

日 本 赤 十 字 社 現 勢

<p>日本赤十字社の使命</p> <p style="text-align: center;">わたしたちは、 苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、 いかなる状況下でも、 人間のいのちと健康、尊厳を守ります。</p>	<p style="text-align: center;">日本赤十字社スローガン 人間を救うのは、人間だ。</p> <p>赤十字の基本原則 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性</p>																																																																																																																																																																																																																													
<p>1949年のジュネーブ四条約締結国 196カ国</p>	<p>世界の赤十字社・赤新月社等 192社</p>																																																																																																																																																																																																																													
<p>1. 沿革</p> <p>明治10年(1877) 5月 1日 博愛社設立 明治20年(1887) 5月 20日 日本赤十字社に改称 昭和27年(1952) 8月 14日 日本赤十字社法制定</p> <p>2. 名誉総裁・名誉副総裁</p> <p>名 誉 総 裁 皇 后 陛 下 名 誉 副 総 裁 秋篠宮皇嗣妃殿下 常陸宮殿下・同妃華子殿下 三笠宮妃百合子殿下 寛仁親王妃信子殿下 高円宮妃久子殿下</p> <p>3. 会 員</p> <p>(令和4年3月31日現在) 個人 20万人 法人 8.5万法人</p> <p>4. 評 議 員 2,004人</p> <p>5. 代 議 員 223人</p> <p>6. 役 員 (令和4年7月1日現在)</p> <p>社 長 清家 篤 (常勤) 副 社 長 鈴木 俊彦 (常勤) 十倉 雅和 (非常勤) 理 事 61人 (常勤5人、非常勤56人) 監 事 3人 (常勤1人、非常勤2人)</p> <p>7. 青少年赤十字 (令和4年3月31日現在)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>幼稚園・保育所</td><td>1,784校</td><td>149,352人</td></tr> <tr><td>小 学 校</td><td>7,076校</td><td>1,953,430人</td></tr> <tr><td>中 学 校</td><td>3,495校</td><td>978,908人</td></tr> <tr><td>高 等 学 校</td><td>1,772校</td><td>361,188人</td></tr> <tr><td>特 別 支 援 学 校</td><td>203校</td><td>21,097人</td></tr> <tr><td>そ の 他</td><td>111校</td><td>28,678人</td></tr> <tr><td>計</td><td>14,441校</td><td>3,492,653人</td></tr> <tr><td>指 導 者</td><td>243,861人</td><td></td></tr> </table> <p>8. 赤十字ボランティア (令和4年3月31日現在)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>地域赤十字奉仕団</td><td>2,107団</td><td>1,097,423人</td></tr> <tr><td>青年赤十字奉仕団</td><td>149団</td><td>5,387人</td></tr> <tr><td>特殊赤十字奉仕団</td><td>630団</td><td>29,324人</td></tr> <tr><td>個人ボランティア等</td><td>-</td><td>12,000人</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,886団</td><td>1,144,134人</td></tr> </table> <p>9. 救急法等の講習</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">資格登録者数 (令和4年3月31日現在)</th> <th rowspan="2">受講者数 (令和3年度)</th> </tr> <tr> <th>指 導 者</th> <th>救 急 員 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>救急法基礎講習</td><td>10,806人</td><td>240,118人</td><td>19,580人</td></tr> <tr><td>救 急 法</td><td>6,863人</td><td>132,089人</td><td>193,142人</td></tr> <tr><td>水 上 安 全 法</td><td>1,486人</td><td>10,330人</td><td>18,813人</td></tr> <tr><td>雪 上 安 全 法</td><td>212人</td><td>1,001人</td><td>125人</td></tr> <tr><td>幼 児 安 全 法</td><td>2,245人</td><td>19,598人</td><td>34,204人</td></tr> <tr><td>健康生活支援講習</td><td>1,716人</td><td>14,076人</td><td>20,051人</td></tr> <tr><td>計</td><td>23,328人</td><td>417,212人</td><td>285,915人</td></tr> </tbody> </table> <p>10. 看護師等の教育</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>施設数</th> <th>一 学 年 養 成 定 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>大学 (大学院併設)</td><td>看護師 17校 1,195人</td></tr> <tr><td>短期大学</td><td>助産師 6校 88人</td></tr> <tr><td>看護専門学校</td><td>保健師 6校 149人</td></tr> <tr><td>助産師学校</td><td>幹部看護師 1校 120人</td></tr> <tr><td>幹部看護師研修センター</td><td>介護福祉士 1校 30人</td></tr> <tr><td>計</td><td>20</td></tr> </tbody> </table> <p>11. 国際活動</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国際救援・開発要員派遣 (令和3年度)</td><td>8カ国 のべ26人</td></tr> <tr><td>国際赤十字・赤新月社連盟出向</td><td>3人(スイス、マレーシア)</td></tr> <tr><td>国際活動費 (令和3年度)</td><td>42億円</td></tr> </table>	幼稚園・保育所	1,784校	149,352人	小 学 校	7,076校	1,953,430人	中 学 校	3,495校	978,908人	高 等 学 校	1,772校	361,188人	特 別 支 援 学 校	203校	21,097人	そ の 他	111校	28,678人	計	14,441校	3,492,653人	指 導 者	243,861人		地域赤十字奉仕団	2,107団	1,097,423人	青年赤十字奉仕団	149団	5,387人	特殊赤十字奉仕団	630団	29,324人	個人ボランティア等	-	12,000人	計	2,886団	1,144,134人		資格登録者数 (令和4年3月31日現在)		受講者数 (令和3年度)	指 導 者	救 急 員 等	救急法基礎講習	10,806人	240,118人	19,580人	救 急 法	6,863人	132,089人	193,142人	水 上 安 全 法	1,486人	10,330人	18,813人	雪 上 安 全 法	212人	1,001人	125人	幼 児 安 全 法	2,245人	19,598人	34,204人	健康生活支援講習	1,716人	14,076人	20,051人	計	23,328人	417,212人	285,915人	施設数	一 学 年 養 成 定 員	大学 (大学院併設)	看護師 17校 1,195人	短期大学	助産師 6校 88人	看護専門学校	保健師 6校 149人	助産師学校	幹部看護師 1校 120人	幹部看護師研修センター	介護福祉士 1校 30人	計	20	国際救援・開発要員派遣 (令和3年度)	8カ国 のべ26人	国際赤十字・赤新月社連盟出向	3人(スイス、マレーシア)	国際活動費 (令和3年度)	42億円	<p>12. 国内災害救護</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>救護員数</td><td>7,792人 (常備救護班要員を含む)</td></tr> <tr><td>常備救護班</td><td>485班 4,954人</td></tr> <tr><td>無線局</td><td>3,184局</td></tr> <tr><td>救護車両</td><td>1,829台</td></tr> <tr><td>赤十字飛行隊(特殊奉仕団)</td><td>103人</td></tr> <tr><td>災害における救護員出勤数 (令和3年度)</td><td>1,690人</td></tr> <tr><td>救護物資配分数(毛布・安眠セット・緊急セット) (令和3年度)</td><td>13,297個</td></tr> <tr><td>令和3年度取扱義援金額 (令和4年3月31日現在)</td><td>20億8,599万2,926円</td></tr> </table> <p>13. 医療事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="3">施設数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="3">病 院</td><td>診 療 所</td><td>5</td></tr> <tr><td>老人保健施設</td><td>5</td></tr> <tr><td>介護医療院</td><td>5</td></tr> <tr><td colspan="3">病 床 総 数 35,028床 (令和4年3月31日現在)</td></tr> <tr><td colspan="2">総患者数 (令和3年度)</td><td>1日平均</td></tr> <tr><td>入 院</td><td>956万人</td><td>2.6万人</td></tr> <tr><td>外 来</td><td>1,514万人</td><td>6.2万人</td></tr> </tbody> </table> <p>14. 血液事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="3">施設数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>地域血液センター</td><td>47</td><td>ブロック血液センター 7</td></tr> <tr><td>附属施設</td><td>170</td><td>附属施設(製造所) 4</td></tr> <tr><td>(献血ルーム116を含む)</td><td></td><td>分室 1</td></tr> <tr><td colspan="2">献血者数 (令和3年度)</td><td>供給本数 (令和3年度)</td></tr> <tr><td>成分献血 164万人</td><td>輸 血 用 製 剤</td><td>1,725万本</td></tr> <tr><td>400mL 献血 328万人</td><td>車両台数(令和4年3月31日現在)</td><td></td></tr> <tr><td>200mL 献血 12万人</td><td>献 血 連 搬 車</td><td>854台</td></tr> <tr><td>計 505万人</td><td>移 動 採 血 車</td><td>278台</td></tr> </tbody> </table> <p>15. 社会福祉事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="3">児 童 福 祉 施 設 数 (定員)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>乳児院</td><td>8 (291)</td><td>医療型障害児入所施設 3 (286)</td></tr> <tr><td>保育所</td><td>3 (368)</td><td></td></tr> <tr><td>児童養護施設</td><td>1 (40)</td><td></td></tr> <tr><th colspan="3">老 人 福 祉 施 設 数 (定員)</th></tr> <tr><td colspan="3">特別養護老人ホーム(併設ケアハウス20人を含む) 8(773)</td></tr> <tr><td>障害者福祉施設数(定員)</td><td>複 合 型 施 設</td><td>1 (定員)</td></tr> <tr><td>障害者支援施設 1(50)</td><td>特別養護老人ホーム</td><td>(110)</td></tr> <tr><td>視聴覚障害者情報提供施設 2</td><td>介護老人保健施設</td><td>(100)</td></tr> <tr><td>補装具製作施設 1</td><td>高齢者グループホーム</td><td>(18)</td></tr> <tr><td></td><td>障害者支援施設</td><td>(10)</td></tr> </tbody> </table> <p>16. 職員数(施設数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr><th colspan="2">職 員 数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>本社 (1)</td><td>536人</td></tr> <tr><td>支部 (47)</td><td>696人</td></tr> <tr><td>医療事業 (118)</td><td>59,356人</td></tr> <tr><td>血液事業 (229)</td><td>5,849人</td></tr> <tr><td>社会福祉事業 (28)</td><td>1,137人</td></tr> <tr><td>計</td><td>67,574人</td></tr> </tbody> </table> <p>17. 会計 (令和4年度当初予算)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>一 般 会 計</td><td>本 社</td><td>200億4千万円</td></tr> <tr><td></td><td>支 部</td><td>198億7千万円</td></tr> <tr><td>医 療 施 設 特 別 会 計</td><td></td><td>1兆1,515億9千万円</td></tr> <tr><td>血 液 事 業 特 別 会 計</td><td></td><td>1,612億6千万円</td></tr> <tr><td>社 会 福 祉 施 設 特 別 会 計</td><td></td><td>156億1千万円</td></tr> </table>	救護員数	7,792人 (常備救護班要員を含む)	常備救護班	485班 4,954人	無線局	3,184局	救護車両	1,829台	赤十字飛行隊(特殊奉仕団)	103人	災害における救護員出勤数 (令和3年度)	1,690人	救護物資配分数(毛布・安眠セット・緊急セット) (令和3年度)	13,297個	令和3年度取扱義援金額 (令和4年3月31日現在)	20億8,599万2,926円	施設数			病 院	診 療 所	5	老人保健施設	5	介護医療院	5	病 床 総 数 35,028床 (令和4年3月31日現在)			総患者数 (令和3年度)		1日平均	入 院	956万人	2.6万人	外 来	1,514万人	6.2万人	施設数			地域血液センター	47	ブロック血液センター 7	附属施設	170	附属施設(製造所) 4	(献血ルーム116を含む)		分室 1	献血者数 (令和3年度)		供給本数 (令和3年度)	成分献血 164万人	輸 血 用 製 剤	1,725万本	400mL 献血 328万人	車両台数(令和4年3月31日現在)		200mL 献血 12万人	献 血 連 搬 車	854台	計 505万人	移 動 採 血 車	278台	児 童 福 祉 施 設 数 (定員)			乳児院	8 (291)	医療型障害児入所施設 3 (286)	保育所	3 (368)		児童養護施設	1 (40)		老 人 福 祉 施 設 数 (定員)			特別養護老人ホーム(併設ケアハウス20人を含む) 8(773)			障害者福祉施設数(定員)	複 合 型 施 設	1 (定員)	障害者支援施設 1(50)	特別養護老人ホーム	(110)	視聴覚障害者情報提供施設 2	介護老人保健施設	(100)	補装具製作施設 1	高齢者グループホーム	(18)		障害者支援施設	(10)	職 員 数		本社 (1)	536人	支部 (47)	696人	医療事業 (118)	59,356人	血液事業 (229)	5,849人	社会福祉事業 (28)	1,137人	計	67,574人	一 般 会 計	本 社	200億4千万円		支 部	198億7千万円	医 療 施 設 特 別 会 計		1兆1,515億9千万円	血 液 事 業 特 別 会 計		1,612億6千万円	社 会 福 祉 施 設 特 別 会 計		156億1千万円	
幼稚園・保育所	1,784校	149,352人																																																																																																																																																																																																																												
小 学 校	7,076校	1,953,430人																																																																																																																																																																																																																												
中 学 校	3,495校	978,908人																																																																																																																																																																																																																												
高 等 学 校	1,772校	361,188人																																																																																																																																																																																																																												
特 別 支 援 学 校	203校	21,097人																																																																																																																																																																																																																												
そ の 他	111校	28,678人																																																																																																																																																																																																																												
計	14,441校	3,492,653人																																																																																																																																																																																																																												
指 導 者	243,861人																																																																																																																																																																																																																													
地域赤十字奉仕団	2,107団	1,097,423人																																																																																																																																																																																																																												
青年赤十字奉仕団	149団	5,387人																																																																																																																																																																																																																												
特殊赤十字奉仕団	630団	29,324人																																																																																																																																																																																																																												
個人ボランティア等	-	12,000人																																																																																																																																																																																																																												
計	2,886団	1,144,134人																																																																																																																																																																																																																												
	資格登録者数 (令和4年3月31日現在)		受講者数 (令和3年度)																																																																																																																																																																																																																											
	指 導 者	救 急 員 等																																																																																																																																																																																																																												
救急法基礎講習	10,806人	240,118人	19,580人																																																																																																																																																																																																																											
救 急 法	6,863人	132,089人	193,142人																																																																																																																																																																																																																											
水 上 安 全 法	1,486人	10,330人	18,813人																																																																																																																																																																																																																											
雪 上 安 全 法	212人	1,001人	125人																																																																																																																																																																																																																											
幼 児 安 全 法	2,245人	19,598人	34,204人																																																																																																																																																																																																																											
健康生活支援講習	1,716人	14,076人	20,051人																																																																																																																																																																																																																											
計	23,328人	417,212人	285,915人																																																																																																																																																																																																																											
施設数	一 学 年 養 成 定 員																																																																																																																																																																																																																													
大学 (大学院併設)	看護師 17校 1,195人																																																																																																																																																																																																																													
短期大学	助産師 6校 88人																																																																																																																																																																																																																													
看護専門学校	保健師 6校 149人																																																																																																																																																																																																																													
助産師学校	幹部看護師 1校 120人																																																																																																																																																																																																																													
幹部看護師研修センター	介護福祉士 1校 30人																																																																																																																																																																																																																													
計	20																																																																																																																																																																																																																													
国際救援・開発要員派遣 (令和3年度)	8カ国 のべ26人																																																																																																																																																																																																																													
国際赤十字・赤新月社連盟出向	3人(スイス、マレーシア)																																																																																																																																																																																																																													
国際活動費 (令和3年度)	42億円																																																																																																																																																																																																																													
救護員数	7,792人 (常備救護班要員を含む)																																																																																																																																																																																																																													
常備救護班	485班 4,954人																																																																																																																																																																																																																													
無線局	3,184局																																																																																																																																																																																																																													
救護車両	1,829台																																																																																																																																																																																																																													
赤十字飛行隊(特殊奉仕団)	103人																																																																																																																																																																																																																													
災害における救護員出勤数 (令和3年度)	1,690人																																																																																																																																																																																																																													
救護物資配分数(毛布・安眠セット・緊急セット) (令和3年度)	13,297個																																																																																																																																																																																																																													
令和3年度取扱義援金額 (令和4年3月31日現在)	20億8,599万2,926円																																																																																																																																																																																																																													
施設数																																																																																																																																																																																																																														
病 院	診 療 所	5																																																																																																																																																																																																																												
	老人保健施設	5																																																																																																																																																																																																																												
	介護医療院	5																																																																																																																																																																																																																												
病 床 総 数 35,028床 (令和4年3月31日現在)																																																																																																																																																																																																																														
総患者数 (令和3年度)		1日平均																																																																																																																																																																																																																												
入 院	956万人	2.6万人																																																																																																																																																																																																																												
外 来	1,514万人	6.2万人																																																																																																																																																																																																																												
施設数																																																																																																																																																																																																																														
地域血液センター	47	ブロック血液センター 7																																																																																																																																																																																																																												
附属施設	170	附属施設(製造所) 4																																																																																																																																																																																																																												
(献血ルーム116を含む)		分室 1																																																																																																																																																																																																																												
献血者数 (令和3年度)		供給本数 (令和3年度)																																																																																																																																																																																																																												
成分献血 164万人	輸 血 用 製 剤	1,725万本																																																																																																																																																																																																																												
400mL 献血 328万人	車両台数(令和4年3月31日現在)																																																																																																																																																																																																																													
200mL 献血 12万人	献 血 連 搬 車	854台																																																																																																																																																																																																																												
計 505万人	移 動 採 血 車	278台																																																																																																																																																																																																																												
児 童 福 祉 施 設 数 (定員)																																																																																																																																																																																																																														
乳児院	8 (291)	医療型障害児入所施設 3 (286)																																																																																																																																																																																																																												
保育所	3 (368)																																																																																																																																																																																																																													
児童養護施設	1 (40)																																																																																																																																																																																																																													
老 人 福 祉 施 設 数 (定員)																																																																																																																																																																																																																														
特別養護老人ホーム(併設ケアハウス20人を含む) 8(773)																																																																																																																																																																																																																														
障害者福祉施設数(定員)	複 合 型 施 設	1 (定員)																																																																																																																																																																																																																												
障害者支援施設 1(50)	特別養護老人ホーム	(110)																																																																																																																																																																																																																												
視聴覚障害者情報提供施設 2	介護老人保健施設	(100)																																																																																																																																																																																																																												
補装具製作施設 1	高齢者グループホーム	(18)																																																																																																																																																																																																																												
	障害者支援施設	(10)																																																																																																																																																																																																																												
職 員 数																																																																																																																																																																																																																														
本社 (1)	536人																																																																																																																																																																																																																													
支部 (47)	696人																																																																																																																																																																																																																													
医療事業 (118)	59,356人																																																																																																																																																																																																																													
血液事業 (229)	5,849人																																																																																																																																																																																																																													
社会福祉事業 (28)	1,137人																																																																																																																																																																																																																													
計	67,574人																																																																																																																																																																																																																													
一 般 会 計	本 社	200億4千万円																																																																																																																																																																																																																												
	支 部	198億7千万円																																																																																																																																																																																																																												
医 療 施 設 特 別 会 計		1兆1,515億9千万円																																																																																																																																																																																																																												
血 液 事 業 特 別 会 計		1,612億6千万円																																																																																																																																																																																																																												
社 会 福 祉 施 設 特 別 会 計		156億1千万円																																																																																																																																																																																																																												

(特に断りのない統計数字等は、令和4年4月1日現在)

用語解説

(令和5年4月1日現在)

代議員会

本社における議決機関。各支部の会員の中から選出された 223 人の代議員で構成されている。

評議員会

支部における審議機関。各地区・分区の会員の中から選出された 32 人の評議員で構成されている。

会員・協力会員

赤十字の理念や活動にご賛同いただき、毎年継続して 2,000 円以上(会費という)ご支援いただける方を「会員」、500 円以上 2,000 円未満(会費という)のご支援をいただける方を「協力会員」と呼んでいます。個人・法人を問わず、どなたでも「会員」、「協力会員」になることができます。

有功章

多額の会費を納めた個人・法人又は団体及び赤十字の業務について特別な功労があった個人・法人又は団体に対し、日本赤十字社有功章等贈与規則に基づき贈られる表彰。銀色(ぎんしょく)と金色(きんしょく)があり、金色有功章は最高の栄誉章とされている。

有功会

日本赤十字社の社旨に賛同し多額の金品を拠出し、あるいは功労により有功章を贈られた会員で構成する任意団体。

赤十字奉仕団

赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々によって結成されたボランティア組織。

青少年赤十字(Junior Red Cross : JRC)

将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら作り上げることを目的とした事業。

RCY(Red Cross Youth : 青年赤十字)とともに世界共通。

リーダーシップ・トレーニングセンター

合宿生活を通じ、青少年赤十字精神と奉仕活動を学ぶリーダー養成研修会。

国際赤十字

赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社・赤新月社の総称。

赤十字国際委員会 (International Committee of the Red Cross : ICRC)

戦時救護事業の中心機関で、中立を保つことができるよう委員は永世中立国のスイス人で構成されている。ジュネーブに本部を置く。

国際赤十字・赤新月社連盟 (International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies : IFRC)

平時における赤十字事業の中心となる各国赤十字社の国際的連合体。最高議決機関は通常2年ごとに開催される総会。本社所在地ジュネーブ。

各国赤十字社・赤新月社

各々の国における人道的事業の実施機関。使用する標章の違いから、赤十字社と赤新月社の2種の呼称があるが、権利・義務、役割等は全く同じ。令和2年4月1日現在で192社。

赤十字・赤新月国際会議

国際赤十字・赤新月運動の最高議決機関。赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国の赤十字社及びジュネーブ条約加入国政府の代表によって構成され、原則として4年ごとに開催される。それぞれの国の赤十字社代表と政府代表等が一票ずつの投票権をもっている。

ジュネーブ条約

赤十字の目的を達成するには国家間の取り決めが必要で、戦場で負傷した兵士を敵、味方の区別なく救助することとし、救助する人たちの活動の安全保障をするために1864年成立した条約。赤十字条約とも国際人道法ともいわれる。